

aprilia製品をお選びいただきありがとうございます。

このマニュアルは、車両を正しく安全に楽しんでいただくために作成されました。初めて運転される前にこのマニュアルをよくお読みください。本書には車両を使用するために必要な情報やヒント、および注意事項が含まれています。また車両の仕様と装備も詳しく解説されており、これをご覧になればaprilia製品をお選びになったことに満足していただけるでしょう。車両の特徴を理解して長くお使いいただくためにも、本書のアドバイスをとお守りください。このマニュアルは車体構成の一部とみなされ、中古販売の際にも車体とともに販売されます。

SPORTCITY 250 i. e.



このマニュアルには、車両の使用方法が分かりやすく述べられています。メンテナンス作業の説明や、aprilia正規代理店またはワークショップに依頼していただく定期点検についても記載されています。本書には簡単な修理の方法も述べられていますが、特殊工具や専門知識を必要とする修理については詳しく記述されておりません。そのような修理が必要な場合は、aprilia正規代理店またはワークショップにご依頼ください。



ライダーの安全のために

これらの警告事項を厳守しない場合、大きな危険をもたらす危険性があります。



環境保護のために

自然環境に配慮しながらモーターサイクルを使用するための事項が記載されています。



車両保護のために

これらの警告事項を厳守しない場合、重大な損傷をもたらすだけでなく、保証対象外になります。

上記の注意事項は大変重要です。これらは本書の中でも特に注意して読むべき箇所を示すために使われます。それぞれの記号は重要度をすぐに見分けられるように、ご覧のような特定のシンボルで表現されています。エンジンを始動する前に、このマニュアル（特に“安全運転のために”の章）を注意深くお読みください。ライダーと周囲の人の安全は、ライダーの反応の速さや敏捷性によってのみ守られるのではなく、車両とその能力をどれだけご存知であるか、安全運転のルールに関する知識によっても左右されます。安全のために、車両についてよく理解して安全運転を心がけ、路上での運転をマスターしてください。重要 このマニュアルは車体構成の一部とみなされ、中古販売の際にも車体とともに販売されます。

SPORTCITY 250

i. e.



目次

目次

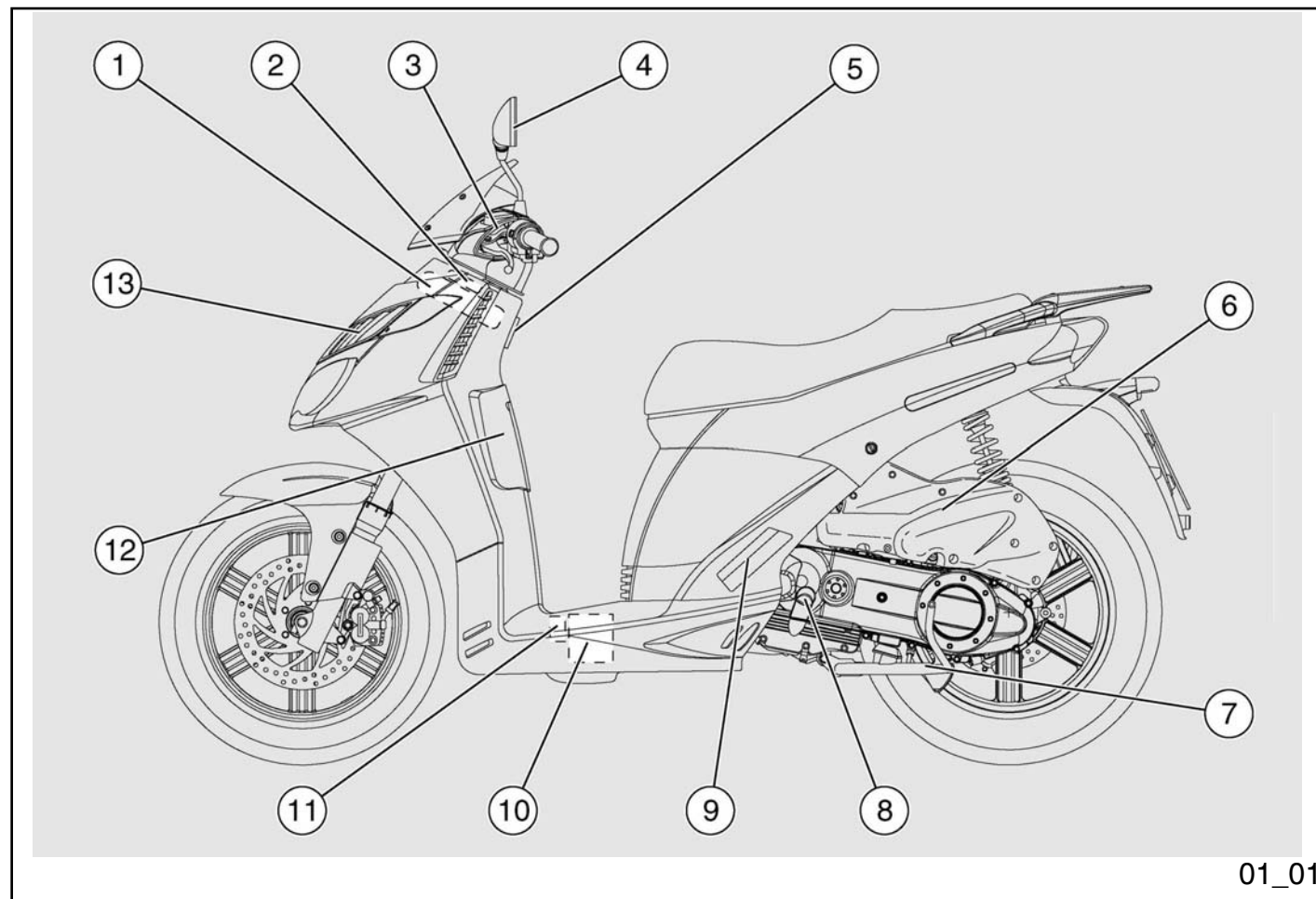
章 01	車両
章 02	用途
章 03	メンテナンス
章 04	諸元
章 05	メンテナンススケジュール
章 06	専用フィッティング

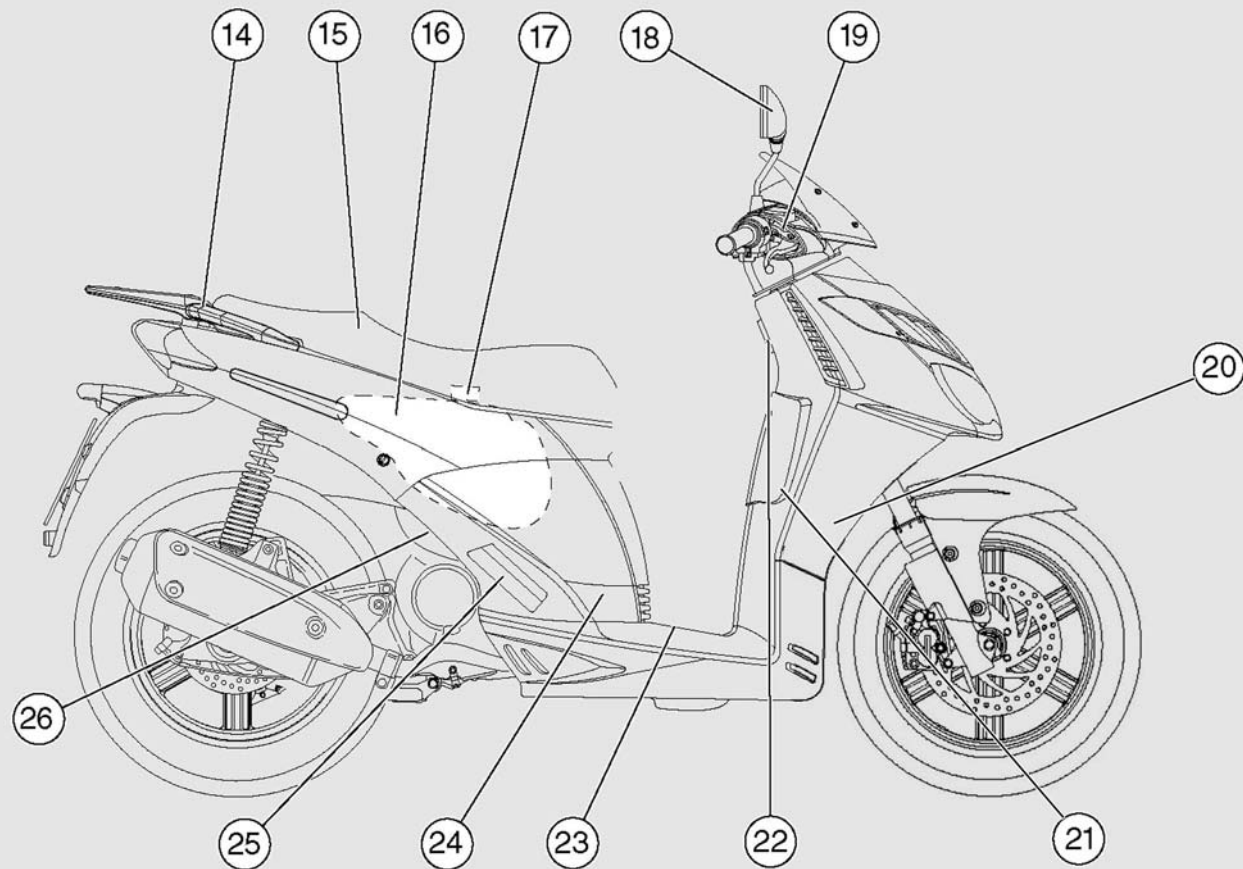
SPORTCITY 250

i. e.

The Aprilia logo, consisting of the word "aprilia" in white lowercase letters on a red rectangular background.

章 01
車両





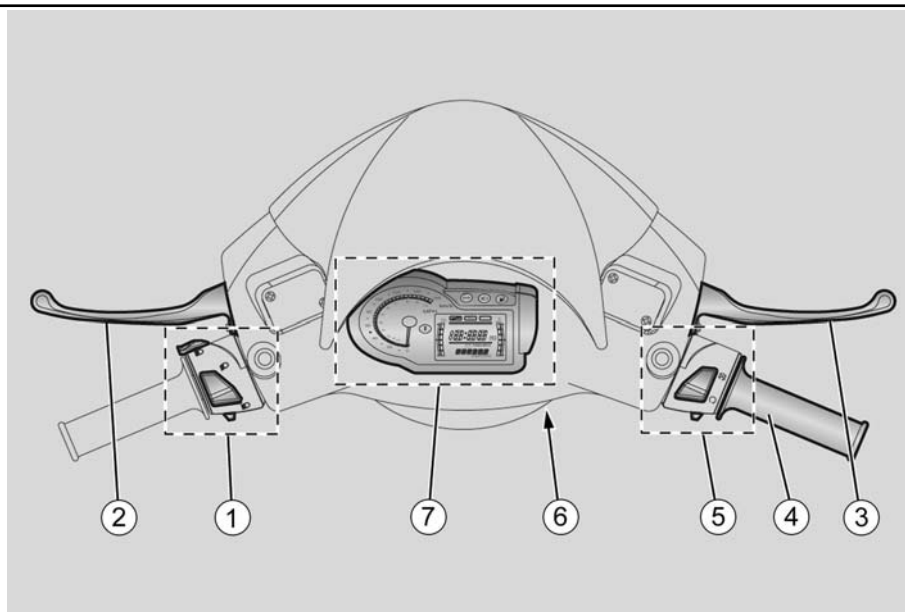
01_02

主要コンポーネントの位置 (01_01, 01_02)

各部名称：

1. エキスパンションタンク
2. 冷却液エキスパンションタンクキャップ
3. リアブレーキオイルタンク
4. 左バックミラー
5. バッグフック
6. エアフィルター
7. センタースタンド
8. エンジンオイル注油口キャップ
9. 左パッセンジャーフットレスト
10. バッテリー
11. ヒューズケース
12. フレームナンバー
13. フロントフェアリングパネル
14. パッセンジャー用クラブバー
15. シート
16. 燃料タンク
17. 燃料タンクキャップ
18. 右バックミラー
19. フロントブレーキオイルタンク
20. 警告ホーン
21. 小物入れトランク
22. イグニッションスイッチ／ステアリングロック
23. バッテリーケースカバー

- 24. スパークプラグ
- 25. 右パッセンジャーフットレスト
- 26. 盗難防止フック (aprilia "Body-Guard" ケーブル用オプション)

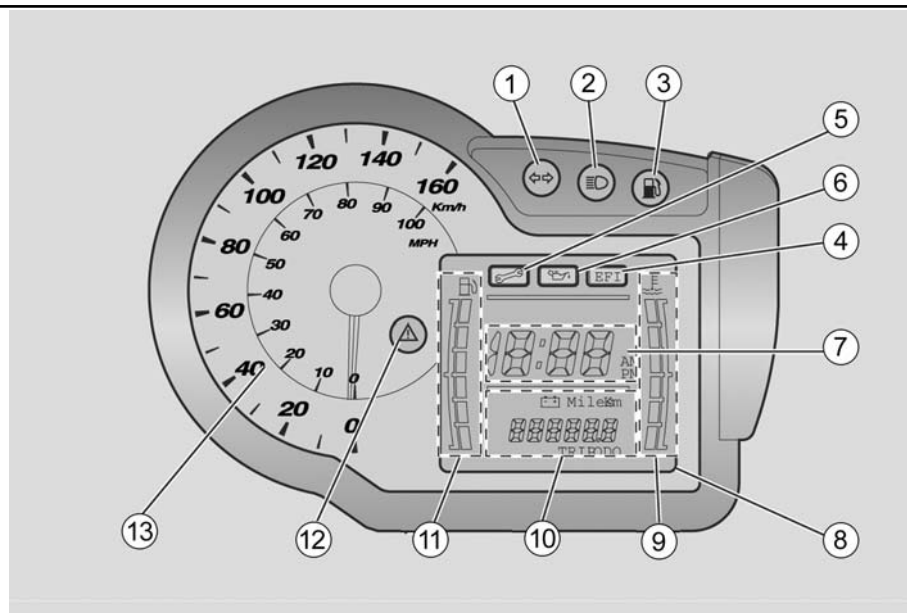


01_03

ダッシュボード (01_03)

各部名称

1. ハンドル左側のエレクトリックコントロール
2. リアブレーキレバー
3. フロントブレーキレバー
4. スロットルグリップ
5. ハンドル右側のエレクトリックコントロール
6. イグニッションスイッチ／ステアリングロック (ON - OFF - LOCK)
7. 計器および表示灯類



01_04

アナログ式インストルメントパネル (01_04)

各部名称

1. ターンインジケータ表示灯 グリーン
2. ハイビーム表示灯 ブルー
3. 燃料警告灯 オレンジ
4. EFI警告灯
5. サービス時期インジケータ
6. エンジンオイル警告灯

7. デジタル時計
8. マルチ機能デジタルコンピューター
9. 冷却液温度インジケーター
10. マルチ機能インジケーター：オドメーター（ODO）／トリップメーター（TRIP）／バッテリー電圧
11. 燃料計
12. 警告ランプ レッド
13. スピードメーター

メーターパネルと計器の説明

重要

キーをONにすると、すべての表示灯と警告灯、メーターパネルライト、デジタルディスプレイのすべてのインジケーターが、機能点検のために3秒間点灯します。

ターンインジケーター表示灯《1》

右または左ウィンカーの作動時に点滅します。

エンジンオイル警告灯《6》

エンジンオイルの油圧が低い時に点灯します。その場合、直ちにエンジンを停止し、aprilia正規代理店にご相談ください。

スピードメーター “13”

走行速度を示します。

ハイビーム表示灯 “2”

ハイビーム点灯時やパッシングライト点灯時に点灯します。

燃料警告灯《3》

タンク内の燃料が1.5リットルになると点灯します。

点灯した場合は、できるだけ早く燃料を補給してください。

燃料計《11》

タンク内の概算の燃料残量を示します。

デジタル時計 “7”

現時刻を表示します。

冷却液温度インジケータ “9”

エンジン冷却液の概算温度を示します。最初の印が点灯すると、発進するために十分な温度になった事を示します。針が中央付近にある場合は正常な温度です。すべての印が点灯した場合はエンジンを停止し、冷却液のレベルをチェックします。

注意



冷却液温度が許容値を超えた場合には、エンジンに重大な損傷を与えることがあります。

警告ランプ《12》

数値が許容値以外であるなど、何らかの異常をセンサーが読み取ると、デジタルディスプレイ

イ上のアイコンと共に点灯します。点灯した場合には異常個所を見つけ、対処してください。

サービス時期インジケータ―《5》

定期点検時期が近づくと点灯します。

EFI（エレクトロニックフューエルインジェクション）警告灯《4》

イグニッションスイッチを《ON》の位置にしてエンジンを始動しない状態で、インジェクションシステムの機能チェックのために3秒間点灯します。エンジンを始動するとすぐに警告灯は消灯します。

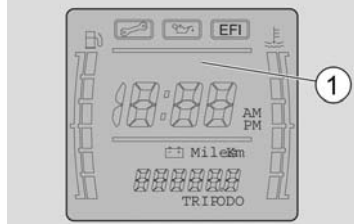
注意



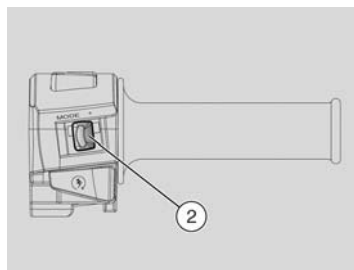
エンジン作動中にこの警告灯が点灯する場合は、電子制御式燃料噴射装置が故障していることを示しています。その場合、直ちにエンジンを停止し、aprilia正規代理店にご相談ください。

マルチ機能インジケータ―《10》

総走行距離（ODO）、区間走行距離（TRIP）またはバッテリー電圧を表示します。



01_05



01_06

デジタル・ディスプレイ (01_05, 01_06)

マルチ機能デジタルコンピューター

マルチ機能インジケーターの機能

ハンドルバー右側にあるMODEボタン《2》で数々の機能を選択する事が出来ます：時計の設定、オドメーター (ODO)、トリップメーター (TRIP)、バッテリー電圧値、トリップメーターのリセット。

オドメーター (ODO)

メーターパネルが点いた時点で、マルチ機能ディスプレイ《1》上にオドメーター (ODO) 機能が表示されます。

トリップメーター (TRIP)

オドメーター機能 (ODO) が表示されている状態からMODEボタン《2》を1回押すと、トリップメーター機能 (TRIP) が表示されます。数値をリセットするには3秒以上MODEボタン《2》を押し続けます。

バッテリー電圧

オドメーター機能が表示されている状態からMODEボタン《2》を2回押すと、バッテリー電圧機能が表示されます。

kmからmi (マイル) 表示への変換

マルチ機能ディスプレイ《1》上にバッテリー電圧が表示されている状態から、MODEボタン《2》を10秒以上押し続けると、キロメートル (km) 表示からマイル (mi) 表示に変換する事が出来ます。ボタンを押している最中に、現在使用されている単位が点滅します。10秒以内にボタンを放すと変換は実行されません。

時計の設定

重要

安全のため、時刻の調整は停車状態の時のみ実行してください。

MODEボタン《2》を3秒以上押し続けます。時と分表示間の点線が点滅し始めます。

MODEボタン《2》を押すごとに時間の数値が増えます。

MODEボタン《2》を3秒以上押し続けると、分の設定を行えるようになります。MODEボタン《2》を押すごとに分の数値が増えます。

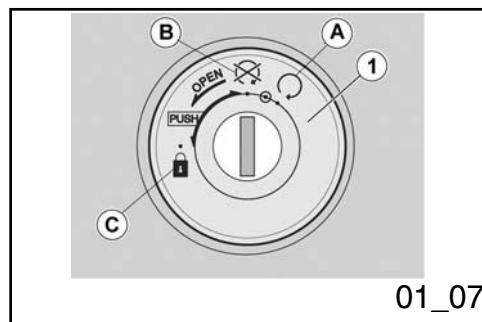
MODEボタン《2》を3 秒以上押すと時間設定に戻ります。3秒間ボタンを押さないでいると自動的に時計設定機能を終了します。

Tasto MODE

MODEボタン《2》を左に押すとメーターパネルの表示が切り換わります。

重要

電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。



キースイッチ (01_07, 01_08)

イグニッションスイッチ《1》は右側のステアリングチューブ付近にあります。

重要

キー《2》は、イグニッションスイッチ／ステアリングロック、シートロック、小物入れトランクの開閉に使用されます。 納車時には計2本のキー（1本はスペアキー）がついています。

重要

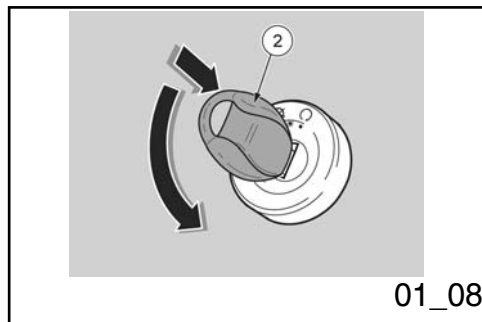
スペアキーは車両から離れた場所に保管してください。

スイッチの位置

ON 《A》: エンジンを始動し、ライト類を点灯することができます。 キー抜き取り不可能。

OFF 《B》: エンジンを始動したり、ライト類を点灯することはできません。 キー抜き取り可能。

LOCK 《C》: ステアリングがロックされています。 エンジンを始動したり、ライト類を点灯することはできません。 キー抜き取り可能。



ハンドルロック

注意

走行中に絶対にキーを“LOCK”の位置に回さないでください。車体のコントロールを失う恐れがあります。

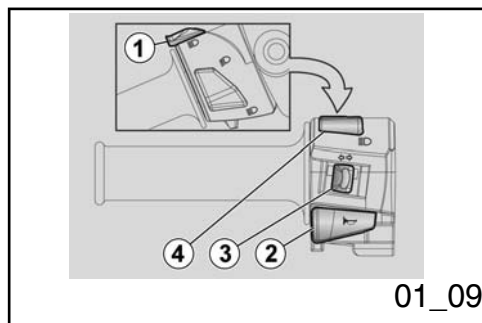
ステアリングをロックするには、

- ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- キー《2》を《OFF》の位置まで回します。

重要

キーとハンドルを同時に回します。

- キー《2》を押し、反時計回りに（左側に）回し、キー《2》が《LOCK》の位置に来るまでハンドルをゆっくり回します。
- キーを引き抜きます。



ターンシグナルランプスイッチ (01_09)

左側にターンするときはスイッチ《3》を左側に動かします。右側にターンするときはスイッチ《3》を右側に動かします。ターンインジケータを停止するにはスイッチ3の中央を押します。

重要

電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。

ホーン

ボタン《2》を押すと、ホーンが鳴ります。

重要

電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。

ライトスイッチ

ディマースイッチ《4》を《A》にセットするとハイビームが点灯します。ディマースイッチを《B》にセットするとロービームが点灯します。

重要

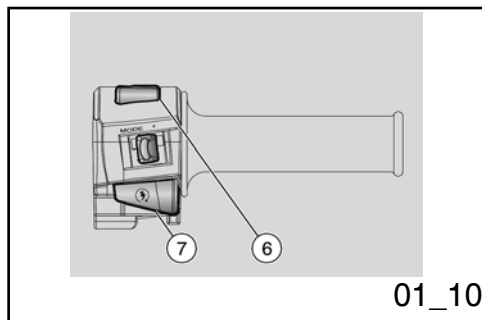
電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。

パッシングスイッチ《1》

パッシングスイッチを押すとハイビームランプが点灯します。

重要

パッシングを停止するにはスイッチ《1》を放します。

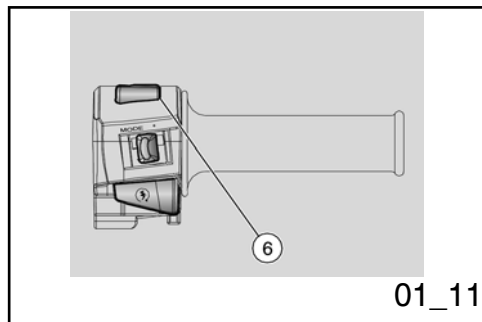


スタータスイッチ (01_10)

スターターボタン“7”を押すと、スターターモーターがエンジンを始動させます。

重要

電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。



01_11

キルスイッチ (01_11)

注意



走行中には絶対にこのエンジンキルスイッチ《6》を操作しないでください。

重要

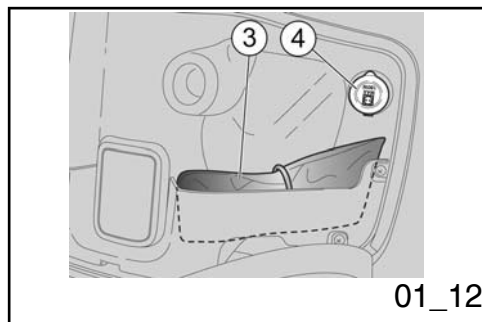
電装品はイグニッションキーが“ON”の位置にないと機能しません。

エンジンキルスイッチ《6》は安全のためと緊急時に使用します。

このスイッチ《6》が《ON》の位置にあるときはエンジンを始動できます；《OFF》にセットされるとエンジンは停止します。

注意

エンジン停止時にイグニッションスイッチが“ON”の位置になっている場合、バッテリーが放電することがあります。 エンジンを切って停止した後は、イグニッションスイッチを“OFF”の位置に回してください。



01_12

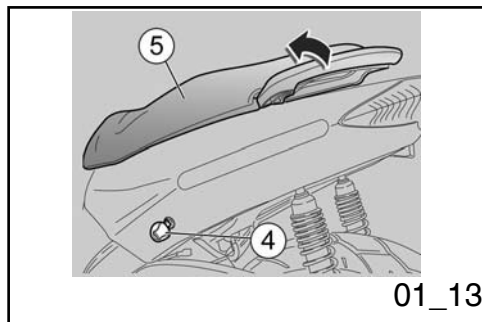
電源ソケット (01_12)

- ヘルメット収納トランクの内側には、12Vの電源プラグ《4》が備えられています。
- このプラグでは180W以内の電化製品が使用できます（携帯電話、点検用ライトなど）。

注意



長時間このソケットを使用すると、バッテリーが完全に放電してしまう場合があります。



01_13

シートを開けます (01_13)

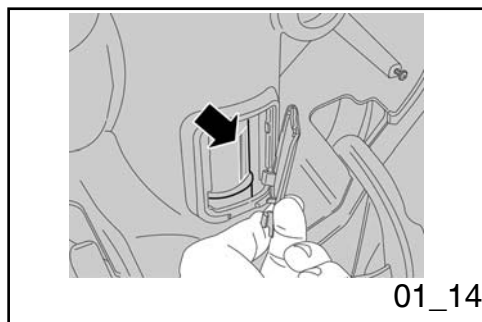
シートロックの外し方：

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- シートロックの穴にキーを差し込みます。
- キー《4》を反時計回りに回します。
- シート《5》を持ち上げます。
- シートをロックするにはシートを下げ、ロックが掛かるまで軽く押します。

注意



走行前に、シートが正しい位置にロックされているか確認してください。



01_14

識別 (01_14, 01_15)

このマニュアルの指定の欄に、フレームナンバーとエンジンナンバーを書き留めてください。

スペアパーツをオーダーする際に、フレームナンバーを使用する場合があります。

重要

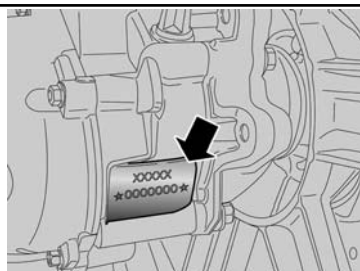
車体認識番号を変更すると、法により厳しく処罰される場合があります。特にフレームナンバーを変更すると、その時点で保証が無効になります。

フレームナンバー

フレームナンバーは、フレームのセンターチューブに刻印されています。読み取るには図のキャップを取り外す必要があります。

フレームナンバー：

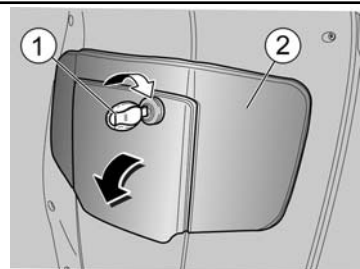
エンジンナンバー



01_15

エンジンナンバーは、リアショックアブソーバーの下部サポート付近に刻印されています。

エンジンナンバー :



01_16

フロント・ボックスのオープン (01_16)

ハンドルの下、内側シールドに配置されています。開閉するには :

- ロックの穴にキー《1》を差し込みます。
- キーを時計回りに回し、カバー《2》を開けます。

重要

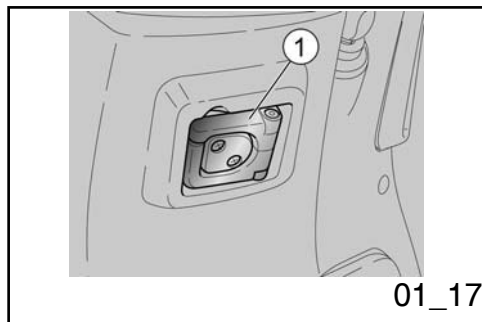
トランクを閉める前に、中にキーを置き忘れていないか確認してください。

カバー《2》を持ち上げ、押して閉めるとロックされます。キーは必要ではありません。

テクニカル仕様

最大積載量

1.5 kg



バッグクリップ (01_17)

バッグフック《1》は内側シールドのフロント部分にあります。

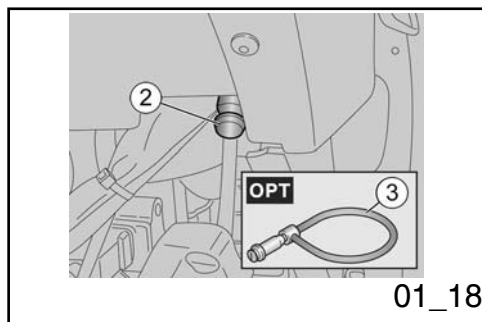
注意



車両の操作や足の動きを妨げないようにするため、フックにかさばる荷物を掛けないでください。

テクニカル仕様

最大積載量
1.5 kg



Gancio antifurto (01_18)

盗難防止フック《2》は車両の右側、パッセンジャー用フットレストの近くにありますが。

車両の盗難防止のため、aprilia “Body Guard” ケーブル《3》（オプション）の使用を推奨します（aprilia正規代理店にて購入可能）。

注意

このフックは停車時の盗難防止用のみに設計されたものですので、車体を持ち上げるのに使ったり、他の用途に使ったりしないで下さい。

SPORTCITY 250

i. e.

The Aprilia logo, consisting of the word "aprilia" in white lowercase letters on a red rectangular background.

章 02
用途

チェック

注意



正しく安全な運転のために、走行前に必ず車両の点検を表に記したように行ってください。この点検をしないで走行した場合には、重大な人身傷害や車両の損傷を引き起こす危険があります。

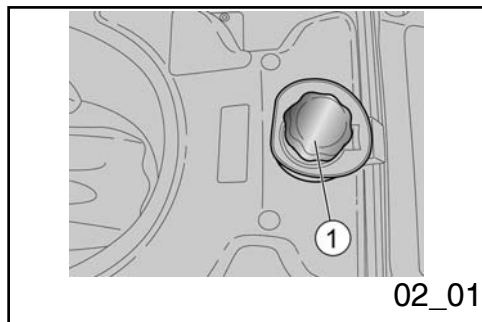
操作方法がわからない場合や、故障が検知された、または故障の疑いがある場合は、お気軽にaprilia正規代理店にご相談ください。

点検時間は長くかかりません。結果として安全性が向上します。

走行前の点検

特徴	概要/数値
フロントおよびリアディスクブレーキ	ブレーキの効き具合、ブレーキレバーの遊び、ブレーキオイル量、液漏れの有無を点検。ブレーキパッドの摩耗を点検。必要に応じてブレーキオイルを補充。
ブレーキレバー	スムーズに作動することを確認。 必要に応じてジョイント部に潤滑。
スロットル	ハンドルの角度に関わらずスロットルグリップが全開から全閉までスムーズに回転することを確認。 必要に応じて調整や潤滑。
ホイール／タイヤ	タイヤが良好な状態であるかを点検。タイヤの空気圧、摩耗、損傷

	を点検。
ステアリング	回転が均一でスムーズであり、隙間や緩みがないことを点検。
センタースタンド	<p>スムーズに動き、スプリングを外したときに通常のポジションに戻ることを確認。</p> <p>必要に応じてカップリングとジョイント部に潤滑。</p>
組み付け部品	<p>クランプ部品が緩んでいないかを点検。</p> <p>必要に応じてクランプ部品の調整または締め付け。</p>
燃料タンク	<p>冷却液の量を点検し、必要に応じて補充。</p> <p>系統内に漏れや障害物がないかを点検。</p> <p>燃料タンクキャップがしっかり閉じていることを確認。</p>
冷却液	エキスパンションタンクの液レベルが“MIN”と“MAX”マークの間にあること。
エンジンキルスイッチ	正常に機能することを確認。
ライト類、インジケータ、インジェクションランプ、警告ホーン、その他の電装パーツ	警告ホーンやライトが正常に作動することを確認。故障の場合は電球を交換するか、または修理を行う。
インジェクションポンプ	正常に機能することを確認。



給油 (02_01)

注意



内燃機関に利用される燃料は非常に引火しやすく、特定の条件下では爆発する恐れがあります。

燃料補給やメンテナンスは、換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行ってください。

燃料補給中や燃料ガスが残っている場所では絶対に煙草を吸わないでください。引火や爆発を避けるため、火気、火花、熱源などに燃料を近付けないでください。

注入口から燃料がこぼれないようにしてください。エンジンの熱くなった部分に触れると引火する恐れがあります。万一燃料が少しでもこぼれた場合には、エンジンを始動させる前に、その部分が完全に乾いているか確認してください。

燃料は暑さや太陽熱で膨張します。そのため補給時には注意し、タンクから溢れるほど一杯には入れないでください。

燃料補給後はキャップをしっかり締めてください。燃料が皮膚に触れないように注意してください。ガスを吸い込んだり、燃料を飲み込んだりしないようにしてください。また、ホースなどを使って容器を移し換えることもやめてください。

注意



環境保護のため燃料は適切に処理してください。

注意



子供の手の届かない場所に保管してください

燃料はプレミアムガソリン（4 Stars UK）、または最低オクタン価95（NORM）および85（NOMM）の無鉛ガソリンを使用してください。

燃料タンクキャップを外すには、

- シートを持ち上げます。
- 燃料タンクキャップ《1》を回して開けます。

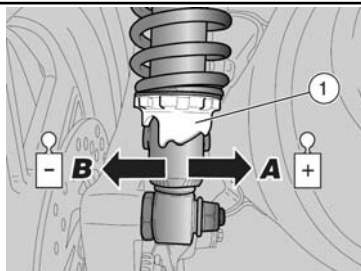
テクニカル仕様

燃料タンク容量（予備を含む）：

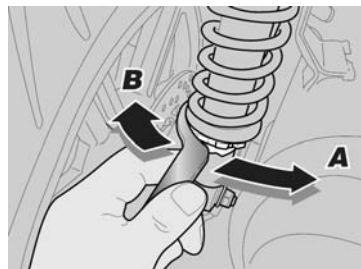
9 l

燃料タンクの予備：

~ 1.5 l



02_02



02_03

ショックアブソーバーのセッティング (02_02, 02_03)

フロントおよびリアサスペンションの点検

注意



リアサスペンションのオイル交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。正確で迅速なサービスをお約束します。

フロントサスペンションのオイルとオイルシールを、以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。

リアサスペンションの調整

リアサスペンションは、複動式（圧側／伸側ダンピング）のショックアブソーバーで構成され、エンジンにサイレントブロックで固定されています。

ショックアブソーバーにはスプリングプリロードを調整するためのリングナットが備わります。メーカーでは、体重約70kgのライダーに合わせて標準サスペンション調整を行っています。体重が異なる場合は、（同梱されている）フックスパナを使用してリングナット“1”

を回し、適切な設定にしてください。

- リングナット“1”を回して、ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。

重要

左右のリアショックアブソーバーを同じ設定にしてください。

リングナットをAの方向に回します： スプリングプリロードが増加します。 サスペンションは非常に硬い状態です。 平らな道や一般の道路、パッセンジャーを乗せて走行するのに適しています。

リングナットをBの方向に回します： スプリングプリロードが減少します。 サスペンションは非常に柔らかい状態です。 起伏のある道路やパッセンジャーを乗せずに走行するのに適しています。

慣らし運転

注意

最初の1,000 km走行後、ライダーと周囲の人の怪我や車両の損傷を防ぐために、定期点検管理表に記載された点検（排気量別）を行ってください。

エンジンの慣らし運転は、エンジンの寿命を延ばし、正常な作動を約束するために必要不可欠です。

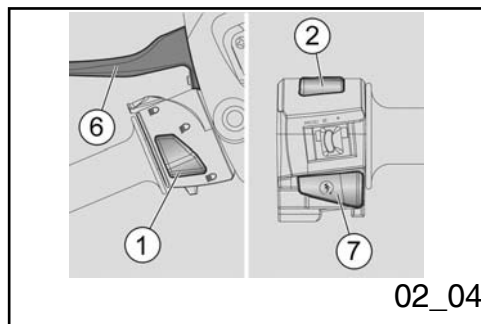
できれば、エンジン、サスペンション、ブレーキが効果的に機能するかをテストするために、カーブや傾斜の多い道を走行してください。

重要

最初の500 kmの慣らし運転が終了したら、速度および加速に関して車両の最高のパフォーマンスを発揮できます。

以下の注意をお守りください。

- 慣らし運転中もその後も、低回転でスロットルを一杯まで回さないでください。
- 0-100 km 100 kmを過ぎるまでは、ブレーキのかけ方に十分注意して、急ブレーキや長いブレーキは行わないでください。これはブレーキパッドの摩擦材をブレーキディスクに十分に馴染ませるために重要です。
- 0-500 km 500 kmを過ぎるまでは、定められた最高速度の80%以上は出さないでください。
- 長距離を一定のスピードで走らないでください。
- 1,000 kmを過ぎてから段階をおいてスピードを上げていき、徐々に最高速度までもっていきます。



エンジン始動 (02_04, 02_05, 02_06, 02_07, 02_08, 02_09, 02_10)

注意

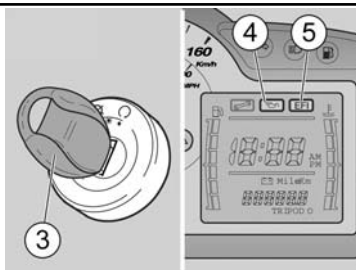


排気ガスには一酸化炭素や、吸い込むと非常に有害な物質が含まれています。密室や十分に換気されていない室内では絶対にエンジンを始動しないでください。

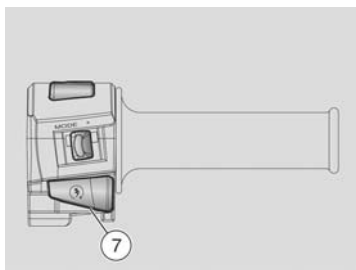
この注意を怠ると、窒息して意識を失ったり、最悪の場合は死に至る危険があります。

始動するために車両にまたがることはしないでください。車両がサイドスタンドで立てるときには、エンジンを始動しないでください。

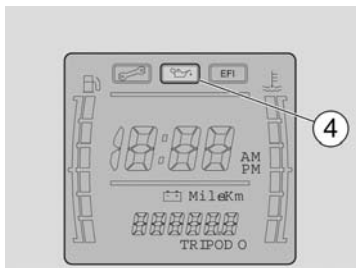
- エンジンを始動するには、車両をセンタースタンドで立てます。
- ディマースイッチ《1》がロービームにセットされていることを確認します。
- エンジンキルスイッチ《2》を《ON》にセットします（国別仕様による）。



02_05



02_06



02_07

- キー《3》を回してイグニッションスイッチを《ON》の位置にします。

注意

ここで、

メーターパネルのエンジンオイル警告灯《4》が点灯し、エンジンが始動するまで点灯し続けます。

メーターパネルのインジェクション（EFI）ライト《5》は、他のインジケーターが消灯した後も3秒間点灯し続けます。

この警告灯が点灯しない場合、または始動してから3秒後に警告灯が消灯しない場合は、aprilia正規代理店にご相談ください。

- フロントまたはリア、少なくともどちらかのブレーキ《6》をかけます。 エンジンが始動しない場合は、スターターリレーに電流が流れていないことが原因です。

重要

車両を長期間使用しなかった場合、長期間未使用後のエンジン始動の手順にしたがってください。

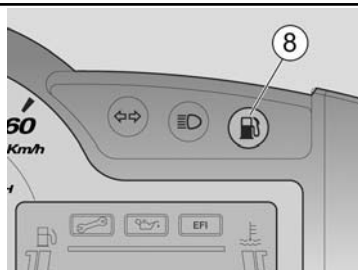
重要

過度のバッテリー消費を防ぐため、5秒間（長期間使用しなかった場合は10秒間）以上スターターボタン《7》を押したままにしないでください。この時間が経過した後もエンジンを始動できない場合は、10秒間待ってから再度スターターボタンを押します。

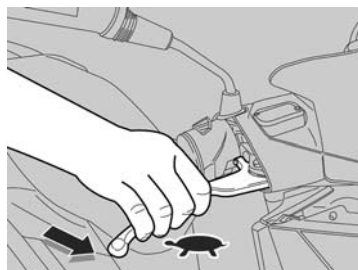
注意



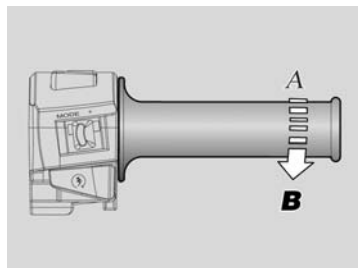
エンジンがすでに作動している場合は、決してスターターボタン《7》を押さないでください。スターターモーターを損傷する恐れがあります。



02_08



02_09



02_10

重要

スロットルグリップを戻した状態でスターターボタン《7》を押します。エンジンが始動したら直ぐに放してください。

注意

エンジンが作動すると、エンジン油圧警告灯“4”は消灯するはずですが、エンジン作動中にこの警告灯が点灯する場合は、オイル系統内の油圧が不足していることを示しています。この場合、エンジンをすぐに停止しaprilia正規ディーラーに連絡してください。エンジンを壊す恐れがあるので、エンジンオイルが不足した状態では決して車両を使用しないでください。

- 発進するまでは少なくとも片方のブレーキレバーをかけ、スロットルを開けないでください。

注意

エンジン冷間時は急発進しないでください。

大気汚染物質の排出と燃費を最小限に抑えるため、最初の数キロ間は速度を抑えて走行して、エンジンを暖めてください。

注意

走行中、メーターパネルの燃料警告灯《8》が点灯した場合、リザーブ燃料が使用されていて、燃料残量が1.5リットルであることを意味します。できる限り早く燃料を補給してください。

注意

パッセンジャーを乗せずに走行するときは、パッセンジャー用フットレストが格納されているか確認してください。運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

パッセンジャーを乗せて走行するときは、運転時のトラブルを避けるために同乗者を適切に誘導してください。

走行前にスタンドが完全に格納されているか確認してください。

発進の方法：

- スロットルを放し、リアブレーキを操作して、車両をスタンドから下ろします。
- 車両にまたがり、安定性を維持するため、少なくとも片足を地面に着けます。
- バックミラーの角度を正しく調整します。

注意



車両を停止した状態で、バックミラーを見てみてください。ミラーの反射面は凸状になっているため、実際よりも物が遠くに見える場合があります。広角視界のこのミラーに慣れていないと、後方の車両との車間距離を測るのが難しくなります。

- ブレーキレバーを放し、スロットルをB方向にゆっくり回すと、車両が発進します。

注意



加速と減速を何度も連続して行わないでください。気付かぬうちに車両のコントロールを失

う場合があります。

ブレーキをかけたり減速する必要がある場合、また一定のブレーキングのために両方のブレーキを操作する必要がある場合は、適切な方法で慎重にブレーキを操作してください。

前後の片方のブレーキのみを操作すると、制動力が大幅に減少し、片方のホイールがロックしてグリップを失う恐れがあります。上り坂で停止する場合は、完全に減速し、前後のブレーキを使用して車体を保持してください。エンジン作動状態で車両を停車させると、変速機の過熱の原因になることがあります。

注意



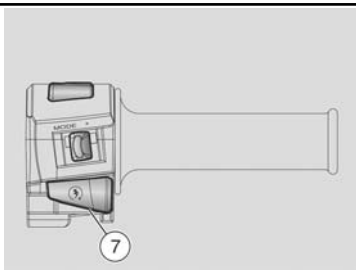
カーブに入る前に減速するかブレーキをかけてください。コーナリング時には控えめな一定の速度で走行するか、わずかに加速させてください。急ブレーキはかけないでください。横滑りの危険が高まります。

下り坂を走行中に連続してブレーキをかけると、ブレーキパッドが過熱してブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキングの際にはエンジンブレーキを優先的に使用してください。下り坂を走行する際、決してエンジンをオフにして走行しないでください。濡れた路面やグリップの悪い路面（雪上、氷上、泥など）を走行する際は、急ブレーキや急激な操作を避けるために、速度を控えめにしてください。急激な操作は、グリップが失われて転倒する原因になります。路上の障害物や路面の変化に注意してください。起伏のある道路、わだち、排水溝、路面にペイントされた道路標示、鉄板などは、雨天時に滑りやすくなることがあります。これらの上は特に注意して走行し、慎重な運転を心がけて、車体をできるだけ傾けないようにしてください。

注意



車線変更や方向転換の際には早めにターンインジケーターで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。車線変更、方向転換した後は直ちにターンインジケーターを消灯してください。他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。雨天時には、大型車からの水しぶきにより視界が妨げられることがあります。また風圧によりハンドルを取られる危険性があります。



02_11

始動性が悪い (02_11)

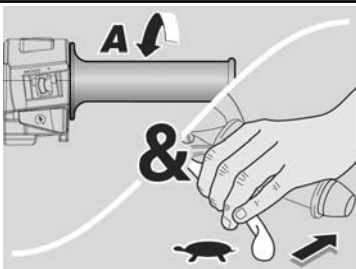
燃料供給システムは、エンジンの状態（温間／冷間）または周囲の温度と気圧に基づいて点火をコントロールすることができます。

長期間未使用後の始動

- 車両を長期間使用していなかった場合は、燃料回路が空になっているため、始動に時間がかかる可能性があります。

この場合は：

- スターターボタン《7》を約10 秒間押します。



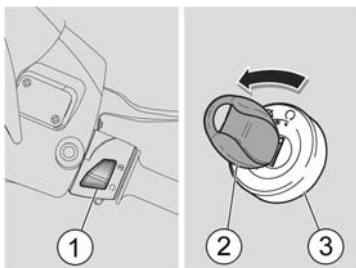
02_12

エンジン停止 (02_12, 02_13)

注意

乱暴なブレーキング、急激な減速、過度のブレーキングはできるだけ避けてください。

- 停止するには、スロットルを戻し（A方向）、徐々にブレーキを操作します。
- 短時間の停止中は、少なくとも片方のブレーキを操作したままにします。



02_13

駐車

注意



転倒を防ぐため、安全で水平な場所に駐車してください。

車体を壁に立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。

車体の特に熱くなっている部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。 エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを差し込んだ状態で放置しないでください。

スタンドを下ろしているときにはシートに座らないでください。

- 車両を停車します。
- エンジンキルスイッチ《1》を《OFF》の位置にします。

注意



エンジン停止時にイグニッションスイッチが“ON”の位置になっている場合、バッテリーが放電することがあります。

- キー《2》を回し、イグニッションスイッチ《3》を《OFF》にします。
- スタンドを使って車両を立てます。

注意

イグニッションスイッチにキーを差し込んだままにしないでください。

重要

この車両の燃料コックは、エンジンが止まると自動的に燃料の供給を遮断しますので、燃料コックを閉める必要はありません。

- ステアリングをロックし、キー《2》を抜き取ります。

キャタライザー付きサイレンサー

注意

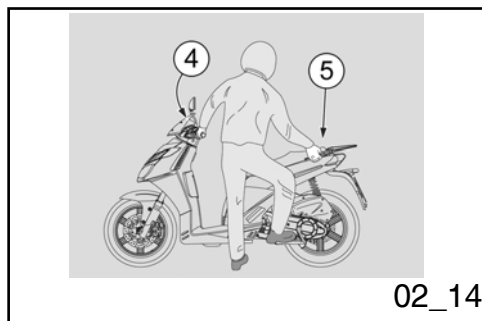


エグゾーストシステムに手を加えないでください。

車両のオーナーは、以下のことが法律で禁止されていることに注意してください。

- 売却前、所有者に配送する前、または、所有者が使用中に、騒音値を調整するための点検、修理、交換以外の目的で、装置や部品を取り外したり、使用できなくする行為。
- 装置や部品を取り外したり、使用できなくした状態で車両を使用すること。

マフラーとマフラーパイプを点検し、錆や穴がなく、エグゾーストシステムが正常に機能するか確認してください。排気騒音がひどくなった場合は、速やかに車両をaprilia正規代理店へお持ちください。



02_14

スタンド (02_14, 02_15)

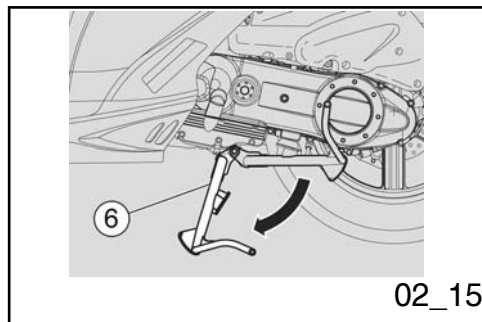
車両をスタンドで立てる

センタースタンド

- ハンドグリップ《4》とパッセンジャー用ハンドグリップ《5》をつかみます。
- スタンドのレバー《6》を押します。

注意

車体が安定しているか確認してください。



盗難防止のためのアドバイス

イグニッションキーは必ずロックから抜き取り、ステアリングロックをかけてください。

車庫や監視のある場所などの安全な場所に駐車してください。

できる限りapriliaの“Body-Guard”ケーブルロックまたは盗難防止装置を使用してください。

すべての車両書類が整っていて、道路税が払われていることを確認してください。

個人情報と電話番号をこのページに記入してください。盗難時に車両を引き取る際に、オーナーであることを確認しやすくなります。

姓：

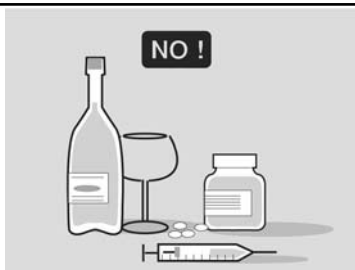
名：

住所：

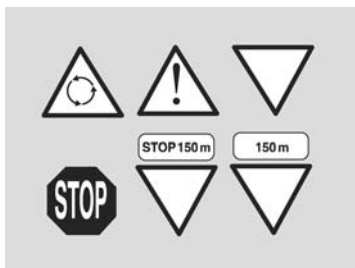
.....

電話番号：

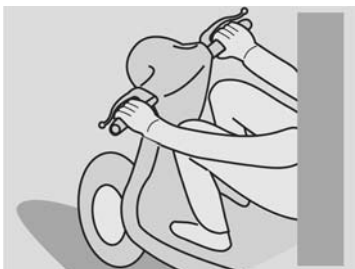
重要： 大抵の場合、盗難にあった車両は、このマニュアルに記載されているデータで識別することができます。



02_16



02_17



02_18

安全運転 (02_16, 02_17, 02_18, 02_19, 02_20, 02_21, 02_22, 02_23, 02_24, 02_25, 02_26, 02_27)

安全のための主なルール

車両を運転するには、すべての法規定に従わなければなりません（運転免許、年齢制限、精神のおよび肉体的な適性、保険、税と料金の支払い、登録、ナンバープレート等）。

車両を完全に熟知するまで、通行がない場所や私有地で車両の運転を練習する必要があります。

医薬品やアルコール、麻薬や向精神薬を服用して運転すると、事故の危険が劇的に高まります。

疲れているときや眠いときには車両を運転しないでください。常に精神のおよび肉体的に安定した状態で走行するようにしてください。

モーターサイクルの事故の主な原因は、使用者の経験不足です。

決して車両を初心者に貸さないでください。そのライダーが安全運転に必要な条件をすべて満たしているか、必ず確認してください。

国や自治体の交通標識や規則を厳密に守ってください。

ライダー自身と周囲の人の安全のため、急で危険な運転はしないでください（前輪を浮かせて走る、速度制限を守らないなど）。また、常に路面や視界の状況などに注意を払ってください。

車両に損傷を与え、コントロールを失う原因となる障害物にはぶつからないようにしてください。

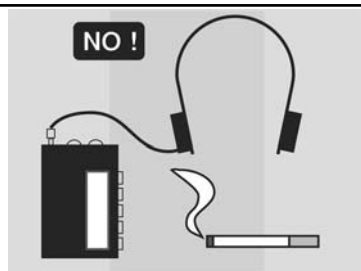
速度を上げるために前方車両のすぐ後ろを走行することはしないでください。

注意

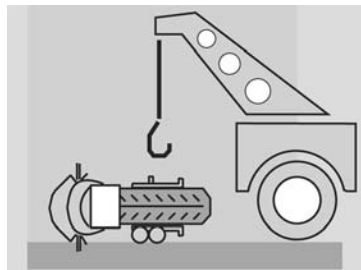


運転中は常に両手でハンドルを握り、両足をフットレストに乗せて正しい運転姿勢を保ってください。

運転中は絶対にシートから腰を上げたり、体を伸ばしたりしないでください。



02_19



02_20



02_21

走行中は常に周囲に注意して、他の人や物、行動（煙草、飲食、読み物など）により気がそれたり影響を受けないようにしてください。

燃料や潤滑油は、“油脂類表”に載っている、この車両に指定されている種類のみを使用してください。燃料やオイル、冷却液が正しい量になっているかを頻繁に点検してください。

事故の場合、または車両の転倒や衝突後は、コントロールレバー、パイプ、ケーブル、ブレーキ系統、車両の主要部品が損傷していないか確認してください。

必要に応じて、特にフレーム、ハンドル、サスペンション、安全に関わるコンポーネント、専門技術者でなければ扱えない装置の点検をaprilia正規代理店に依頼してください。

作業をスムーズにするため、どのような不具合でもエンジニアやメカニックに伝えてください。

安全性に支障をきたすような損傷を受けた場合は、決して車両を運転しないでください。

次のような部品の取り付け位置、傾き、色などを絶対に変更しないでください：ナンバープレート、ターンインジケーター、ライト類、ホーンなど。

車体を改造した場合は正規保証外の扱いになります。

車体を改造したり純正部品を取り外すと、車両の性能が低下することがあり、それが原因で安全性が低下したり、正常に走行できなくなることさえあります。

車両の装備に関して、国や自治体のあらゆる法と規則に従ってください。

特に性能を向上させるための技術的変更を加えないでください。いかなる場合でも車両本来の仕様を変更しないでください。

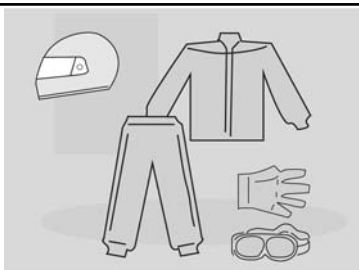
この車両でレースをしないでください。

決してオフロードを走行しないでください。

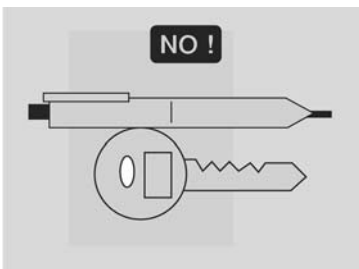
服装

走行前にヘルメットをしっかりと着用してください。ヘルメットが承認された型であり、適切なサイズで損傷がなく、パイザーに汚れのないことを確認してください。

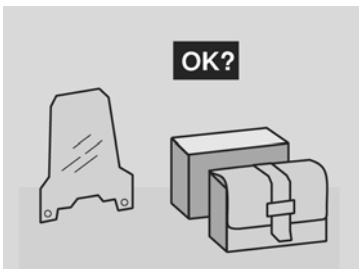
身体を保護する適切な服を着てください。できれば明るい色の反射素材を使用した服を着用してください。そうすることで他のドライバーから見えやすくなるため、衝突の危険が低下し、転倒時にも体が保護されます。



02_22



02_23



02_24

必ず袖や裾の締まったぴったりフィットする服装をしてください。紐やベルト、ネクタイなどを掛けしないでください。これらの物が車両の一部や特殊な動きによって絡まって、安全運転に支障をきたすことのないようにしてください。

ポケットには、キーやペンなどの先の尖った物、ガラス瓶など、転倒の際に危険となるようなものを入れないでください（パッセンジャーも同じ）。

アクセサリ

アクセサリの取り付けと使用に関しては、ユーザー個人が責任を負います。

アクセサリを取り付ける際、警報装置のサイレンやライトを妨げていないか、その正常な作動に悪影響を与えていないか確認してください。また、サスペンションストロークやハンドルの動きを妨げていないか、操作部を妨害していないか、最低地上高とコーナリング時の傾きを小さくしていないか確認してください。

操作部を扱いにくくするようなアクセサリは使用しないでください。緊急時の対応が遅れる原因になります。

フェアリングや大型ウインドシールドを装着すると、特に高速走行時に空気抵抗が増して、車体の安定性を損なう場合があります。

アクセサリがしっかりと車体に固定され、走行中にいかなる危険ももたらさないことを確認してください。

車両の許容電力を上回る電気装備品を追加したり変更しないでください。突然停止したり、警報装置のサイレンやライトの作動に必要な電力が不足する原因になります。

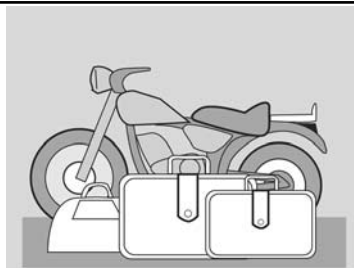
apriliaはオリジナルのアクセサリ（aprilia純正アクセサリ）の使用をお勧めします。

積載

車両に負荷をかけ過ぎないようにしてください。荷物はできるだけ車両の重心の近くに固定して、バランス良く荷重を左右均等に配分してください。特に長距離を走行するときには、荷物が車両にしっかりと固定されているか点検してください。

ハンドル、マッドガードやフォークには、突き出た物、かさばる物、重い物、危険な物などを掛けしないでください。コーナリング性能が悪化し、操縦性も低下します。

車両の横から突き出る荷物は積載しないでください。他の人や物に当たって車両のコントロ



02_25

ールを失う可能性があります。

車両にしっかりと固定されない荷物は運搬しないでください。

ラゲッジラックから突き出る荷物、警報装置のサイレンやライトを妨げる荷物は積載しないでください。

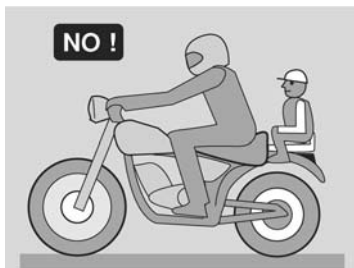
決して動物やお子様を小物入れトランクやラゲッジラックに乗せて走行しないでください。

ラゲッジラックの最大積載量を超えないようにしてください。

車両に負荷をかけ過ぎると、安定性が損なわれて操縦性が低下する場合があります。



02_26



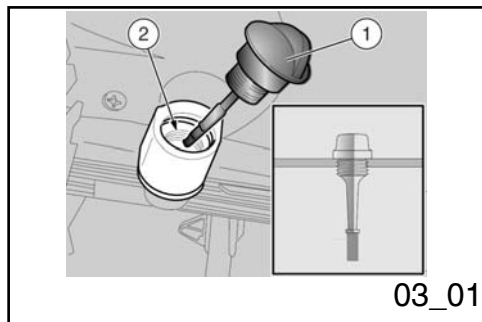
02_27

SPORTCITY 250

i. e.



章 03
メンテナンス



エンジンオイル・レベル

エンジンオイルのレベルを定期点検整備表に従ってチェックしてください。

注意



オイルを毎日使用したり、長い間使用したりすると、肌に危害を及ぼす恐れがあります。

オイルを取り扱った後は、丁寧に手を洗ってください。

メンテナンス作業を行う際は、ゴム手袋の着用をお薦めします。

子供の手の届かない場所に保管してください

環境保護のためオイルは適切に処理してください。

注意



慎重に作業してください。

オイルを撒き散らさないようにしてください。

コンポーネントや作業場とその周辺を汚さないように注意してください。

オイルが付着した場合は丁寧に洗い流してください。

オイル漏れや不具合のある場合は、車両をaprilia正規代理店にお持ちください。

重要

5W-40オイルを使用してください。

重要

エンジンオイルの補充時に、“MAX”マークを超えないようにしてください。

交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。

レベル・チェック (03_01)

- 車両をセンタースタンドで立てます。

注意



安全で水平な場所に駐車してください。

注意



エンジンや排気系統は非常に高温になり、エンジンを止めた後もしばらくの間は熱くなっています。これらの部品を取り扱う際は断熱手袋を着用するか、または、エンジンと排気系統が冷めるまでお待ちください。

- エンジンを停止して、クランクケースのオイルが流れ落ちて冷めるまでお待ちください。

重要

これらの手順を踏まないと、エンジンオイル量の読み取りが正しく行われない場合があります。

- 計量スティック“1”のキャップをゆるめて抜きます。
- きれいな布を使用し、オイルのついている部分を拭き取ります。
- 計量スティック“1”を元の注油口”
- 2”に戻してキャップをよく閉めます。
- もう一度計量スティック“1”を抜き取り、スティックに残っているオイルのレベルを読み取ります。

MAX = 最高レベル

MIN = 最低レベル

“MAX”と“MIN”の液量差は約200 cm³です。

- 正しいオイルの量は、オイルが“MAX”を越えない程度です。
- 必要に応じて補充します。

注意



エンジンに重大な損傷を与える危険があるので、液面が“MAX” マークを超えない、また決して“MIN” マーク以下にならないよう注意してください。

オイルの注入

- 注油口“2”の中に少量のオイルを流し込み、オイルパンの中まで一様に入り込むまで1分ほど待ちます。
- オイルレベルを測り、必要であれば補充します。
- オイルが正しい量になるまで、少しずつ補充を続けます。
- 補充終了後は、計量スティック“1”のキャップをよく閉めます。

注意



注油が十分でない場合、または潤滑油が汚れているときや正しくないときは、車両を走行しないでください。可動部分の磨耗が早まり、修復できない損傷につながる場合があります。

ハブのオイルレベル

以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。

オイルの点検と交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。

注意



オイルを毎日使用したり、長い間使用したりすると、肌に危害を及ぼす恐れがあります。

オイルを取り扱った後は、丁寧に手を洗ってください。

メンテナンス作業を行う際は、ゴム手袋の着用をお薦めします。

子供の手の届かない場所に保管してください

環境保護のためオイルは適切に処理してください。

注意



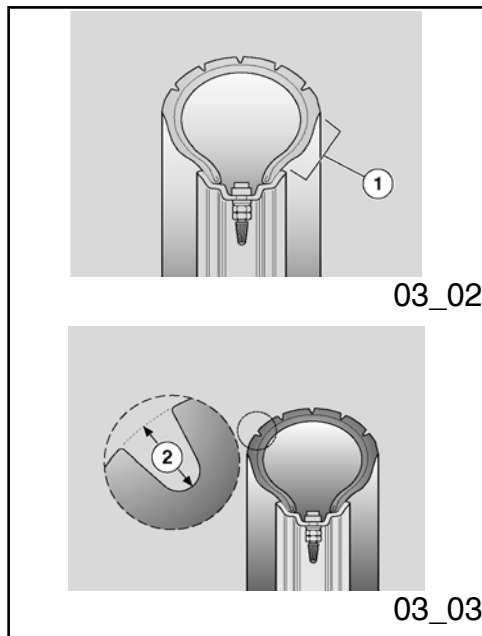
慎重に作業してください。

オイルを撒き散らさないようにしてください。

コンポーネントや作業場とその周辺を汚さないように注意してください。

オイルが付着した場合は丁寧に洗い流してください。

オイル漏れや不具合のある場合は、車両をaprilia正規代理店にお持ちください。



タイヤ (03_02, 03_03)

この車両は、チューブを使用しない（チューブレス）タイヤを装着しています。

注意



タイヤが外気と同じ温度の状態でタイヤ空気圧を頻繁に点検してください。

タイヤが温まっていると正しく測定できないことがあります。特に長距離走行の前後には必ずチェックを行ってください。タイヤ空気圧が高すぎると、路面の凹凸による衝撃が緩和されず、ハンドルに伝われます。その結果、走行快適性が失われ、特に方向転換時のグリップ力が低下します。

反対に、タイヤ空気圧が不足しているとタイヤ側面“1”に大きな圧力がかかり、タイヤがリムの上で滑ったり、さらにリムから外れて、車両のコントロールを失う可能性があります。急ブレーキ時には、タイヤがリムから外れ落ちる危険があります。カーブでは車両が横滑りする可能性が高くなります。タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や操縦性を損ないますので、タイヤの接地面や側面の状態、および摩耗を常に点検してください。この車両用に承認されたタイヤの中には、摩耗インジケータを備えるものがあります。摩耗インジケータにはさまざまな種類があります。摩耗の点検方法については、最寄りの正規代理店にご相談ください。タイヤの消耗について目視点検を行い、摩耗が進んでいる場合は交換してください。

古いタイヤは、完全に摩耗していなくても固くなっていて、グリップ力が不足している場合があります。そのような場合はタイヤを交換してください。タイヤが摩耗している場合、またはトレッドに5 mm以上の穴がある場合は、タイヤを交換してください。タイヤを修理した後は、ホイールのバランスを調整してください。タイヤは必ずメーカーが指定するサイズを使用してください。チューブレスタイヤ用のリムにはチューブタイヤを装着しないでください。また、チューブタイヤ用のリムにはチューブレスタイヤを装着しないでください。突然タイヤの空気が抜けることのないように、空気注入バルブにキャップが付いているか確認してください。

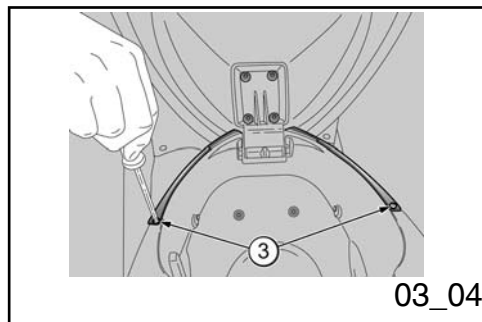
交換、修理、メンテナンス、バランス調整は非常に重要な作業であり、その実施には特殊な技術と知識が必要です。そのため、aprilia正規代理店またはタイヤ専門のワークショップに上記の作業を依頼してください。新品のタイヤには滑りやすいコーティングが施されている場合があります。最初の数キロ間は注意して走行してください。タイヤに不適切な液体を塗布しないでください。

タイヤ磨耗限界の溝の深さ“2”

特徴	概要/数値
フロント：	2 mm
リア：	2 mm

タイヤ磨耗限界の溝の深さ“2”（USA仕様）

特徴	概要/数値
フロント（USA仕様）	3 mm
リア（USA仕様）	3 mm



スパークプラグの取り外し（03_04, 03_05, 03_06, 03_07）

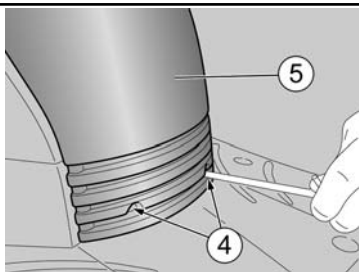
スパークプラグを以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。定期的にスパークプラグを取り外して、付着したカーボンなどを取り除き、必要に応じて交換してください。

スパークプラグを取り外すには：

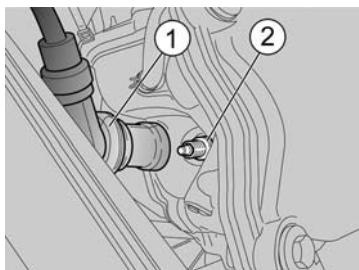
- シートを持ち上げます。
- ネジ《3》を緩めて取り外します。
- ネジ《4》を緩めて取り外します。

注意

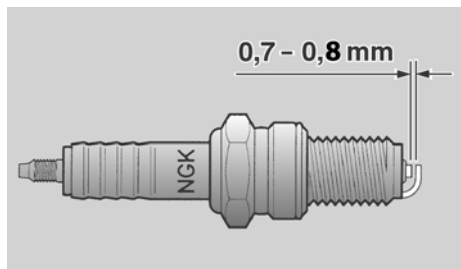




03_05



03_06



03_07

慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。

- インスペクションカバー《5》を取り外します。

重要



元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

取り外しと清掃：

注意



火傷の危険がありますので、エンジンおよびマフラーが室温に戻るまで冷ましてから以下の作業を始めてください。

- スパークプラグ《2》からキャップ《1》を取り外します。
- スパークプラグの根元から汚れを取り除きます。ツールキットにあるスパナを利用して、汚れがシリンダーに入らないように注意しながら、スパークプラグを緩めて抜き取ります。
- 電極と碍子にカーボンなどの汚れが付着していないかよく確認します。必要に応じて、スパークプラグ専用クリーナーや鉄線、金属ブラシなどを使用して清掃します。
- エンジンにカーボンを入れないために、空気を強く吹き付けてカーボンを取り除きます。もし碍子のひび割れ、電極の腐食、大量のカーボンの付着が見られる場合は、スパークプラグを交換してください。
- すき間ゲージを使用して電極間のギャップを点検します。このギャップは0.7 -

0.8 mmでなければなりません。必要に応じて、電極を慎重に曲げてギャップを調整してください。

- ワッシャーの状態を確認します。ワッシャーを取り付け、ネジ部を傷つけないようにして、スパークプラグを手で締め付けます。
- ツールキットのスパナを使用して、スパークプラグを半回転させて締め付け、ワッシャーを圧縮します。

注意

スパークプラグがしっかり締められていないと、エンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。

スパークプラグは必ず推奨されたものをお使いください。そうしないと、エンジンの寿命と性能に影響します。

テクニカル仕様

スパークプラグ電極間のギャップ

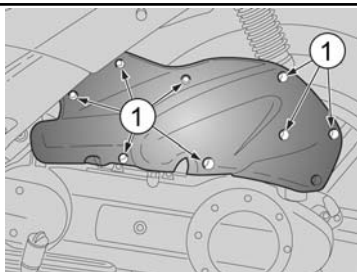
0.7 -0.8mm

締め付けトルク

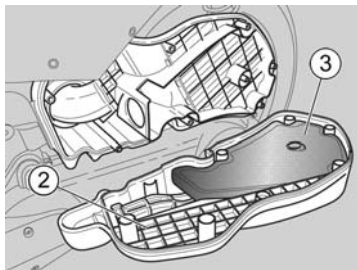
スパークプラグの締め付けトルク：

18 Nm (1.8 kgm)

- スパークプラグにキャップ《1》をエンジンの振動で外れたりしないよう、しっかりかぶせます。
- 中央インスペクションカバー《5》を取り付けます。



03_08



03_09

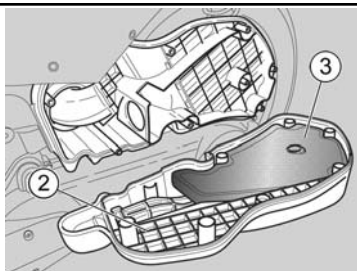
エアフィルタの取り外し (03_08, 03_09)

エアフィルタの清掃と点検は、以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って行います。使用状況によっては回数を増やします。

車両を埃の激しい場所やぬれた場所で運転する場合には、掃除や交換を頻繁に行わなければなりません。

清掃のため、フィルターエレメントを車両から取り外します。

- 9本のネジ《1》を緩めて取り外します。
- フィルターケースを開けます。
- フィルターケースのカバー《2》からフィルターエレメント《3》を抜き取ります。



03_10

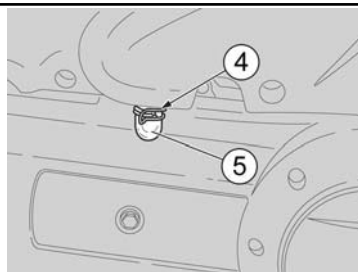
エアフィルタのクリーニング (03_10, 03_11)

注意



火災や爆発の危険を避けるため、フィルターエレメントの清掃にはガソリンや可燃性の溶剤を使用しないでください。

- フィルターエレメント《3》を洗うには不可燃性、または揮発性の高い溶剤を使用し、



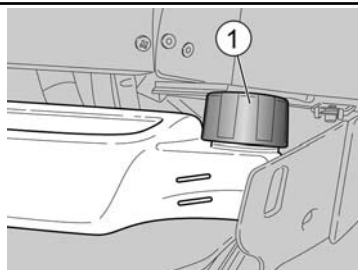
03_11

- その後よく乾燥させてください。
- ドレンホース《4》の下部に汚れが残っていないか調べてください。

重要

もしフィルターケースから出た汚れがホースに残っている場合は、以下のようにして取り除きます：

- キャップ《5》を取り外します。
- 容器の中に内容物を排出し、その後回収所に持参してください。



03_12

クーラントレベル (03_12, 03_13, 03_14)

注意



冷却液のレベルが規定レベル“MIN”以下のときは車両を使用しないでください。

冷却液のレベルを以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。

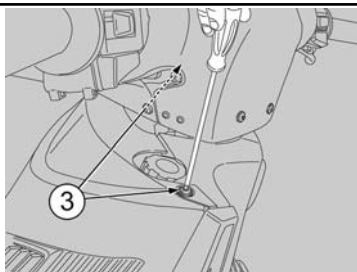
注意



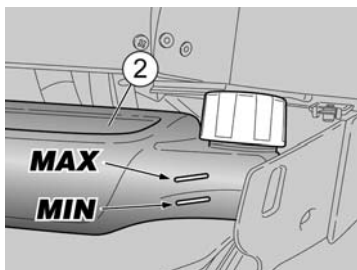
冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ったりすると炎症の原因になります。冷却液が眼に入ったり、皮膚に付いたりした時は、流水で十分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で十分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

注意





03_13



03_14

環境保護のためオイルは適切に処理してください。

注意



子供の手の届かない場所に保管してください

注意

高温になっているエンジンのコンポーネントに冷却液をかけないように注意してください。引火して目に見えない炎が発生する場合があります。メンテナンス作業を行う際は、ゴム手袋の着用をお薦めします。交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。

冷却液は水50%と不凍液50%で作られています。この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくて済みますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお薦めします。そのため、蒸気した水分によるラジエーター内の塩の沈着も最小限に留まり、冷却系統の性能に悪影響を及ぼしません。外気温が0℃以下になる場合は頻繁に冷却系統の点検を行ってください。必要に応じて不凍液の混合率を（最大60%まで）上げてかまいません。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

注意



エンジンが熱い間は冷却液が加圧されており液温も高いので、エキスパンションタンクのキャップを決して外さないでください。冷却液が皮膚や衣服につくとひどい火傷や衣類の損傷をおこすことがあります。

点検

注意



冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行ってください。

- エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。

注意



安全で水平な場所に駐車してください。

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- ネジ《3》を緩めて取り外します。

注意



慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。

- フロントフェアリングパネルを取り外します。

重要



元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

- エキспанションタンク《2》内の液量が《MIN》と《MAX》の間にあることを確かめます。

MIN = 最低レベル

MAX = 最高レベル

そうでない場合は補充します。

補充

- キャップ《1》を反時計回りに2回転まわし、外さずに緩めます。
- 中の圧力が抜けるまで数秒待ちます。
- キャップ《1》を回して取り外します。

注意



冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ったりすると炎症の原因になります。冷却液が入っているかどうかを点検する際に、指や物を入れないようにしてください。

注意



補充する際、“MAX”レベルを超えないようにしてください。入れ過ぎると、エンジン作動時に液が流れ出る可能性があります。

- 《MAX》マークに達するまで冷却液を補充します。
- 注入口のキャップ《1》を元どおり締めます。

注意



冷却液の消費が激しい場合、またはリザーバーが空になっている場合、系統内に漏れがないか点検してください。修理は aprilia正規代理店にご依頼ください。

- フロントフェアリングパネルを取り付けます。

ブレーキ液レベルの点検 (03_15, 03_16)

重要

この車両には、油圧系統を個別に備えたフロントおよびリアディスクブレーキが装着されています。以下の記述は片方のブレーキ系統に関するものですが、両方のブレーキ系統に当てはまります。

注意



ブレーキレバーの遊びが突然大きくなったり、手ごたえが柔らかくなったときは、油圧系統に問題が発生しています。ブレーキ系統が正常に機能しているか疑わしい場合や、通常の点検が実施できない場合は、お気軽にaprilia正規代理店にご相談ください

注意

特にメンテナンス作業や点検の後には、ブレーキディスクとブレーキパッドにオイルやグリスが付着していないか確認してください。ブレーキパイプがねじれたり擦り切れていないか確認してください。

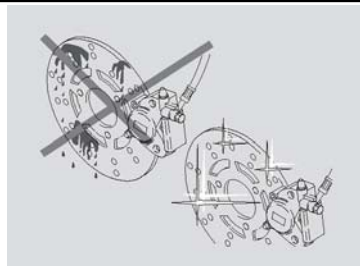
子供の手の届かない場所に保管してください

環境保護のためオイルは適切に処理してください。

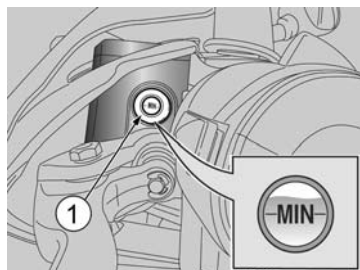
ブレーキパッドが摩耗すると摩耗分を補うためブレーキオイルが減ります。

ブレーキオイルリザーバーはハンドルのブレーキレバー取り付け部付近にあります。

タンク内のブレーキオイルの量を定期的にチェックしてください。



03_15



03_16

注意



ブレーキ系統にオイル漏れが確認された場合は、車両を使用しないでください。

ブレーキオイルの点検

オイルレベルの点検方法：

注意



安全で水平な場所に駐車してください。

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- ハンドルを回して、ブレーキオイルリザーバーのオイルが《MIN》マーク（点検窓《1》）と平行になるようにします。
- リザーバーのオイルが《MIN》マーク（点検窓《1》）を超えているか点検します。

MIN = 最低レベル

オイルの液面が《MIN》マークを下回っている場合：

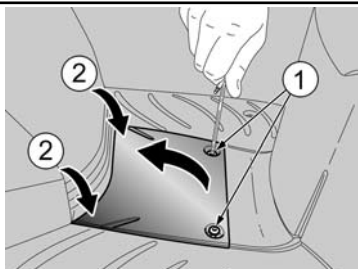
注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

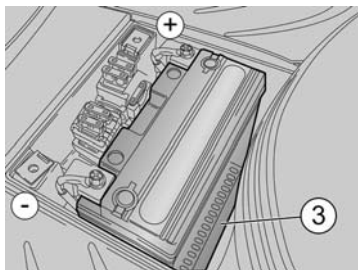
- ブレーキパッドおよびディスクの摩耗を点検します。
- パッドおよび（または）ディスクを交換する必要がない場合：
- 交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。

注意

ブレーキの効き具合を点検してください。ブレーキレバーのストロークが大き過ぎる場合や、ブレーキ系統の性能が低下している場合は、系統のエア抜きを行う必要があるかもしれませんので、車両をaprilia正規代理店へお持ちください。



03_17



03_18

バッテリー (03_17, 03_18, 03_19)

電極の締め付けを以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。

注意

火災の危険があります。燃料や引火しやすいものを電気部品に近付けないでください。

バッテリー液は硫酸を含んでいるため毒性と腐食性があり、皮膚に触れると火傷する危険があります。作業時は防護服を着用し、顔や目もプロテクターを使用してください。バッテリー液が皮膚に付着した場合は直ちに冷水で十分に洗い流してください。

もしも目に入った場合は、15分間ほど多量の水で洗い流し、直ちに眼科医の診断を受けてください。

飲み込んでしまった場合には、大量の水か牛乳を飲み、それから、酸化マグネシウム液か植物性オイルを飲み、直ちに医者に見せてください。

バッテリーは爆発性のガスを発生しますので、火気、火花、たばこ、その他の熱源などから遠ざけてください。

バッテリーの充電または使用は、換気の良い場所で行ってください。バッテリーの充電時に放出されるガスを吸い込まないようにしてください。

子供の手の届かない場所に保管してください

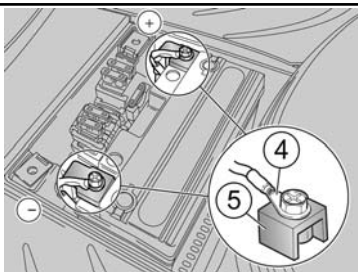
車両を傾け過ぎ、バッテリー電解液をこぼさないように注意してください。

注意

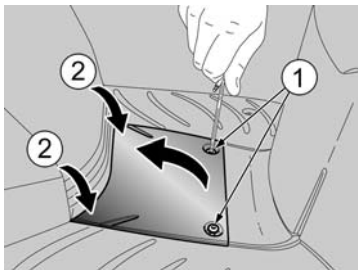
バッテリーのケーブルを逆に接続しないでください。

イグニッションスイッチを“OFF”の位置にした状態で、バッテリーの接続と取り外しを行ってください。そうしないと、コンポーネントを損傷する可能性があります。先にプラスターミナル (+) を接続してから、マイナスターミナル (-) を接続してください。接続を外すときは逆の順序で行ってください。

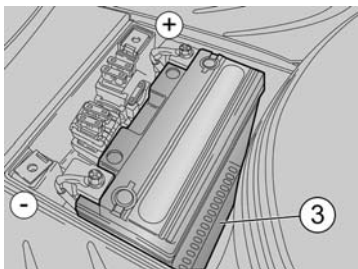
バッテリー液には腐食性があります。



03_19



03_20



03_21

特にプラスチックの部分にバッテリー液がこぼれたり飛び散らないようにしてください。

装着されている“メンテナンスフリー”のバッテリーを充電する際は、専用バッテリーチャージャー（一定電圧／電流または一定電圧タイプ）を使用してください。

その他のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーを損傷する場合があります。

バッテリーの取り外し

- 車両をセクタースタンドで立てます。
- 2本のネジ《1》を緩めて取り外します。

注意



慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。

- ネジと反対側の端《2》を押してカバーを持ち上げます。
- バッテリーケースカバーを取り外します。

重要



元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

- ケーブルはマイナスケーブル（-）、プラスケーブル（+）の順でバッテリーから取り外します。
- バッテリー《3》をケースから取り外し、涼しく乾燥した場所に置きます。

注意



バッテリーを取り外した後は、子供の手の届かない安全な場所に置いてください。

ターミナルおよび電極の点検と清掃

- バッテリーケーブルのターミナル《4》と電極《5》

が以下の状態であるか点検します。

- 良好な状態である（腐食がなく、付着物がない）-
- 中性グリスまたはワセリンが塗布されている

清掃が必要な場合は、

- ケーブルはマイナスケーブル（-）、プラスケーブル（+）の順でバッテリーから取り外します。
- 金属製のブラシを使用して腐食部分を全て取り除きます。
- プラスケーブル（+）、マイナスケーブル（-）の順で再びバッテリーに接続します。
- ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。

バッテリーの充電

注意

バッテリーに損傷を与えますので、バッテリーキャップは外さないでください。

- バッテリーを取り外します。
- 適切なバッテリーチャージャーを用意します。
- 通常で充電するようにチャージャーを設定します。
- バッテリーをバッテリーチャージャーに接続します。

注意

バッテリーの充電または使用は、換気の良い場所で行ってください。バッテリーの充電時に放出されるガスを吸い込まないようにしてください。

- バッテリーチャージャーのスイッチを入れてください。

新品バッテリーの使用 (03_20, 03_21)

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- 2本のネジ《1》を緩めて取り外します。

注意

慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。

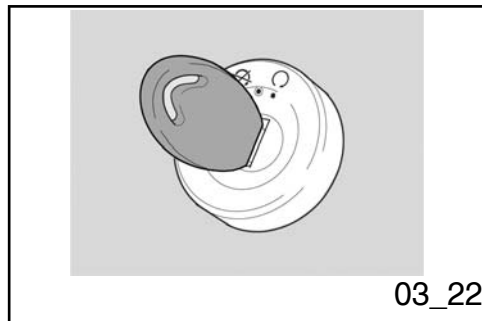
- ネジと反対側の端《2》を押してカバーを持ち上げます。
- バッテリーケースカバーを取り外します。

重要

元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

- バッテリー《3》をケースの中に入れます。

- プラスケーブル (+)、マイナスケーブル (-) の順でバッテリーに取り付けます。
- ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。
- バッテリーケースカバーを取り付けます。



03_22

長期間使用しない場合 (03_22)

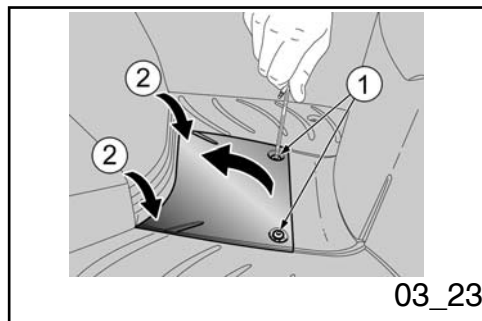
車両を15日間以上使用しない場合は、硫酸化を防ぐためにバッテリーを充電する必要があります。

- バッテリーを取り外し、涼しく湿気のない場所に置いてください。

冬季や車両を動かさないときには、劣化を防ぐために、時々（月に1回程度）充電量を点検してください。

- 通常の充電時は満充電してください。

バッテリーを車両に取り付けたままにする場合は、ターミナルからケーブルを外してください。



03_23

ヒューズ (03_23, 03_24, 03_25)

注意

故障したヒューズは修理しないでください。

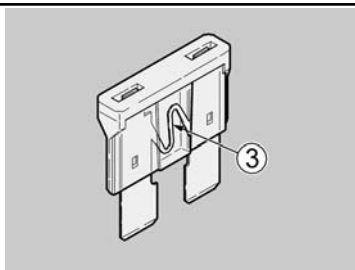
ヒューズは、指定されているもの以外は決して使用しないでください。

ショートした場合に、電気系統の損傷または火災が起こる場合があります。

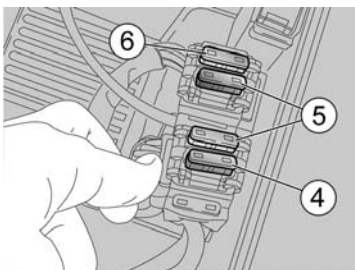
重要

頻繁にヒューズが飛ぶ場合は、ショートや過負荷が原因となっている場合があります。この場合はaprilia正規代理店にご相談ください。

電気部品が作動しなかったり動作が不規則な場合、またはエンジンの始動ができない場合などは各ヒューズを点検してください。



03_24



03_25

先に7.5、15Aのヒューズを点検してから、20Aのヒューズを点検します。

点検を行うには、

- 車両をセクタースタンドで立てます。
- 2本のネジ《1》を緩めて取り外します。

注意



慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。

- ネジと反対側の端《2》を押してカバーを持ち上げます。
- バッテリーケースカバーを取り外します。

重要



元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

- ヒューズを一つずつ取り出し、フィラメント《3》が切れていないか点検します。
- 切れたヒューズを交換する前に、できるだけ切れた原因を調べてください。
- ヒューズが切れている場合は同じ電流容量の新しいヒューズに交換します。

重要

交換にスペアヒューズを使用した場合は、新品の同じヒューズを必ずその場所に補充しておいてください。

- バッテリーケースカバーを取り付けます。

ヒューズの配置

特徴	概要/数値
7.5Aヒューズ (4)	イグニッションスイッチからイグニッションへ
15Aヒューズ (5)	イグニッションスイッチからすべてのライト系、警告ホーンへ
20Aヒューズ (6)	バッテリーからイグニッションスイッチ、レギュレーター、クーリングファンへ

ランプ

注意



火災の危険があります。 燃料や引火しやすいものを電気部品に近付けないでください。

注意



電球を交換する前に、イグニッションスイッチを“OFF”にして、電球が冷めるまで数分お待ちください。

電球を交換する際は、清潔な手袋を着用するか、乾いた清潔なウエスを使用してください。

電球に指紋を付けしないでください。電球が熱くなりすぎたり切れたりする原因になります。手袋を着用せずに電球に触れた場合は、電球の損傷を防ぐため、アルコールで指紋をふき取ってください。

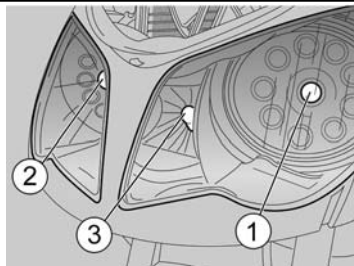
電気ケーブルを無理に取り扱うことのないようにしてください。

重要

電球を交換する前に各ヒューズを点検してください。

電球／警告灯

特徴	概要/数値
ハイビーム／ロービームライト電球	12 V - 55 W - H7
テールライト電球	12V - 3W
ウィンカーライト電球	12V - 10W
テールライト／ストップライト電球	12V - 5/21W
ナンバープレートライト電球	12V - 5W
メーターパネルバックライト電球	LED
ターンインジケータ表示灯	LED
ハイビームインジケータ	LED
燃料警告灯	LED
EFI警告灯	ディスプレイ



03_26

フロントランプユニット (03_26, 03_27, 03_28, 03_29)

フロントライトの構成：

- ・ ハイビームライト電球《1》；
- ・ ロービームライト電球《2》；
- ・ ポジションライト電球《3》

交換する場合：

- ・ ネジ《7》を緩めて取り外します。

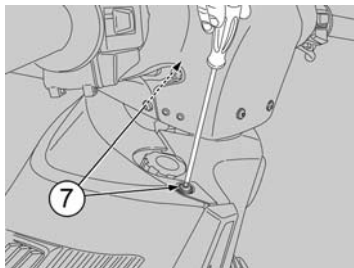
注意



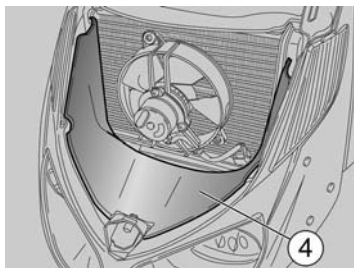
慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

プラスチック部品や塗装部品は注意して取り扱い、傷つけたり損傷しないようにしてください。



03_27



03_28

- ・ フロントフェアリングパネルを取り外します。

重要

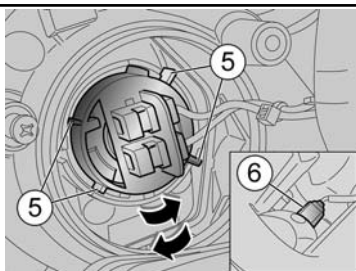


元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

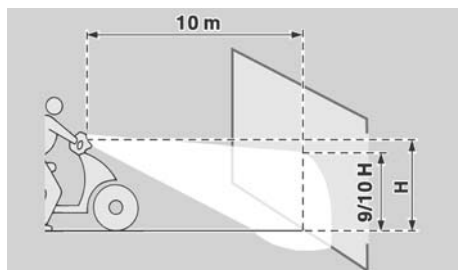
- ・ ラジエーターエアディフレクター《4》の前側を持ち上げて取り外します。

重要

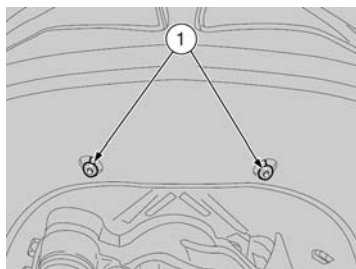
ラジエーターエアディフレクターの取り付けの際には、固定用のツメをラジエーター下部に



03_29



03_30



03_31

挿入します。

ロービーム／ハイビーム電球（ハロゲン）

注意

電球コネクタを外すときに、電気ケーブルを引っ張らないでください。

- 電球のコネクタをつかみ、反時計回りに回してから抜き取ります。
- 電球を取り外します。

以下の手順で電球を取り付けます：

- 電球をハウジングに取り付ける際、ツメ《5》が元の場所にしっかりとハマっていることを確かめて下さい。
- 電球を時計回りに回します。

テールライト電球

注意

電球ホルダーを外すときに、電気ケーブルを引っ張らないでください。

- 電球ホルダー《6》をつかんでハウジングから引き出します。
- ポジションライトの電球を外し、同じ種類の電球と交換します。

ヘッドランプの調整 (03_30, 03_31)

フロントライトの光軸の向きを簡単に点検するには、平らな地面であることを確認して、車両を垂直な壁から10 m離れた場所に停車してください。

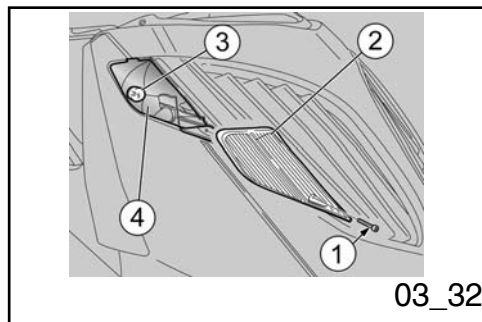
ロービームを点灯して車両に着座し、壁に投影された光がヘッドライトの高さよりも少し下にあるか点検します（高さの約9/10のところ）。

光軸を調整するには、

- フロントホイールハウス上にあるネジ《1》をドライバーで調整します。

締め込む方向（時計回り）に回すと光軸が上向きになります。

緩める方向（反時計回り）に回すと光軸が下向きになります。



フロントターンシグナルランプ（03_32）

交換する場合：

重要

以下の記述は片方のライトに関するものですが、両方のライトに当てはまります。

- ネジ《1》を緩めて取り外します。

注意

慎重に作業してください。

ツメやツメに合わせる溝を損傷しないようにしてください。

- 保護レンズ《2》を取り外します。
- 電球《3》を軽く押し込んで反時計回りに回します。

重要

電球ホルダー《4》がハウジングから外れた場合は、もう一度入れなおします。

- 電球をハウジングから抜き取ります。

重要

2つのガイドピンが電球ホルダーのガイド穴に合うようにして、電球を電球ホルダーに差し込んでください。

- 同型の電球を正しく取り付けます。

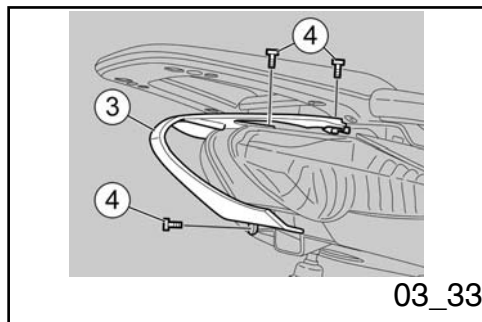
以下の手順で電球を取り付けます。

重要

保護レンズ《2》を正確にハウジングに取り付けます。

注意

保護レンズ《2》を損傷しないように、ネジ《1》は気をつけて締めてください。



テールランプユニット (03_33, 03_34)

テールライトの構成：

- 2個のテールライト／ストップライト電球《1》；
- 2個のウィンカーライト電球《2》

電球の交換：

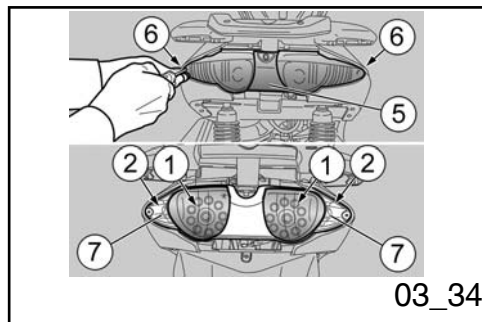
- ネジ《4》を緩め、テールライトフェアリング《3》を取り外します。
- ネジ《6》を緩め、テールライトレンズ《5》を取り外します。

テールライト／ストップライト電球

- 電球《1》を軽く押し込んで反時計回りに回します。
- 電球をハウジングから抜き取ります。

重要

2つのガイドピンが電球ホルダーのガイド穴に合うようにして、電球を電球ホルダーに差し



03_34

込んでください。

- 同型の電球を正しく取り付けます。

リアウィンカー電球

- 傷をつけないように気を付けながら、カラーレンズ《7》を取り外します。
- 電球《2》を軽く押し込んで反時計回りに回します。
- 電球をハウジングから抜き取ります。

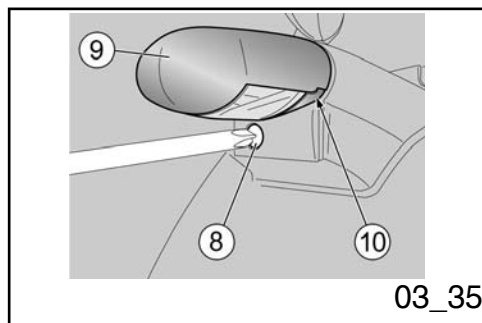
重要

取り付けの際は、テールライトフェアリング《3》を元の場所に正確に取り付けます。

注意

テールライトレンズ《5》を損傷しないように、ネジ《6》は気をつけて締めてください。

- ネジ《4》を注意深く締めて、テールライトフェアリング《3》を取り付けます。



03_35

ナンバープレート照明 (03_35)

電球の取り外し：

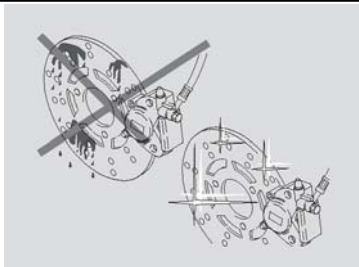
- ネジ《8》を緩めて取り外します。
- ライセンスプレートライトの電球ホルダー《9》を取り外します。
- 電球《10》を外し、同型の電球と交換します。

アイドル調整

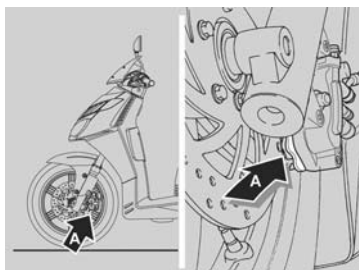
エンジンのアイドルリングが一定しないときは調整を行います。

アイドルリングを調整するときはAxoneを使用します。

必要場合は、車両をaprilia正規代理店にお持ちください。



03_36



03_37

フロント、リアディスクブレーキ (03_36, 03_37, 03_38, 03_39)

重要

この車両には、油圧系統を個別に備えたフロントおよびリアディスクブレーキが装着されています。以下の記述は片方のブレーキ系統に関するものですが、両方のブレーキ系統に当てはまります。

注意

ブレーキは安全性を確保するために最も重要なコンポーネントであるため、常に完璧な状態でなければなりません。走行前には毎回チェックしてください。

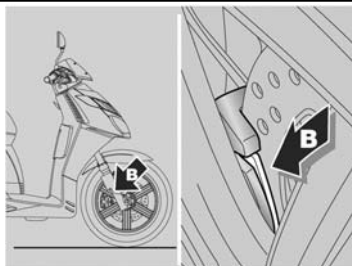
ディスクが汚れているとパッドも汚れ、ブレーキの効きが悪くなります。汚れたパッドを交換し、高品質の脱脂剤を使用して汚れたディスクを清掃してください。

パッドの摩耗点検

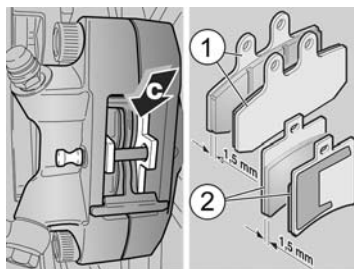
注意

記載されている作業はフロントホイールの両側およびリアホイールの左側から行います。

ブレーキパッドの摩耗を以下の定期点検整備表の指示（排気量別）に従って点検してください。ディスクブレーキパッドの摩耗は使用状況や走行スタイル、走行路によって異なります。



03_38



03_39

注意



走行前には必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

パッドをすばやく点検するには：

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- ディスクブレーキとパッドの間を目で確かめます。

ライトと鏡を使って以下の点検を行います。

フロントブレーキキャリパー

- 左側パッド《A》を車両の前の下の方から見ます。
- 右側パッド《B》を車両の前の上の方から見ます。

リアブレーキキャリパー

- 両パッド《C》とも後ろの上の方から見ます。

重要

摩擦材の過度の摩耗により、パッドのメタルサポートがディスクに接触します。これがキャリパー内で金属音や火花を引き起こします。それにより、ブレーキの効きとディスクの安全性および性能が低下する危険があります。

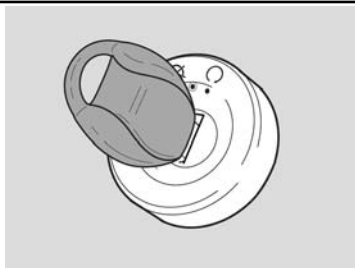
- 摩擦材が（たとえフロントまたはリア1個のパッドでも）1.5 mm程度の厚さまでに摩耗している（もしくは摩耗の目安となる溝が1本でも見えなくなっている）場合は、両方すぐに交換してください。

- フロントパッド《1》

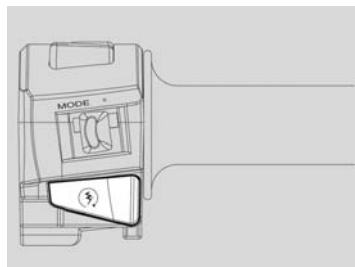
- リアパッド《2》

注意

交換はaprilia正規代理店にご依頼ください。



03_40



03_41

使用していない期間 (03_40, 03_41)

車両を使用しないことによって悪影響が生じないように、いくつかの処置を行ってください。

また、車両を保管する前には通常の修理と点検を実施してください。後からでは実施し忘れてしまう場合があります。

次の作業を行ってください：

- 燃料タンクとキャブレターを空にします。
- スパークプラグを取り外します。
- シリンダーに約ひとさじ (5 - 10 cm³) のエンジンオイルを入れます。

重要



飛び散るオイルから保護するため、シリンダーのスパークプラグ取り付け部付近に清潔な布をかけてください。

- イグニッションスイッチを《ON》にし、エンジンスタートボタンを数秒間押して、オイルがシリンダーの表面に程よく行き渡るようにします。
- シリンダーに掛けていた布を取り除きます。
- スパークプラグを取り付けます。
- バッテリーを取り外します。
- 車両を洗車して乾かします。
- 塗装面をワックスで磨きます。
- タイヤの空気圧を整えます。
- 規定の台を使用し、両方のタイヤを地面から浮かせます。
- 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。
- 湿気が入らないよう、エグゾーストパイプの先端にビニール袋などをかぶせて覆います。
- 車体にカバーをかけてください。プラスチックや防水性の材質の物は避けてくださ

い。

長期間使用しなかった後では：

- カバーを取り、車両を清掃します。
- バッテリーの充電状態を点検し、バッテリーを取り付けます。
- 燃料を注入します。
- 走行前の点検を行って下さい。

注意



試験的に数キロ間、通行が少ない場所で速度を控えめにして走行してください。

洗車

次のような地域や条件下で走行した場合は、車両を頻繁に清掃してください。

- 環境汚染地域（市街地、工業地区）。
- 塩分や湿度の高い地域（海辺、高温多湿の気候）。
- 環境／季節による特殊条件の地域（冬季は道路に塩や凍結防止剤を撒く地域）。
- 産業による埃や汚染物質が車体に付着しないように特に注意してください。タールの汚れ、昆虫の死骸、鳥の糞なども取り除いてください。
- 木の下には駐車しないようにしてください。季節によっては、樹脂や実や葉など塗装部分を損傷させる物が落ちてきます。

注意



洗車後、ブレーキの摩擦面に付いた水が、一時的にブレーキの効きに影響を及ぼす場合があります。事故を防ぐため、制動距離が長くなることを予測して運転してください。正常な状態に戻すためにはブレーキ操作を繰り返して行ってください。走行前に点検を行ってください。

塗装面に付着した埃や泥を落とすには、低い圧力で水を噴射して、汚れた部分すべてを慎重に濡らしてください。水で薄めた洗剤（水に対して洗剤が2~4 %）に洗車用の柔らかいスポンジを浸して泥や汚れを拭き取ります。

さらに水で充分すすぎ落としてからセーム皮などで水分を拭き取ります。エンジンの外側部分を清掃するには、脱脂剤とブラシおよびウエスを使用してください。

注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で十分にすすいでください。

シリコンワックスで磨く前に丁寧に洗車することを忘れないでください。

つや消し塗装面をクリーナーで磨かないでください。

日光のあたる場所、特に夏の暑い日差しの下で車体が熱くなっている時には洗車しないでください。洗剤が洗い流される前に乾いてしまい塗装を傷めます。

プラスチック部品の清掃には、40 ° C以上の液体を使用しないでください。

次の部分には高圧の水や空気、蒸気などを直接吹き付けしないでください。車輪ハブ、ハンドル左右のスイッチ、ベアリング、ブレーキマスターシリンダー、計器とインジケーター、サイレンサー、小物入れトランク／ツールキット、イグニッションスイッチ／ステアリングロック、ラジエーターフィン、燃料タンクキャップ、ライト類と電装系

ゴム部品やプラスチック部品の洗浄には、アルコールやガソリン、溶剤などを使用せず、中性洗剤と水のみを使用してください。シートの清掃には、溶剤やガソリンの副産物（アセトン、トリクロロエチレン、テレピン油、ガソリン、シンナー）を使用しないでください。その代わりに、界面活性剤の含有が5%以下の洗剤（中性洗剤、脱脂剤）またはアルコールを使用してください。清掃後、シートをよく乾かしてください。

注意

滑る危険がありますのでシートには保護ワックスなどを塗らないでください。

輸送

注意

車両を輸送する前には、燃料タンクを空にして、完全に燃料が抜き取られたか確認してくだ

さい。

車両の輸送中は、燃料やオイル、冷却液が漏れないように、常に垂直な状態でしっかりと固定されているようにしてください。

故障の際は、けん引輸送ではなく、輸送車両を使用してください。

燃料タンクを空にする

注意

火災の危険があります。

エンジンとマフラーが冷めるまでお待ちください。

燃料ガスは健康に害を及ぼします。

作業を行う前に、換気のよい場所であるか確認してください。

燃料ガスを吸い込まないようにしてください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

- 車両をセンタースタンドで立てます。
- エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
- タンク内の燃料が入る容器を車両の左側に置きます。
- 燃料タンクキャップを取り外します。
- タンクの燃料を排出するため、ハンドポンプなどを使用します。ポンプユニット（タンク内の燃料レベルを測定する機器）を損傷しないように注意してください。

注意

タンクが空になったら、燃料タンクキャップを締めます。

SPORTCITY 250

i. e.

The Aprilia logo, consisting of the word "aprilia" in white lowercase letters on a red rectangular background.

章 04
諸元

テクニカルデータ

特徴	概要/数値
全長	1965 mm
全幅	730 mm
全高（ウインドシールドを含む）	1130 mm
シート高	790 mm
ホイールベース	1360 mm
最低地上高	130 mm
空車重量	148 kg
燃料（リザーブ含む）	9 l
リザーブ	1.5 l
エンジンオイル（エンジンオイル およびエンジンオイルフィルターの交換時）	1100 cm ³
トランスミッションオイル	250 cm ³
冷却液	1.5 l（水50% + モノエチレング リコール不凍液50%）
乗車定員	2
最大積載量（ライダー + パッセン ジャー + 荷物）	210 kg
変速装置	オートマチック無段変速
一次伝動	Vベルト

二次伝動	ギアリダクションユニット
エンジン／ホイールのトータルレシオ	- 最小 : 1:2.3 - 最大 : 1:0.815
フレーム形式	高強度スチールチューブフレーム、フロントシングルチューブ、リアダブルクレードル
ステアリング傾斜アングル	25.5°
フロントサスペンション	油圧式テレスコピックフォーク
フロントサスペンションストローク	100 mm
リアサスペンション	プリロード調整可能な油圧複動式ショックアブソーバー
リアサスペンションストローク	80 mm
フロントブレーキ	260 mm径ダブルディスクブレーキ、油圧式
リアブレーキ	220 mm径ディスクブレーキ、油圧式
ホイールリム	軽合金
フロントホイール	2.75 x 15"
リアホイール	3.00 x 15"
タイヤ形式	チューブ不使用（チューブレス）
フロントタイヤ	120 / 70 - 15" 56 P

リアタイヤ	130 / 80 - 15" 63 P
フロントタイヤ空気圧	200 kPa (2.0 bar)
リアタイヤ空気圧	200 kPa (2.0 bar)
フロントタイヤ空気圧 (パッセン ジャー乗車時)	200 kPa (200 bar)
リアタイヤ空気圧 (パッセンジャ ー乗車時)	230 kPa (2.3 bar)
バッテリー	12V - 12Ah
ヒューズ	20- 15- 7.5 A
オルタネーター (永久磁石)	12V - 300W

エンジンテクニカルデータ

特徴	概要/数値
エンジンモデル	M288M
エンジン形式	単気筒、4ストローク、4バルブ、 ウェットサンプ潤滑方式、SOHC
総排気量	244.29 cm ³
ボア/ストローク	72 mm / 60 mm
圧縮比	11.0 ± 0.5 : 1
始動方式	セルモーター
アイドリングのエンジン回転数	1600 ± 100 rpm

クラッチ	オートマチック遠心乾式クラッチ
変速装置	自動
冷却方式	遠心ポンプによる強制空冷式
バルブクリアランス	インテーク : 0.10 エグゾースト : 0.15
スロットルボディディフューザー (スロットルボディ径)	エレクトロニックインジェクション Ø 32 mm
燃料供給	負圧ポンプ
燃料	プレミアムガソリン (4 Stars UK))、または最低オクタン価95 (NORM) および85 (NOMM) の無鉛ガソリン
始動方式	容量放電点火方式、可変進角
スパークプラグ	CHAMPION RG4 - PHP

電球／警告灯

特徴	概要/数値
ハイビーム／ロービームライト電球	12 V - 55 W - H7
テールライト電球	12V - 3W
ウィンカーライト電球	12V - 10W

テールライト／ストップライト電 12V - 5/21W
球

ナンバープレートライト電球 12V - 5W

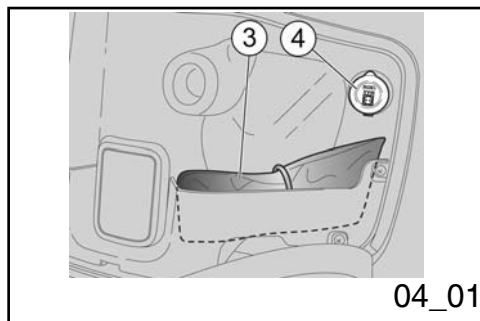
メーターパネルバックライト電球 LED

ターンインジケータ表示灯 LED

ハイビームインジケータ LED

燃料警告灯 LED

EFI警告灯 ディスプレイ



装備キット (04_01)

ツールキット《3》は小物入れトランク内に固定されています。

小物入れトランクを開けます。

提供される工具：

- ツールケース
- ドライバー2本
- 16 mmボックススパナ
- ショックアブソーバー用レンチ
- 3 mmアレンレンチ

SPORTCITY 250

i. e.



章 05
メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュール表

注意



火災の危険があります。

燃料や引火しやすいものを電気部品に近付けないでください。

車両のメンテナンスや点検を行う前に、エンジンを停止してキーを抜き取ってください。エンジンと排気系統が冷めるまでお待ちください。可能であれば、固く水平な地面の上で、車両を特殊ツールで持ち上げてください。

作業を行う前に、換気のよい場所であるか確認してください。

火傷することのないように、熱くなったエンジンや排気系統の部品には特に注意してください。

機械部品や車両の部品を口にくわえないでください。部品を飲み込んでしまう危険があります。部品の中には有害で毒性を持つものもあります。

重要

特に指示のない限り、ユニットの取り付けは取り外しの逆の手順で行ってください。

メンテナンス作業を行う際は、ゴム手袋の着用をお薦めします。

通常のメンテナンスに関しては、ユーザーが作業を実施できます。場合によっては特殊工具や専門知識が必要です。

アシスタンスサービスや技術的アドバイスの必要な場合は、お気軽にaprilia正規代理店に相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

修理や定期点検作業の後はaprilia正規代理店にてロードテストを行う事をお奨めします。

定期点検整備表

適切なメンテナンスは、車両の長寿命、最適な動作やパフォーマンスを確実にするための基本事項です。

そのため、apriliaでは点検とメンテナンスのサービスを提供しています（有料）。これらは次のページの一覧表に記載されています。 機能に異常を感知された場合には、次回の点検時期を待たず、直ちにaprilia正規代理店に連絡いただくことが完全な修理を可能にします。

予定された作業を遅れずに実施することは、確実に保証を有効にしておくために必要です。保証手続きや定期点検整備に関する詳細情報については、保証書をご覧ください。

2年ごと

作業

冷却液 - 点検

ブレーキオイル - 交換

1,000 KM走行後

作業

セーフティロック - 点検

スロットルレバー - 調整

エンジンオイルフィルター - 交換

電気系統とバッテリー - 点検

冷却液レベル - 点検

ブレーキオイルレベル - 点検

エンジンオイル - 交換

ブレーキパッドの摩耗 - 点検

タイヤの空気圧と摩耗 - 点検

車両とブレーキのテスト - テスト走行

トランスミッションオイル - 交換

ステアリング - 点検

5,000 KM走行後 25,000 KM走行後 35,000 KM走行後
55,000 KMおよび65,000 KM走行後

作業

エンジンオイル - レベル点検／補充

ブレーキパッドの摩耗 - 点検

10,000 KM、50,000 KM、70,000 KM走行後

作業

セーフティロック - 点検

スロットルレバー - 調整

エアフィルター - 清掃

駆動ベルトカバーのエアフィルター - 点検

エンジンオイルフィルター - 交換

電気系統とバッテリー - 点検

冷却液レベル - 点検

ブレーキオイルレベル - 点検

エンジンオイル - 交換

ブレーキパッドの摩耗 - 点検

タイヤの空気圧と摩耗 - 点検

車両とブレーキのテスト - テスト走行

トランスミッションオイル - 点検

サスペンション - 点検

ステアリング - 点検

スライディングブロック／変速ローラー - 交換

15,000 KM、45,000 KM、75,000 KM走行後

作業

エンジンオイル - レベル点検／補充

ブレーキパッドの摩耗 - 点検

20,000 KM、40,000 KM、80,000 KM走行後

作業

スパークプラグ - 交換

駆動ベルト - 交換

スロットルレバー - 調整

エアフィルター - 清掃

駆動ベルトカバーのエアフィルター - 点検

エンジンオイルフィルター - 交換

バルブクリアランス - 点検
電気系統とバッテリー - 点検
冷却液レベル - 点検
ブレーキオイルレベル - 点検
エンジンオイル - 交換
ブレーキパッドの摩耗 - 点検
スライディングブロック／変速ローラー - 交換
タイヤの空気圧と摩耗 - 点検
車両とブレーキのテスト - テスト走行
トランスミッションオイル - 交換
サスペンション - 点検
ステアリング - 点検

30,000 KM走行後

作業
セーフティロック - 点検
スロットルレバー - 調整
エアフィルター - 清掃
駆動ベルトカバーのエアフィルター - 点検
エンジンオイルフィルター - 交換
電気系統とバッテリー - 点検
冷却液レベル - 点検

ブレーキオイルレベル - 点検

エンジンオイル - 交換

ブレーキパッドの摩耗 - 点検

スライディングブロック／変速ローラー - 交換

タイヤの空気圧と摩耗 - 点検

車両とブレーキのテスト - テスト走行

トランスミッションオイル - 点検

サスペンション - 点検

ステアリング - 点検

60,000 KM走行後

作業

スパークプラグ - 交換

駆動ベルト - 交換

スロットルレバー - 調整

エアフィルター - 清掃

駆動ベルトカバーのエアフィルター - 点検

エンジンオイルフィルター - 交換

バルブクリアランス - 点検

電気系統とバッテリー - 点検

冷却液レベル - 点検

ブレーキオイルレベル - 点検

エンジンオイル - 交換
ブレーキパッドの摩耗 - 点検
スライディングブロック／変速ローラー - 交換
タイヤの空気圧と摩耗 - 点検
車両とブレーキのテスト - テスト走行
トランスミッションオイル - 交換
サスペンション - 点検
ステアリング - 点検

指定油脂類表

製品	概要	特徴
AGIP CITY HI TEC 4T	エンジンオイル	API SL, ACEA A3, JASO MA
AGIP GEAR SYNTH SAE 75W-90	トランスミッションオイル	API GL4, GL5
AGIP FORK 5W または FORK 20W	フォークオイル	-
AGIP GREASE SM2	ベアリングや潤滑が必要な部分用のモリブデン入りリチウムグリス	NLGI 2
AGIP BRAKE FLUID DOT 4	ブレーキオイル	FMVSS DOT4+
AGIP PERMANENT PLUS	冷却液	CUNA NC 956-16

SPORTCITY 250

i. e.



章 06

専用フィッティング



リアラック (06_01)

追加ヘルメット収納トランク（オプション）

- トランクロックの穴にキーを差し込みます。
- キーを反時計回りに回します。
- トランクのカバー《5》を持ち上げます。
- トランクをロックするには、（力をかけ過ぎないように）カバーを押し下げて、ロックをはめてください。

重要

走行前に、トランクカバーが確実にロックされているか確認してください。

注意

aprilia純正ヘルメット収納トランクを装着する際は、車両の安定性を保つため、付属のおもりをハンドルバーに装着します。



サービスの役割

常に技術力の向上を図り、製品に応じた技術トレーニングを続けるaprilia正規サービスネットワークのメカニックは、この車両のすべてに精通し、正確なメンテナンスおよび修理に必要な専用工具を所有しています。

車両の信頼性は機能コンディションに基づきます。このためには乗車前の点検、推奨された間隔での適切なメンテナンス、aprilia純正部品の使用が重要となります。

最寄りの正規代理店やサービスセンターに関する情報については、イエローページをご覧になるか、または以下のaprilia公式ウェブサイトのマップで直接検索してください。

www.aprilia.com

車両の設計段階からすでに研究とテストが実施されている部品は、aprilia純正部品だけです。品質管理の下で製造されたすべてのaprilia純正部品は、完全な信頼性と長寿命を保証します。

この冊子に含まれる記述とイラストには法的拘束力はありません。本書の中で記述および図解されている諸元の基本的な部分を除き、apriliaは製品の改良に必要であると判断された場合や製造上の都合により、いつでも予告なしにコンポーネント、パーツ、アクセサリーに変更を加える権利を有します。

本書に記載されている製品の仕様は国によって異なる場合があります。実際に販売されている仕様については、アプリリア正規販売代理店にお問い合わせください。

© Copyright 2006- aprilia. All rights reserved. 本書の全部もしくは一部を無断で複製することを禁じます。aprilia - アフターセールスサービス

apriliaの商標はPiaggio & C. S.p.A. に属します。

APRILIA WOULD LIKE TO THANK YOU

for choosing one of its products. We have drawn up this manual to provide a comprehensive overview of your vehicle's quality features. Please read it carefully before riding the vehicle for the first time. It contains information, tips and precautions for using your vehicle. It also describes features, details and devices to assure you that you have made the right choice. We believe that if you follow our suggestions, you will soon get to know your new vehicle well and will use it for a long time at full satisfaction. This booklet is an integral part of the vehicle, and should the vehicle be sold, it must be transferred to the new owner.

SPORTCITY 250 i.e.



The instructions in this manual are intended to provide a clear, simple guide to using your vehicle; brief descriptions of maintenance procedures and periodical controls to be carried out on the vehicle by **authorised Aprilia Dealers or Workshops have been also included**. The booklet also contains instructions for simple repairs. Any operations not specifically described in this manual require the use of special tools and/or particular technical knowledge: for these operations, please take your vehicle to an **authorised aprilia Dealer or Workshop**.



Personal safety

Failure to completely observe these instructions will result in serious risk of personal injury.



Safeguarding the environment

Sections marked with this symbol indicate the correct use of the vehicle to prevent damaging the environment.



Vehicle intactness

The incomplete or non-observance of these regulations leads to the risk of serious damage to the vehicle and sometimes even the invalidity of the guarantee.

The recommendations above are very important. They are used to highlight those parts of the booklet that should be read with particular care. As you can see, each sign consists of a different graphic symbol, making it quick and easy to locate the various topics. Before starting the engine, read this manual carefully, particularly the "SAFE RIDING" section. Your safety as well as other's does not only depend on the quickness of your reflexes and agility, but also on how well you know your vehicle, its efficiency and your knowledge of the rules for SAFE RIDING. For your safety, get to know your vehicle well so as to safely ride and master it in road traffic IMPORTANT This booklet is an integral part of the vehicle, and should the vehicle be sold, it must be transferred to the new owner.

SPORTCITY

250 i.e.



INDEX

INDEX

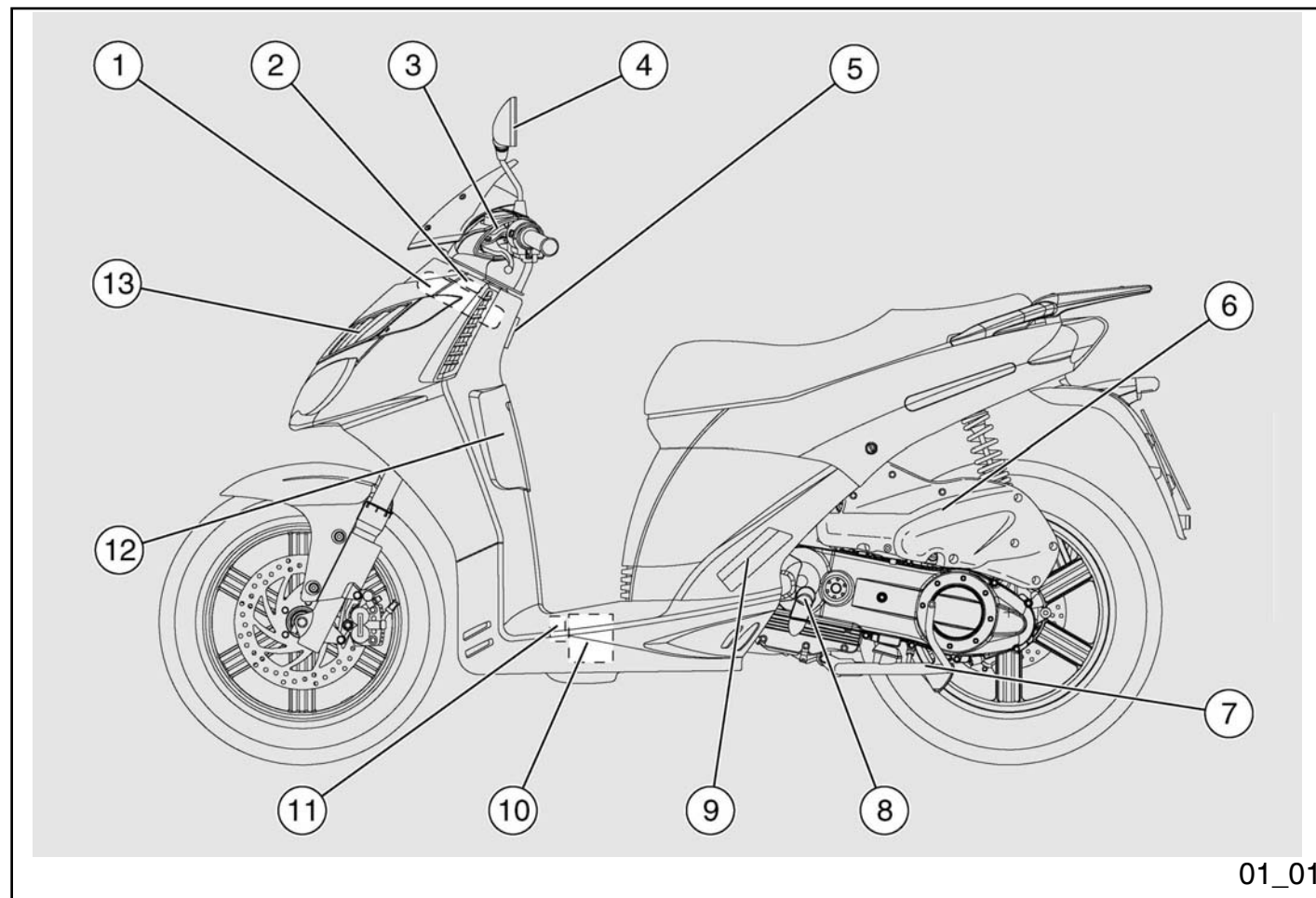
Chap. 01	Vehicle
Chap. 02	Use
Chap. 03	Maintenance
Chap. 04	Technical data
Chap. 05	Programmed maintenance
Chap. 06	Special fittings

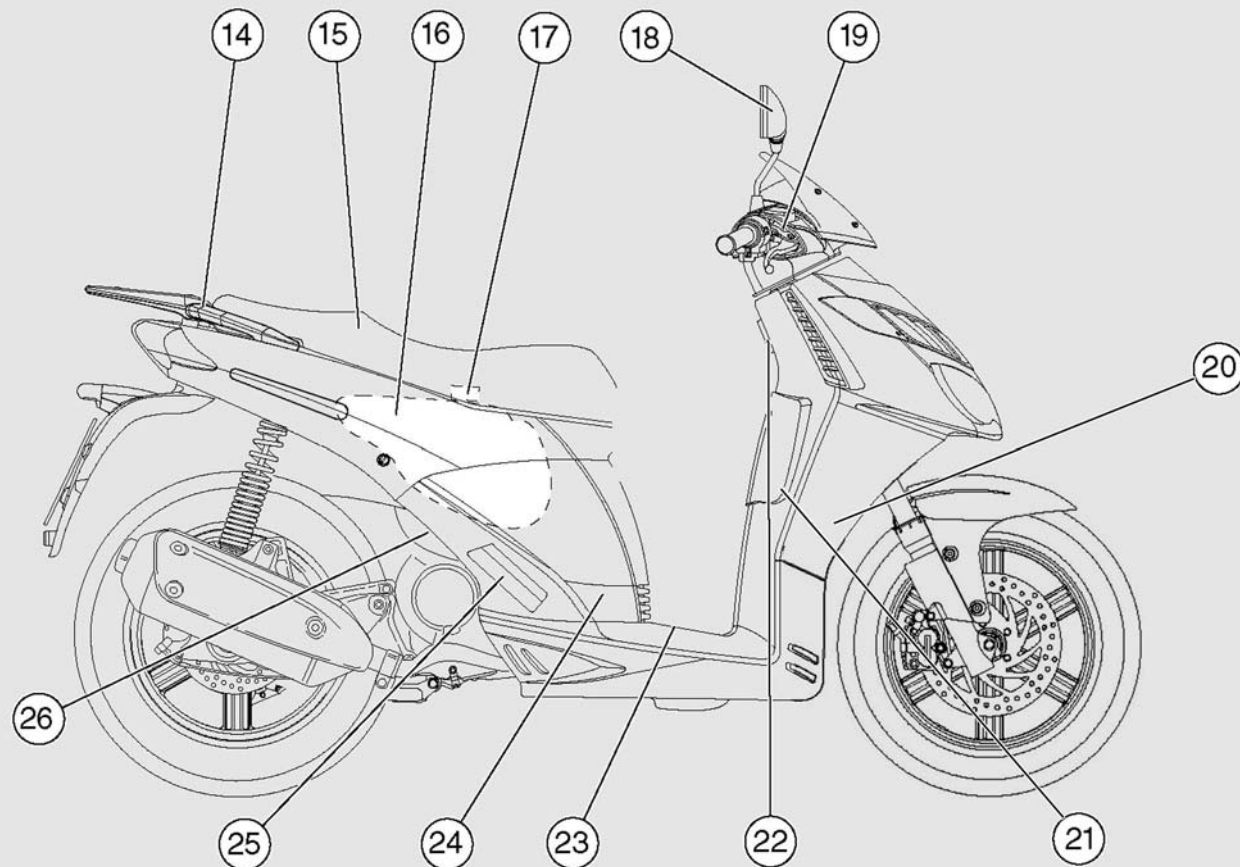
SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 01
Vehicle





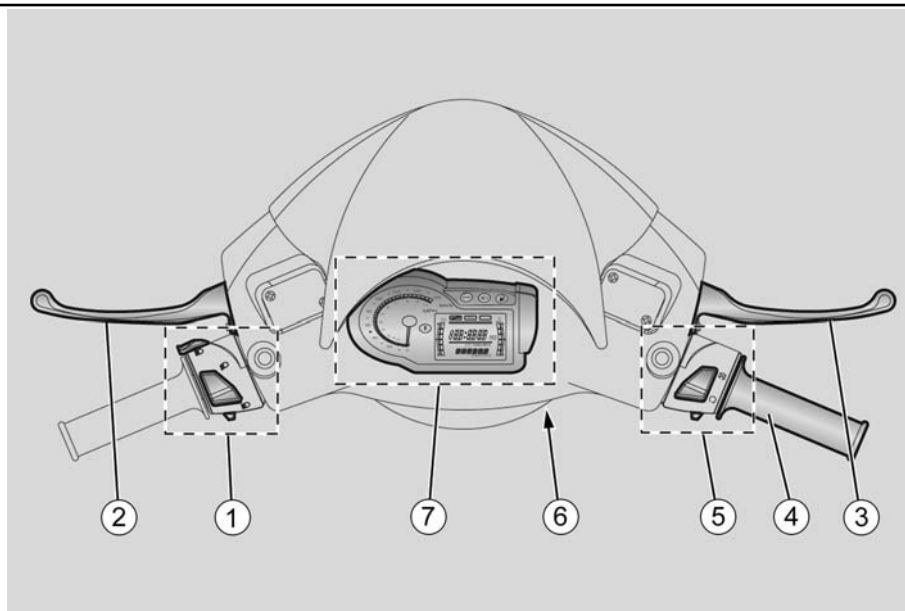
01_02

Arrangement of the main components (01_01, 01_02)

KEY:

1. Expansion tank
2. Coolant expansion tank cap
3. Rear brake fluid reservoir
4. Left rear-view mirror
5. Bag hook
6. Air filter
7. Centre stand
8. Engine oil refill cap
9. Left passenger footrest
10. Battery
11. Fuse box
12. Chassis number
13. Front case
14. Passenger handgrip
15. Saddle
16. Fuel tank
17. Fuel tank cap
18. Right rear-view mirror
19. Front brake fluid reservoir
20. Horn
21. Glove compartment

- 22. Ignition /steering lock switch
- 23. Battery compartment cover
- 24. Spark plug
- 25. Right passenger footrest
- 26. Antitheft lock (for **aprilia** "Body-Guard" armoured cable, OPT)

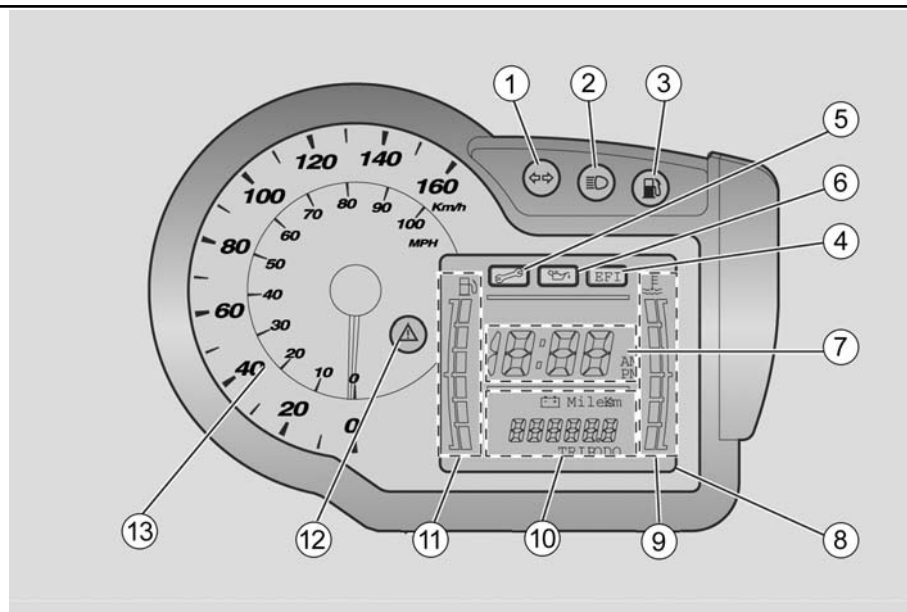


01_03

Dashboard (01_03)

KEY

1. Electrical controls on the left-hand side of the handlebars
2. Rear brake lever
3. Front brake lever
4. Throttle grip
5. Electrical controls on the right-hand side of the handlebars
- 6 Ignition / steering lock switch (**ON** - **OFF** - **LOCK**)
7. Instruments and gauges



01_04

Analogue instrument panel (01_04)

KEY

1. Green turn indicators warning light
2. Blue high-beam warning light
3. Orange low fuel warning light
4. "EFI" warning light
5. Service indicator

6. Oil pressure gauge
7. Digital clock
8. Multifunction digital computer
9. Coolant temperature gauge
10. Multifunction indicator: total odometer (ODO) / trip odometer (TRIP) / battery voltage
11. Fuel gauge
12. Red alarm warning light
13. Speedometer

INSTRUMENT AND GAUGE DESCRIPTION

NOTE

WITH THE KEY SET TO "ON" ALL THE PRE-INSTALLED WARNING LIGHTS, THE INSTRUMENT PANEL LIGHTING AND ALL THE INDICATORS ON THE DIGITAL DISPLAY TURN ON FOR THE FIRST THREE SECONDS FOR AN INITIAL INSTRUMENT CHECK.

Turn indicator warning light «1»

Flashes when in right or left turning mode.

Engine oil pressure icon «6»

Displayed to indicate low engine oil pressure. If this occurs, stop the engine at once and contact an Official **aprilia** Dealer.

Speedometer "13"

Shows riding speed.

High-beam warning light "2"

Turns on when the front headlamp high-beam bulb is activated or when the high-beam light is flashed (PASSING).

Low fuel warning light «3»

Turns on when there is a 1.5-litre fuel reserve in the tank.

If this occurs, refill the tank as soon as possible.

Fuel gauge «11»

Shows the approximate fuel level in the tank.

Digital clock "7"

Shows current hours and minutes.

Coolant temperature gauge "9"

Shows the approximate temperature of the coolant in the engine. When the first segment turns on, the temperature is adequate to ride the vehicle. The normal operating temperature is when the needle is at central area of the scale. If the indicator reaches the last segment, stop the engine and check the coolant level.

CAUTION



IF THE TEMPERATURE EXCEEDS THE MAXIMUM ALLOWED FOR A LONG TIME, THE ENGINE CAN BE SERIOUSLY DAMAGED.

Alarm warning light «12»

Turns on to indicate a general failure, concurrently with the digital display icon signalling that values are not as specified. If this occurs, find the failure and proceed according to the case.

Service icon «5»

Displayed to remind the rider a schedule maintenance service should be carried out soon.

Electronic fuel injection check warning light «4»

Turns on for about three seconds every time the ignition switch is set to «ON» and the engine does not start; this tests the injection system operation. The warning light should turn off as soon as the engine is started.

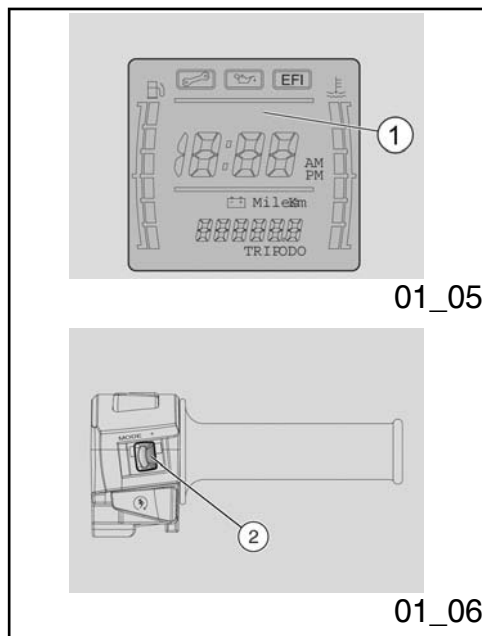
CAUTION



IF THE WARNING LIGHT TURNS ON WHILE THE ENGINE IS WORKING PROPERLY, THIS MEANS THAT THERE IS A FAILURE IN THE ELECTRONIC FUEL INJECTION SYSTEM. IF THIS OCCURS, STOP THE ENGINE AT ONCE AND CONTACT AN OFFICIAL APRILIA DEALER.

Multifunction indicator «10»

Displays the total kilometres travelled (ODO), the kilometres covered during the trip (TRIP) or battery tension.



Digital lcd display (01_05, 01_06)

MULTIFUNCTION DIGITAL COMPUTER

Multifunction indicator functions

Several functions can be selected with the MODE button «2» located on the handlebar right lever: clock adjustment, the total odometer (ODO), the trip odometer (TRIP), battery voltage readings and trip odometer reset.

Total odometer (ODO)

When the instrument panel lights on, the multifunction display «1» shows the odometer (ODO).

Trip odometer (TRIP)

When the odometer (ODO) function is displayed, press the MODE button «2» once to view the TRIP function. Press the MODE button «2» longer than three seconds to reset the counter of the trip values stored.

Battery voltage

When the odometer function is displayed, press the MODE button «2» twice to view the battery voltage.

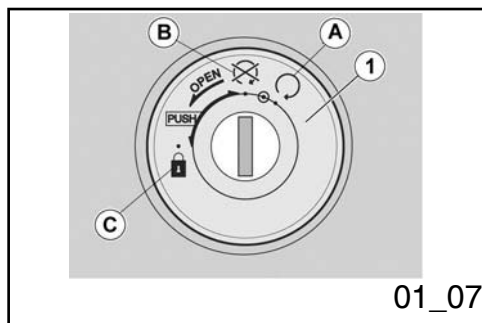
Unit of measurement - km/mi conversion

When the battery voltage is shown on the multifunction display «1», the unit of measurement can be shifted from kilometres (km) into miles (mi) by pressing the MODE button «2» longer than 10 seconds. While the button is being pressed, the legend of the unit of measurement in use flashes. Unit conversion is cancelled if the button is not pressed within ten seconds.

Clock adjustment

NOTE

FOR SAFETY REASONS, ADJUST THE CLOCK ONLY WITH YOUR VEHICLE OFF.



01_07

Press and hold the MODE button «2» longer than three seconds. The colon dividing hours-minutes starts flashing.

Each time the MODE button «2» is pressed, the hour value is increased for adjustment.

Pressing the MODE button «2» longer than three seconds activates the minutes adjustment. The value displayed increases each time the MODE button «2» is pressed.

Press the MODE button «2» longer than three seconds to go back to the hour adjustment. If no button is pressed within three seconds, the displays automatically exits the clock adjustment function.

***MODE* button**

Press the MODE button «2» to the left to shift the instrument panel display.

NOTE

ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

Key switch (01_07, 01_08)

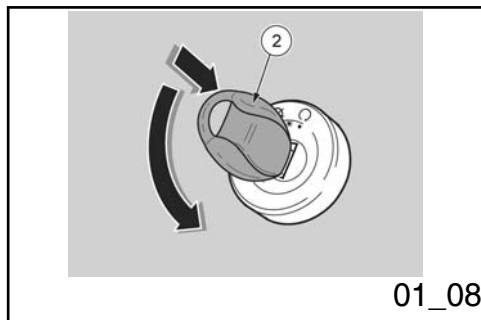
The ignition switch «1» is located on the right side, near the headstock.

NOTE

THE KEY«2» ACTIVATES THE IGNITION / STEERING LOCK SWITCH, THE SADDLE LOCK AND THE GLOVE-BOX LATCH. TWO KEYS ARE SUPPLIED WITH THE VEHICLE (A SPARE ONE).

NOTE

KEEP THE SPARE KEY IN DIFFERENT PLACE, NOT WITH THE VEHICLE.



SWITCH POSITIONS

ON «A»: The engine and lights can be set to work. The key cannot be extracted.

OFF «B»: The engine and lights cannot be set to work. The key can be extracted.

LOCK «C»: The steering is locked. It is not possible to start the engine or switch on the lights. The key can be extracted.

Locking the steering wheel

CAUTION

AVOIDING LOSING CONTROL OF THE VEHICLE, NEVER TURN THE KEY TO "LOCK" WHILE RIDING.

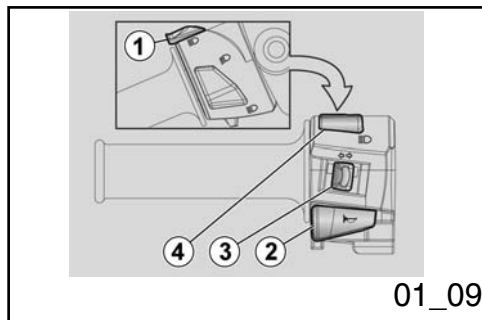
To lock the steering:

- Turn the handlebar fully leftwards.
- Turn and set the key «2» to «OFF»

NOTE

TURN THE KEY AND MOVE THE HANDLEBAR AT THE SAME TIME.

- Press and turn the key «2» anticlockwise (to the left), move the handlebar slowly until the key «2» is set to «**LOCK**».
- Extract the key.



Switch direction indicators (01_09)

Move the switch «3» to the left, to indicate a left turn; move the switch «3» to the right, to indicate a right turn. Press the central part of the switch 3 to deactivate the turn indicator.

NOTE

ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

Horn button

To action the horn, press button «2».

NOTE

ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

Light switch

If the light switch «4» is set to «A», the high-beam light is activated; if it is set to «B», the low-beam light is activated.

NOTE

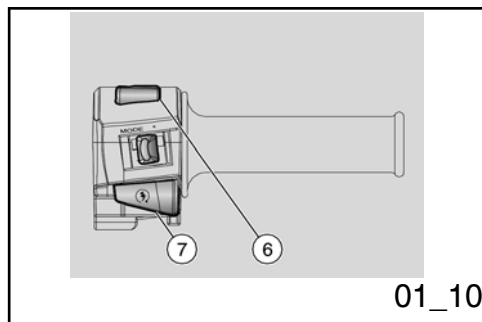
ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

PASSING key «1»

By pressing the PASSING key the high-beam light flashes.

NOTE

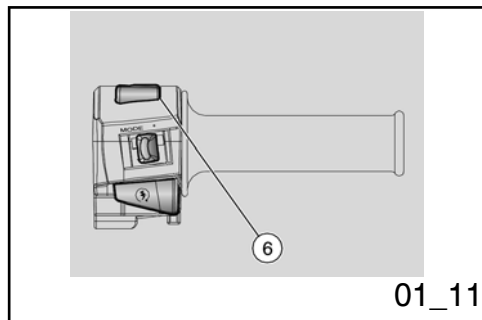
RELEASING THE KEY «1» DEACTIVATES THE HIGH-BEAM FLASH.

**Start-up button (01_10)**

By pressing the starter button "7", the starter motor makes the engine rotate.

NOTE

ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

**Engine stop button (01_11)****CAUTION**

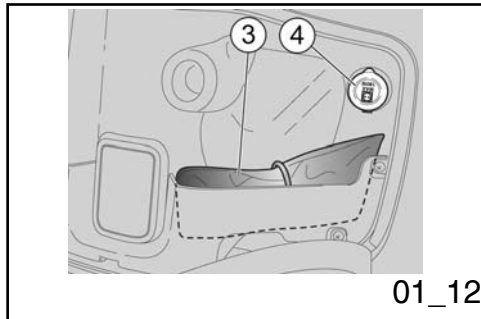
DO NOT ACTION THE ENGINE STOP SWITCH «6» WHILE RIDING THE VEHICLE.

NOTE

ELECTRICAL COMPONENTS FUNCTION ONLY WHEN THE IGNITION KEY IS SET TO "ON"

The engine stop switch «6» functions as a safety and emergency switch.

When the switch «6» is set to «ON», the engine can be started; when it is set to «OFF», the engine stops.

**CAUTION**

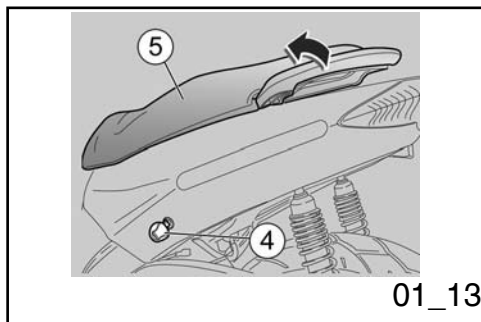
WITH THE ENGINE OFF AND THE IGNITION SWITCH SET TO "ON" THE BATTERY MAY GET DISCHARGED. WITH THE ENGINE OFF AND AFTER IT STOPS TURN THE IGNITION SWITCH TO "OFF".

Power supply socket (01_12)

- There is a 12V plug socket «4» inside the helmet compartment.
- This socket can be used to power equipment with a maximum power of 180 W (mobile telephones, hand lamp, etc.).

CAUTION

USING THIS SOCKET FOR A LONG PERIOD CAN RESULT IN A FULLY DISCHARGED BATTERY.

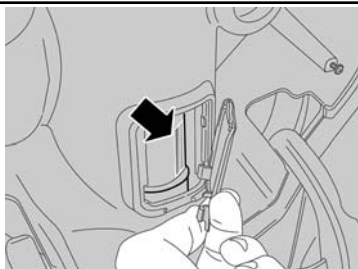
**Opening the saddle (01_13)**

To unlock the saddle:

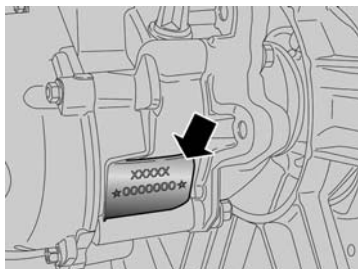
- Rest the vehicle on its centre stand.
- Insert the key in the saddle opening lock.
- Turn the key «4» anticlockwise.
- Lift the saddle «5».
- To lock the saddle, lower and press it (without forcing it) to trip the lock.

CAUTION

BEFORE RIDING MAKE SURE THAT THE SADDLE IS CORRECTLY LOCKED INTO POSITION.



01_14



01_15

Identification (01_14, 01_15)

Write down the chassis and engine numbers in the specific space in this manual.

The chassis number can be used to order spare parts.

NOTE

ALTERING IDENTIFICATION NUMBERS CAN BE SERIOUSLY PUNISHED BY LAW, PARTICULARLY MODIFYING THE CHASSIS NUMBER WILL IMMEDIATELY INVALIDATE THE GUARANTEE.

Chassis number

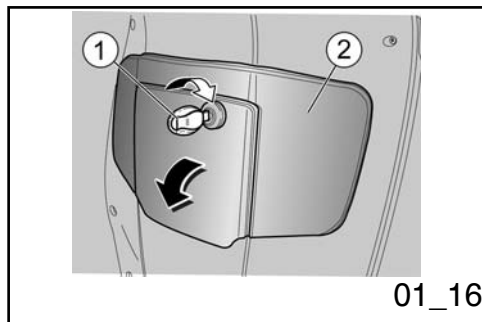
The chassis number is stamped on the chassis central bar. Remove the cover indicated to read it.

Chassis No.:

Engine number

The engine number is stamped near the rear shock absorber lower support.

Engine No.:



Rear top box opening (01_16)

Located below the handlebar, in the internal shield; to reach it:

- Insert the key «1» in the lock.
- Turn the key clockwise, pull it and open the cover «2».

NOTE

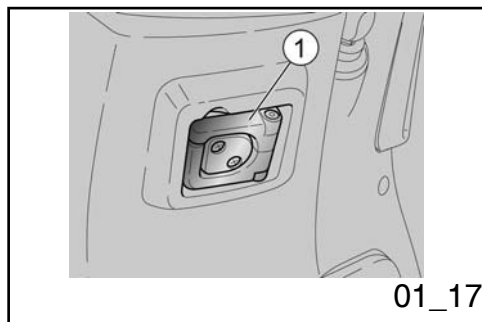
BEFORE LOCKING THE COVER, MAKE SURE THAT THE KEY HAS NOT BEEN LEFT IN THE GLOVE COMPARTMENT.

Lift and press the cover «2» to lock it. The key is not needed.

Characteristic

Maximum allowed weight

1.5 kg



Bag clip (01_17)

The bag hook «1» is located at the front of the internal shield.

CAUTION

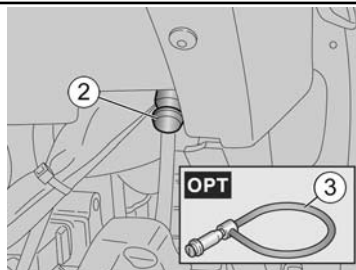


DO NOT HANG BULKY BAGS OR PACKAGES ON THE HOOK SO AS NOT TO SERIOUSLY OBSTRUCT VEHICLE HANDLING AND FEET MOVEMENT.

Characteristic

Maximum allowed weight

1.5 kg



01_18

Antitheft hook (01_18)

The antitheft lock «2» is placed on the right hand side of the vehicle, near the passenger footrest.

To prevent potential thefts, it is advisable to secure the vehicle with the **aprilia** "Body Guard" armoured cable «3» (OPTIONAL) available at any Official **aprilia** Dealer.

CAUTION

DO NOT USE THE HOOK TO LIFT THE VEHICLE, OR FOR OTHER USES, AS IT HAS BEEN DESIGNED ONLY TO SECURE THE VEHICLE WHEN PARKED.

SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 02
Use

Checks

CAUTION



BEFORE RIDING, ALWAYS PERFORM A PRELIMINARY CHECK OF THE VEHICLE, FOR CORRECT AND SAFE OPERATION AS SHOWN IN THE TABLE. FAILURE TO DO SO MAY LEAD TO SEVERE INJURY OR VEHICLE DAMAGE.

DO NOT HESITATE TO CONTACT AN OFFICIAL APRILIA DEALER IF YOU DO NOT UNDERSTAND HOW SOME CONTROLS WORK OR IF MALFUNCTION IS DETECTED OR SUSPECTED.

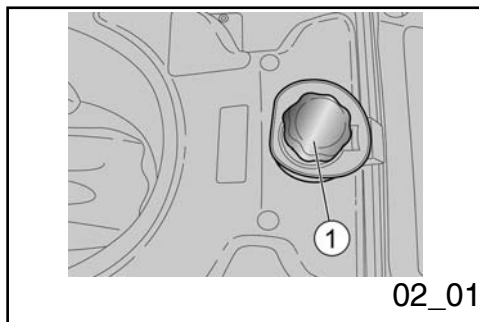
CHECKS DO NOT TAKE LONG AND RESULT IN ENHANCED SAFETY.

PRE-RIDE CHECKS

Specification	Desc./Quantity
Front and rear disc brake	Check for proper operation. Check brake lever free play and brake fluid level. Check for leaks. Check the brake pad wear. If necessary, top-up the brake fluid.
Brake levers	Check they function smoothly. Lubricate the joints if necessary.
Throttle grip	Check it functions smoothly and that it can be fully opened and closed in all steering positions. Adjust and/or lubricate if necessary.

Wheels/tyres	Check that tyres are in good conditions, check inflation pressure, tyre wear and possible damage.
Steering	Check that the rotation is homogeneous, smooth and there are no signs of clearance or slackness.
Centre stand	<p>Check that they work smoothly and they go back to their normal position when the springs are released.</p> <p>Lubricate couplings and joints if necessary.</p>
Fasteners	<p>Check that the clamping elements are not loose.</p> <p>If necessary, adjust or tighten them.</p>
Fuel tank	<p>Check the coolant level and refill if necessary.</p> <p>Check the circuit for possible leaks or obstructions.</p> <p>Check that the tank cover closes correctly.</p>
Coolant	Fluid level inside the expansion tank should be between the "MIN"

	and " MAX " marks.
Engine stop switch	Check for correct operation.
Lights, warning lights, injection telltale light, horn and electrical devices	Check the correct operation of the horn and lights. Replace the bulbs or intervene in case of failure.
Injection pump	Check for correct operation.



Refuelling (02_01)

CAUTION



FUEL USED TO DRIVE EXPLOSION ENGINES IS HIGHLY FLAMMABLE AND CAN BECOME EXPLOSIVE UNDER SPECIFIC CONDITIONS.

CARRY OUT REFILLING AND MAINTENANCE OPERATIONS IN A WELL VENTILATED PLACE AND WITH THE ENGINE OFF.

DO NOT SMOKE WHILE REFUELLING OR WHEN CLOSE TO FUEL VAPOURS, AVOID CONTACT WITH NAKED FLAMES, SPARKS OR ANY OTHER SOURCE THAT MAY CAUSE FUEL TO CATCH FIRE OR EXPLODE.

AVOID SPILLING FUEL OFF THE FILLER AS IT MAY CATCH FIRE IN CONTACT WITH THE ENGINE HOT SURFACES. IN CASE OF ACCIDENTAL FUEL SPILLS, CHECK THAT THE AREA IS COMPLETELY DRY BEFORE STARTING THE VEHICLE.

FUEL EXPANDS WHEN EXPOSED TO HEAT OR SUN RAYS, THEREFORE BE CAREFUL AND DO NOT REFILL THE TANK UP TO THE TOP.

CLOSE THE CAP ADEQUATELY AFTER REFUELLING. BE CAREFUL THE FUEL DOES NOT GET INTO CONTACT WITH THE SKIN, DO NOT BREATHE VAPOURS OR SWALLOW FUEL. DO NOT TRANSFER FUEL FROM ONE CONTAINER TO ANOTHER USING A HOSE.

CAUTION

DO NOT DISPOSE OF FUEL INTO THE ENVIRONMENT.

CAUTION

KEEP OUT OF REACH OF CHILDREN

Use only premium leaded petrol (4 Stars UK) or unleaded petrol, with a minimum octane rating of 95 (NORM) and 85 (NOMM).

To reach the fuel tank cap:

- Lift the saddle.
- Unscrew the tank cap «1».

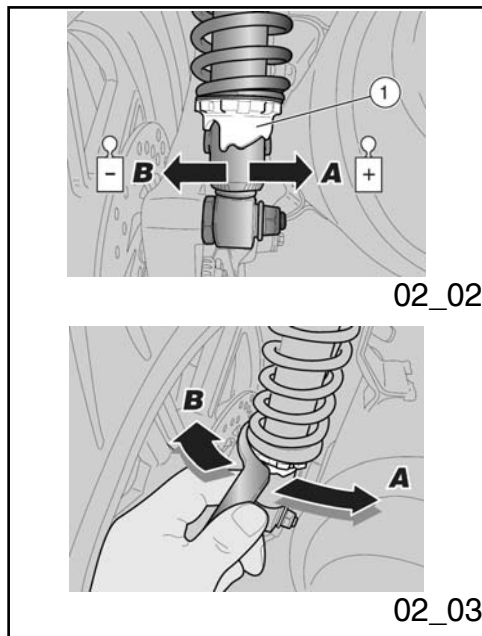
Characteristic

Fuel tank capacity (including reserve):

9 l

Tank reserve:

~ 1.5 l



Shock absorber adjustment (02_02, 02_03)

FRONT AND REAR SUSPENSION INSPECTION

CAUTION



TO HAVE THE REAR SUSPENSION OIL CHANGED TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER WHO WILL PROVIDE A PRECISE AND QUICK SERVICE.

Check oil and oil seal of front suspension following the instructions in the scheduled maintenance table and according to the engine capacity.

REAR SUSPENSION ADJUSTMENT

The rear suspension consists of one double-acting shock absorber (compression/rebound damping), with silent-block engine mount.

The shock absorber features a ring nut to adjust the spring preloading. The manufacturer has set the standard suspension adjustment for a rider weighing about 70 kg. For other weights, use a hook spanner (supplied) on the ring nut "1" to define the ideal running settings.

- Turn the adjustment ring nut "1" (shock absorber spring preloading adjustment).

NOTE

CARRY OUT THE ADJUSTMENT ON BOTH REAR SHOCK ABSORBERS.

Turn the ring nut in direction **A**: Increase spring preloading. The vehicle suspension is very hard. To be used on roads with even or ordinary surfaces and when riding with passenger.

Turn the ring nut in direction **B**: Decrease spring preloading. The vehicle suspension is very soft. To be used on uneven roads and when riding without passenger.

Running in

CAUTION

AFTER THE FIRST 1000 KM (625 MILES) IN OPERATION, PERFORM THE CHECKS INDICATED IN THE SCHEDULED MAINTENANCE TABLE ACCORDING TO THE ENGINE CAPACITY TO AVOID INJURING YOURSELF, OTHERS AND/OR DAMAGING THE VEHICLE.

Engine run-in is essential to ensure engine long life and correct operation.

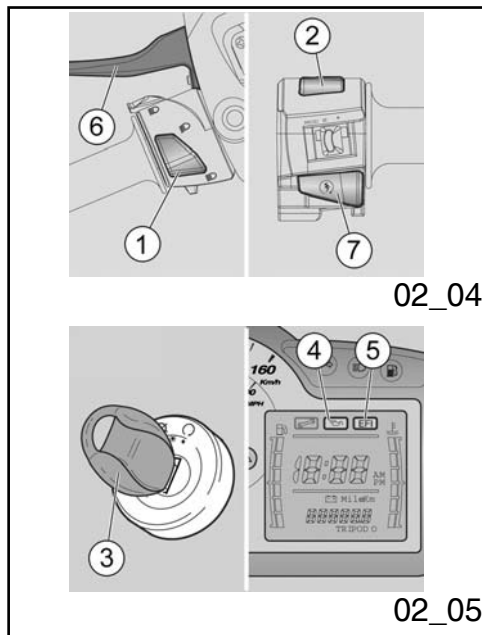
If possible, ride on roads with lots of bends and/or slopes to test that the engine, suspensions and brakes perform efficiently.

NOTE

ONLY AFTER THE FIRST RUN-IN 500 KM (312 MILES) IT IS POSSIBLE TO ATTAIN THE BEST SPEED AND ACCELERATION PERFORMANCE OF YOUR VEHICLE.

Follow these indications:

- Do not twist the throttle grip fully at low rpm whether during or after run-in.
- **0-100 km (0-62 mi)** During the first 100 km (62 mi) operate the brakes with caution to avoid rough and long braking. That is to permit the adequate adjustment of the pad friction material to the brake disc.
- **0-500 km (0-312 mi)** During the first 500 km (312 mi) do not ride the vehicle over 80% of the maximum speed foreseen.
- Avoid keeping a constant velocity over long stretches.
- After the first 1000 km (625 mi), increase speed gradually until reaching maximum performance.



Starting up the engine (02_04, 02_05, 02_06, 02_07, 02_08, 02_09, 02_10)

CAUTION



EXHAUST FUMES CONTAIN CARBON MONOXIDE, AN EXTREMELY HARMFUL SUBSTANCE IF INHALED. NEVER START THE ENGINE IN CLOSED OR NOT WELL-VENTILATED ROOMS.

FAILURE TO OBSERVE THIS WARNING COULD LEAD TO UNCONSCIOUSNESS AND EVEN DEATH CAUSED BY SUFFOCATION.

DO NOT CLIMB ON THE VEHICLE TO START IT UP. DO NOT START THE ENGINE WHILE THE VEHICLE RESTS ON ITS SIDE STAND.

- To start the engine, rest the vehicle on its centre stand.
- Make sure that the light switch «1» is set to low-beam.
- Set the engine stop switch «2» to «ON» (countries where available).

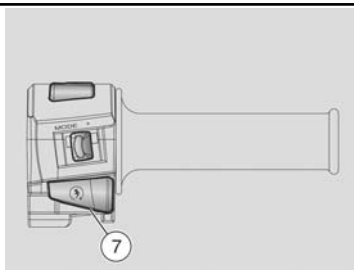
- Turn the key «3» and set the ignition switch to «ON».

CAUTION

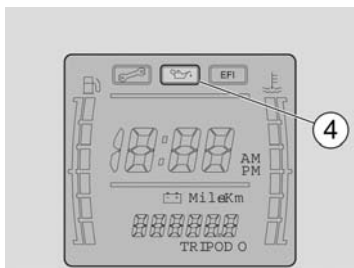
NOW:

THE ENGINE OIL PRESSURE WARNING LIGHT «4» TURNS ON ON THE INSTRUMENT PANEL AND REMAINS LIT UNTIL THE ENGINE STARTS UP.

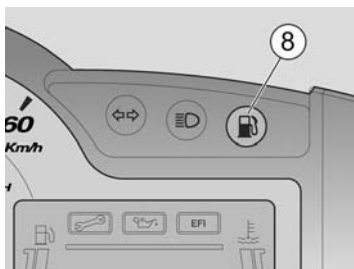
THE ENGINE FUEL INJECTION (EFI) WARNING LIGHT «5» REMAINS ON FOR THREE



02_06



02_07



02_08

SECONDS ON THE INSTRUMENT PANEL AFTER ALL THE OTHER WARNING LIGHTS HAVE TURNED OFF.

- IF THIS WARNING LIGHT DOES NOT TURN ON OR IF AFTER THREE SECONDS THE WARNING LIGHTS DO NOT TURN OFF, CONTACT AN OFFICIAL APRILIA DEALER.

- Block at least one wheel, by operating one brake lever "6". If this does not occur, it means there is no current in the ignition relay and the engine does not start.

»

NOTE

IF THE VEHICLE IS NOT USED FOR A LONG TIME, FOLLOW THE PROCEDURE FOR STARTING THE ENGINE AFTER PROLONGED INACTIVITY.

NOTE

TO AVOID EXCESSIVE BATTERY CONSUMPTION, DO NOT HOLD DOWN THE STARTER BUTTON «7» MORE THAN FIVE SECONDS (TEN WHEN STARTING UP AFTER PROLONGED INACTIVITY). IF THE ENGINE FAILS TO START AFTER THIS TIME, WAIT TEN SECONDS AND REPEAT THE PROCEDURE.

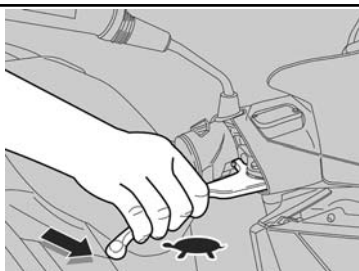
CAUTION



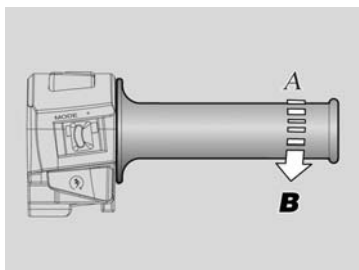
NEVER PRESS THE STARTER BUTTON "7" WHEN THE ENGINE IS ALREADY RUNNING: DOING SO MAY DAMAGE THE STARTER MOTOR.

NOTE

PRESS THE STARTER BUTTON «7» WITHOUT OPENING THE THROTTLE AND RELEASE IT AS SOON AS THE ENGINE STARTS.



02_09



02_10

CAUTION

WHEN THE ENGINE IS RUNNING, THE ENGINE OIL PRESSURE WARNING LIGHT "4" SHOULD TURN OFF. IF THE WARNING LIGHT STAYS ON OR TURNS ON WHILE THE ENGINE IS WORKING PROPERLY THIS MEANS THAT THE OIL PRESSURE IN THE CIRCUIT IS NOT ENOUGH. IF THIS OCCURS, SHUT OFF THE ENGINE AT ONCE AND TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER. NEVER USE THE VEHICLE WITH LOW ENGINE OIL SO AS TO AVOID DAMAGING ENGINE PARTS.

- Keep at least one brake lever operated and accelerate only when setting off.

CAUTION

DO NOT SET OFF SUDDENLY WHEN THE ENGINE IS COLD.

TO MINIMISE THE EMISSION OF AIR POLLUTING SUBSTANCES AND FUEL CONSUMPTION, WARM UP THE ENGINE BY RIDING THE FIRST KILOMETRES AT A LIMITED SPEED.

CAUTION

IF THE LOW FUEL WARNING LIGHT «8» TURNS ON ON THE INSTRUMENT PANEL WHILE RIDING, THIS MEANS THAT THE RESERVE IS BEING USED AND YOU STILL HAVE 1.5 L OF FUEL AVAILABLE. REFUEL AS SOON AS POSSIBLE.

CAUTION

WHEN TRAVELLING WITHOUT PASSENGERS, MAKE SURE THE PASSENGER

FOOTRESTS ARE FOLDED. WHILE RIDING, KEEP YOUR HANDS FIRMLY ON THE HANDGRIPS AND YOUR FEET ON THE FOOTRESTS.

DO NOT RIDE THE VEHICLE IN ANY OTHER POSITION.

IF RIDING WITH A PASSENGER, INSTRUCT THE PERSON CARRIED SO AS TO AVOID TROUBLE WHEN MANOEUVRING.

BEFORE RIDING, MAKE SURE THE STAND/S ARE COMPLETELY RETRACTED TO THEIR POSITION.

To set off: t

- Release the throttle grip, operate the rear brake and take the vehicle off the stand.
- Get on the vehicle and, for stability reasons, keep at least one foot on the ground.
- Adjust the rear-view mirrors angle correctly.

CAUTION



WITH THE VEHICLE AT A STANDSTILL, PRACTICE USING THE REAR-VIEW MIRRORS. THE MIRROR REFLECTING SURFACE IS CONVEX SO OBJECTS MAY SEEM FARTHER THAN THEY REALLY ARE. THESE MIRRORS OFFER A WIDE-ANGLE VIEW AND ONLY EXPERIENCE HELPS YOU JUDGE THE DISTANCE SEPARATING YOU AND THE VEHICLE BEHIND.

- Release the brake lever and accelerate, slightly twisting the throttle grip (**Pos. B**); the vehicle will start moving forward.

CAUTION



NEVER ACCELERATE AND DECELERATE REPEATEDLY AND CONTINUOUSLY AS YOU MAY INADVERTENTLY LOSE CONTROL OF YOUR VEHICLE.

IF YOU HAVE TO BRAKE, DECELERATE AND OPERATE BOTH BRAKES TO OBTAIN A UNIFORM BRAKING, CAREFULLY ACTIVATING THE BRAKING PARTS IN AN ADEQUATE MANNER.

OPERATING ONLY EITHER THE FRONT OR THE REAR BRAKE SIGNIFICANTLY DECREASES THE BRAKING POWER AND A WHEEL MAY GET BLOCKED RESULTING IN LACK OF GRIP. IN CASE OF STOP IN ASCENT, FULLY DECELERATE AND ONLY USE THE BRAKES TO KEEP THE VEHICLE STOPPED. USING THE ENGINE TO KEEP THE VEHICLE STOPPED MAY CAUSE THE VARIATOR TO OVERHEAT.

CAUTION



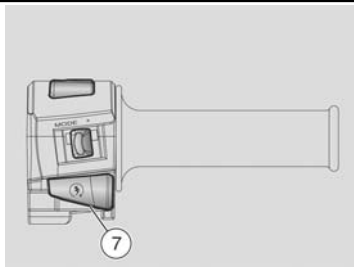
BEFORE GETTING INTO A BEND, REDUCE SPEED OR BRAKE; WHILE BENDING, RIDE AT THE SAME MODERATE AND CONSTANT SPEED OR SLIGHTLY ACCELERATE; DO NOT BRAKE IN EXCESS: THERE IS HIGH RISK OF SKIDDING.

BRAKING CONTINUOUSLY WHILE GOING DOWNHILL MAY RESULT IN FRICTION GASKET OVERHEATING AND CONSEQUENTLY IN POOR BRAKING. TAKE ADVANTAGE OF THE ENGINE COMPRESSION USING THE BRAKES ALTERNATIVELY. WHEN GOING DOWNHILL NEVER RIDE WITH THE ENGINE OFF. WHEN RIDING ON WET SURFACES OR WITH POOR GRIP (SNOW, ICE, MUD, ETC.) AT A MODERATE SPEED AVOIDING SUDDEN BRAKING OR MANOEUVRES THAT MAY LEAD TO LACK OF GRIP AND CONSEQUENTLY TO FALLS. PAY ATTENTION TO OBSTACLES ON OR VARIATIONS IN THE ROAD SURFACE. UNEVEN ROADS, RUTS, DRAINS, TRAFFIC SIGNS PAINTED ON THE ROADS, PIPEWORK METAL SHEETS MAY BECOME SLIPPERY WHEN IT RAINS. CROSS OVER THEM WITH EXTREME CAUTION, RIDE CAREFULLY AND INCLINE THE VEHICLE THE LEAST POSSIBLE.

CAUTION



ALWAYS SIGNAL CHANGES IN DIRECTION WITH THE APPROPRIATE DEVICES AND WELL IN ADVANCE, AVOID ABRUPT AND DANGEROUS MANOEUVRES. TURN OFF THE DEVICES IMMEDIATELY AFTER THE CHANGE IN DIRECTION. WHEN OVERTAKING OR BEING OVERTAKEN BY OTHER VEHICLES RIDE WITH EXTREME CAUTION. WHEN IT RAINS, SPRAY CAUSED BY LARGE VEHICLES REDUCES VISIBILITY; AIR SHIFTS MAY CAUSE LOSS OF CONTROL ON YOUR VEHICLE.



02_11

Difficult start up (02_11)

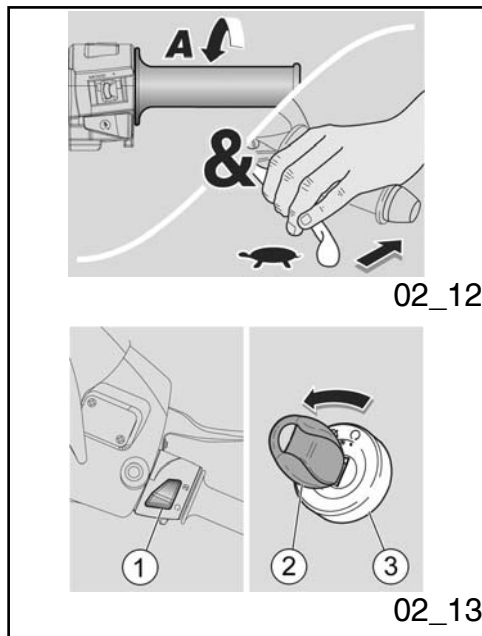
The fuel supply system can control ignition based on the engine condition (hot/cold) or the ambient temperature and pressure.

STARTING AFTER PROLONGED INACTIVITY

- If the vehicle has been inactive for a long time, starting may be delayed as the fuel supply circuit may be partially empty.

In this case:

- Press the starter motor «7» for about ten seconds.



Stopping the engine (02_12, 02_13)

CAUTION

WHENEVER POSSIBLE, AVOID ROUGH BRAKING, SUDDEN DECELERATION AND BRAKING IN EXCESS.

- Release the throttle grip (**Pos. A**) and gradually operate the brakes to stop the vehicle.
- Keep at least one brake operated while at a temporary halt.

PARKING

CAUTION



PARK ON SAFE AND LEVEL GROUND TO PREVENT THE VEHICLE FROM FALLING.

DO NOT LEAN THE VEHICLE ON A WALL OR LAY ON THE GROUND.

MAKE SURE THE VEHICLE AND SPECIALLY ITS HOT PARTS DO NOT POSE ANY RISK TO PEOPLE OR CHILDREN. DO NOT LEAVE YOUR VEHICLE UNATTENDED WITH THE ENGINE ON OR THE KEY IN THE IGNITION SWITCH.

DO NOT SEAT ON THE VEHICLE WHEN THE STAND IS LOWERED.

- Stop the vehicle.
- Set the engine stop switch «1» to «OFF».

CAUTION



WHEN THE ENGINE IS OFF AND THE IGNITION SWITCH IS SET TO "ON" THE BATTERY MAY GET DISCHARGED.

- Turn the key «2» and set the ignition switch «3» to «OFF».
- Rest the vehicle on its stand.

CAUTION

DO NOT LEAVE THE KEY INSERTED IN THE IGNITION SWITCH.

NOTE

WITH THE ENGINE OFF, IT IS NOT NECESSARY TO CLOSE THE FUEL VALVE, FOR IT HAS AN AUTOMATIC SEALING SYSTEM.

- Lock the steering and take out the key «2».

Catalytic silencer

CAUTION



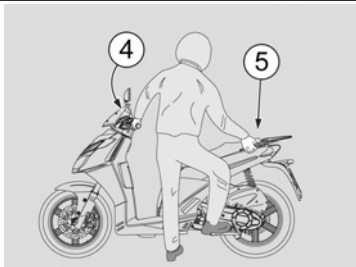
DO NOT TAMPER THE NOISE CONTROL SYSTEM.

Vehicle owners are warned that the law may prohibit the following:

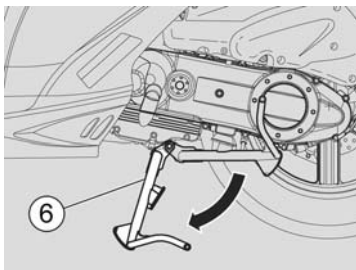
- the removal of any device or element belonging to a new vehicle or any other action by anyone leading to render it non-operating, if not for maintenance, repair or replacement reasons, in order to control noise emission before the sale or delivery of the vehicle to the ultimate buyer or while it is used; and

- using the vehicle after that device or element has been removed or rendered non-operating.

Check the muffler/exhaust silencer and the silencer pipes, make sure there are no signs of rust or holes and that the exhaust system works properly. If exhaust noise increases, take your vehicle at once to an **Official Aprilia Dealer**.



02_14



02_15

Stand (02_14, 02_15)

RESTING THE VEHICLE ON ITS STAND

CENTRE STAND

- Hold the left handgrip «4» and the passenger handgrip «5».
- Push the stand lever «6».

CAUTION

MAKE SURE THE VEHICLE IS STABLE.

Suggestions to prevent theft

NEVER leave the ignition key in the lock and always use the steering lock.

Park the vehicle in a safe place such as a garage or a place with guards.

Whenever possible, use the aprilia "Body-Guard" armoured cable or an additional antitheft device.

Make sure all vehicle documents are in order and the road tax paid.

Write down your personal details and telephone number on this page to help identifying the owner in case of vehicle retrieval after a theft.

LAST NAME:

NAME:

ADDRESS:

.....

TELEPHONE No:

IMPORTANT: In many cases, stolen vehicles can be identified through data indicated in the use and maintenance booklet.



Safe driving (02_16, 02_17, 02_18, 02_19, 02_20, 02_21, 02_22, 02_23, 02_24, 02_25, 02_26, 02_27)

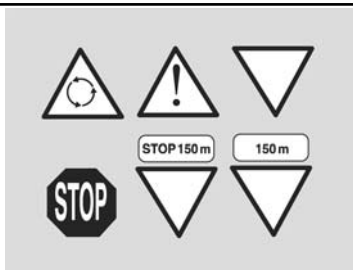
MAIN SAFETY RULES

To ride the vehicle it is necessary to comply with all legal requirements (driving license, minimum driving age, psychophysical performance, insurance, taxes and fees, registration, license plate, etc.).

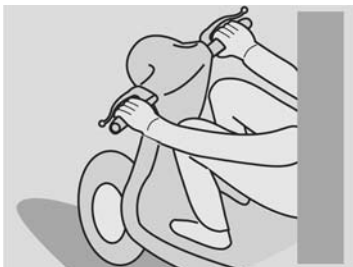
You should practise using the vehicle in traffic-free areas and/or private property until you have become thoroughly acquainted with the vehicle.

Driving under the influence of medication, alcohol and narcotic drugs or psychotropic substances dramatically increases the risk of accidents.

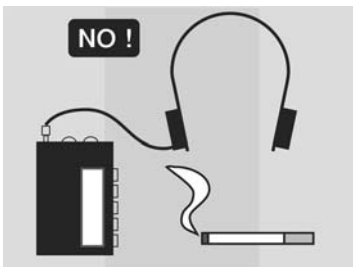
Do not ride your vehicle if you feel tired or drowsy and always keep safe psychophysical rid-



02_17



02_18



02_19

ing conditions.

The main cause of motorcycle accidents is users' inexperience.

NEVER lend the vehicle to beginners and always make sure that the rider complies with all necessary requirements for a safe riding.

Strictly obey all national and local traffic signs and rules.

Avoid any abrupt and dangerous swerves for your own as well as others' safety (for example: rearing up on the back wheel, riding over the speed limit, etc.). Besides, always assess and bear in mind the road surface conditions, visibility, etc.

Do not knock obstacles that can damage the vehicle or cause loss of control.

Do not ride on the course of the vehicle in front of you just to improve your own speed.

CAUTION



ALWAYS RIDE WITH BOTH HANDS ON THE HANDLEBAR AND FEET ON THE FOOTRESTS (OR THE RIDER' S FOOTRESTS) IN THE ADEQUATE RIDING POSITION.

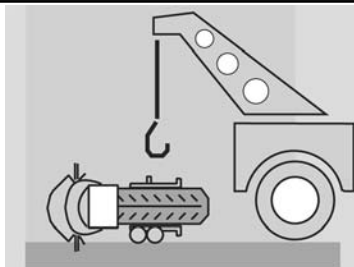
Never stand on your feet or stretch yourself while riding.

The rider should always be attentive, never get distracted or influenced by people, things or actions (never smoke, eat, drink, read, etc.) while riding.

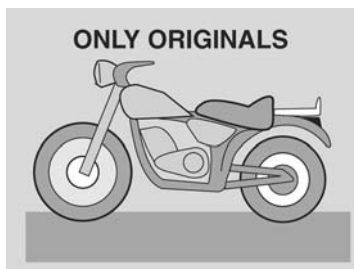
Always use fuel and lubricants specific for the vehicle, of the type recommended in the "LUB-RICANT TABLE". Check fuel, oil and coolant frequently for correct level.

In case of an accident or after the vehicle has fallen down or suffered a sudden bump, make sure the control levers, piping, cables, brake circuit and main parts of the vehicle have not been damaged.

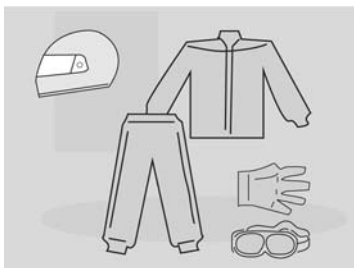
If necessary, take the vehicle to an Official aprilia Dealer to check especially the frame, handlebar, suspensions, safety components and any device the user cannot assess without the aid of a specialist.



02_20



02_21



02_22

Report any malfunction to the engineers and/or mechanics in order to facilitate their work.

Never ride the vehicle if the damage jeopardises safety.

Do not modify the position, angle or colour of: license plate, turn indicators, lighting devices and horn.

Any changes to the vehicle will void the warranty.

Any change introduced to the vehicle and the removal of original parts may jeopardise the vehicle performance and therefore reduce safety or even render the vehicle inappropriate for legal riding.

Comply with all national and local laws and regulations on vehicle equipment.

In particular do not introduce technical changes leading to improve performance and under no circumstances alter the original specifications of the vehicle.

Never race with vehicles.

Never ride off-road.

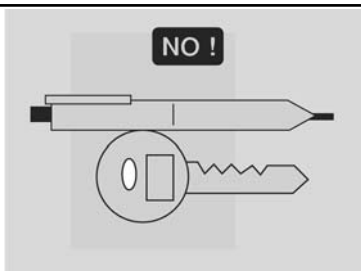
CLOTHING

Before riding off, remember to put on the helmet and fasten it correctly. Make sure it is a homologated model, that it is undamaged, of the right size and that the visor is clean.

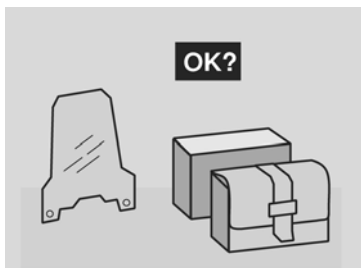
Wear appropriate protective clothes, preferably light-coloured and/or in reflective material. In this way you will be easily visible to other drivers, thus reducing the risk to be hit and you will be better protected in case of falling.

Always wear tight-fitting clothes without open cuffs; avoid hanging strings, belts or ties; these or any other objects should not interfere with a safe riding when getting entangled with the riding elements or due to a special movement.

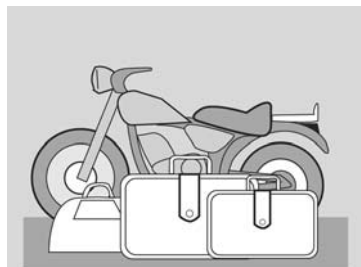
Never carry in your pockets objects that can be potentially dangerous in case of fall, like: pointed objects such as keys, pens, glass containers, etc. (the same rule applies to passengers).



02_23



02_24



02_25

ACCESSORIES

User is personally responsible for the installation and use of the accessories.

While assembling accessories, make sure that they do not cover the sound or light alarm devices or affect their correct functioning, do not limit the suspension travel or the steering angle, do not obstruct control actuation or reduce the ground clearance and inclination angle at corners.

Do not use accessories that hinder access to the controls as they may increase the reaction time in case of an emergency.

Fairings and large windshields fitted to the vehicle may cause aerodynamic forces that affect the vehicle stability while riding, mainly at high speeds.

Make sure the accessory is firm and secured to the vehicle and that it does not pose any risks while riding the vehicle.

Do not add or modify electrical equipment that exceed the vehicle capacity as this may result in a sudden stop or a dangerous lack of power required to keep the sound and light alarm devices operative.

aprilia advises using original accessories (**aprilia** genuine accessories).

LOADING

Do not overload your vehicle. Keep packages as close as possible to the vehicle centre of gravity and distribute load evenly on both sides to minimise imbalance. Check also that the load is firm and secured to the vehicle, mainly for long trips.

Do not hang anything from your vehicle's handlebars, mudguards or forks, such as protruding, bulky, heavy and/or dangerous objects: this will slow the vehicle performance when turning and will upset the handling of your vehicle.

Do not carry packages that protrude from vehicle sides as this may hit people or objects and result in loss of control of your vehicle.

Never carry packages that are not securely fastened to the vehicle.



02_26



02_27

Do not carry packages that protrude from the luggage rack or which cover any of the sound and light alarm devices.

Never carry animals or small children on the glove-box or the luggage rack.

Never exceed the maximum weight allowed for each luggage rack.

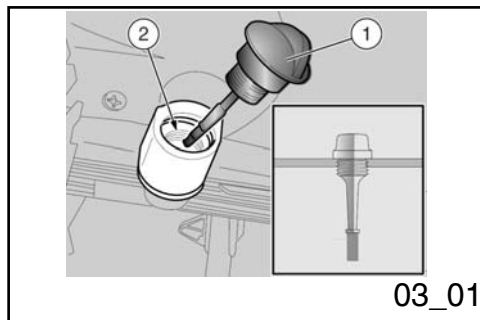
Overloading the vehicle may result in lack of stability and poor handling.

SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 03
Maintenance



Engine oil level

Check engine oil level frequently according to the indications in the scheduled maintenance table.

CAUTION



HANDLING OIL FOR PROLONGED PERIODS AND ON A REGULAR BASIS CAN CAUSE SERIOUS SKIN DAMAGE.

WASH YOUR HANDS CAREFULLY AFTER HANDLING OIL.

WHEN CARRYING OUT MAINTENANCE OPERATIONS, IT IS ADVISABLE TO WEAR LATEX GLOVES.

KEEP OUT OF REACH OF CHILDREN

DO NOT DISPOSE OF OIL INTO THE ENVIRONMENT.

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT SPILL OIL.

BE CAREFUL NOT TO DIRTY COMPONENTS, THE WORKING OR SURROUNDING AREA.

THOROUGHLY WASH OUT ANY OIL TRACE.

IN CASE OF OIL LEAKS OR MALFUNCTIONING, TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER.

NOTE

USE 5W-40 OIL.

NOTE

DO NOT EXCEED THE "MAX" MARK WHEN TOPPING UP ENGINE OIL.

Take your vehicle to an Official **aprilia** Dealer to carry out the replacement.

Level check (03_01)

- Rest the vehicle on its centre stand.

CAUTION

PARK THE VEHICLE ON SAFE AND LEVEL GROUND.

CAUTION

THE ENGINE AND THE COMPONENTS OF THE EXHAUST SYSTEM CAN GET VERY HOT AND REMAIN SO FOR SOME TIME EVEN AFTER THE ENGINE IS TURNED OFF. WEAR INSULATING GLOVES BEFORE HANDLING THESE PIECES OR WAIT UNTIL THE ENGINE AND THE EXHAUST SYSTEM COOL DOWN.

- Stop the engine and let it cool off so that the oil in the crankcase flows down and cools as well.

NOTE

FAILURE TO FOLLOW THESE OPERATIONS MAY RESULT IN AN INCORRECT READING OF THE ENGINE OIL LEVEL.

- Unscrew and take out the measuring cap-dipstick "1".
- Clean the area in contact with oil with a clean cloth.
- Screw the cap-dipstick "1" fully down into its tube "2".
- Extract the cap-dipstick "1" again and read the oil level on the cap-dipstick:

MAX = maximum level;

MIN = minimum level.

The difference between "**MAX**" and "**MIN**" is about 200 cm³

- The level is correct when it is close to the **MAX** level marked on the measuring dipstick.
- Top up if necessary.

CAUTION



IN ORDER TO AVOID DAMAGING THE ENGINE OIL LEVEL MUST NEVER EXCEED THE "MAX" MARK OR FALL BELOW THE "MIN" MARK.

Oil top up

- Pour a little oil through the dipstick tube "2" and wait one minute so that the oil flows uniformly into the crankcase.
- Check oil level and top up if necessary.
- Do so with small quantities of oil at a time until the specified level is reached.
- After finishing this operation, screw and tighten the tap/dipstick "1".

CAUTION



DO NOT RIDE THE VEHICLE WITH INSUFFICIENT LUBRICATION OR WITH CONTAMINATED OR INCORRECT LUBRICANTS AS THIS ACCELERATES THE WEAR AND TEAR OF THE MOVING PARTS AND CAN CAUSE IRRETRIEVABLE DAMAGE.

Hub oil level

Check following the instructions in the scheduled maintenance table and according to the engine capacity.

Take your vehicle to an Official **aprilia** Dealer to have the oil checked and changed.

CAUTION



HANDLING OIL FOR PROLONGED PERIODS AND ON A REGULAR BASIS CAN CAUSE SERIOUS SKIN DAMAGE.

WASH YOUR HANDS CAREFULLY AFTER HANDLING OIL.

WHEN CARRYING OUT MAINTENANCE OPERATIONS, IT IS ADVISABLE TO WEAR LATEX GLOVES.

KEEP OUT OF REACH OF CHILDREN

DO NOT DISPOSE OF OIL INTO THE ENVIRONMENT.

CAUTION



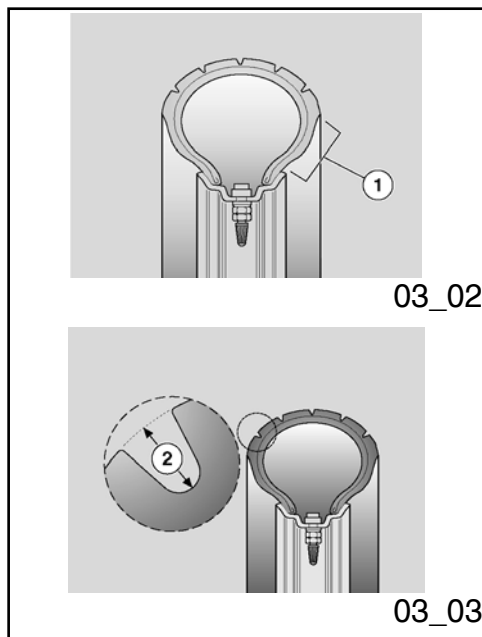
PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT SPILL OIL.

BE CAREFUL NOT TO DIRTY COMPONENTS, THE WORKING OR SURROUNDING AREA.

THOROUGHLY WASH OUT ANY OIL TRACE.

IN CASE OF OIL LEAKS OR MALFUNCTIONING, TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER.



Tyres (03_02, 03_03)

This vehicle is fitted with tyres without inner tubes (tubeless).

CAUTION



CHECK FREQUENTLY TYRE PRESSURE WITH TYRES AT AMBIENT TEMPERATURE.

THE MEASUREMENT MAY BE INCORRECT IF TYRES ARE WARM. CHECK TYRE PRESSURE PARTICULARLY BEFORE AND AFTER A LONG JOURNEY. IF TYRE PRESSURE IS TOO HIGH, THE SURFACE UNEVENNESS IS NOT CUSHIONED AND IS SENT TO THE HANDLEBAR, RESULTING IN UNPLEASANT RIDING AND POOR ROAD GRIP SPECIALLY WHEN TURNING.

CONVERSELY, WITH INADEQUATE TYRE PRESSURE, TYRE SIDES "1" BEAR MORE STRESS AND THE TYRE CAN SLIDE ON THE RIM OR EVEN GET DETACHED RESULTING IN LOSS OF CONTROL OVER THE VEHICLE. IN CASE OF SHARP BRAKING, TYRES CAN EVEN GET OFF THE RIMS. LASTLY, THE VEHICLE MIGHT SKID IN A BEND. INSPECT TREAD SURFACE AND CHECK FOR WEAR. BADLY WORN TYRES ADVERSELY AFFECT TRACTION AND HANDLING. SOME TYRE TYPES HOMOLOGATED FOR THIS VEHICLE FEATURE WEAR INDICATORS. THERE ARE SEVERAL TYPES OF WEAR INDICATORS. CONSULT YOUR DEALER ON METHODS TO CHECK FOR WEAR. CARRY OUT A VISUAL INSPECTION FOR TYRE CONSUMPTION, REPLACE THEM IF WORN.

OLD TYRES THAT ARE NOT FULLY WORN CAN GET HARD RESULTING IN LACK OF

GRIP. REPLACE TYRES IF THIS OCCURS. REPLACE TYRES WHEN WORN OR IF THE TREAD HAS A HOLE BIGGER THAN 5 MM. AFTER A TYRE IS MENDED, BALANCE THE WHEELS. USE ONLY TYRE SIZES INDICATED BY THE MANUFACTURER. DO NOT FIT TYRES WITH INNER TUBES ON RIMS FOR TUBELESS TYRES OR VICE VERSA. CHECK THAT THE INFLATION VALVES HAVE THEIR CAPS IN ORDER TO AVOID UNEXPECTED FLAT TYRES.

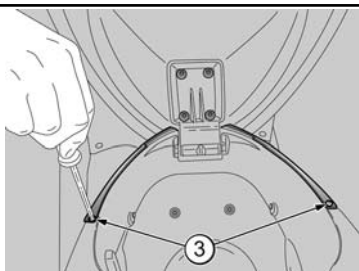
REPLACEMENT, REPAIR, MAINTENANCE AND BALANCING OPERATIONS ARE HIGHLY IMPORTANT AND SO THEY SHOULD BE CARRYING OUT USING THE SPECIFIC AND WITH THE ADEQUATE KNOWLEDGE. IT IS THEREFORE ESSENTIAL TO TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER OR SPECIALISED TYRE WORKSHOP TO CARRY OUT THE OPERATIONS ABOVE. NEW TYRES CAN BE COVERED BY A SLIPPERY COAT: RIDE WITH CAUTION DURING THE FIRST KILOMETRES. DO NOT APPLY UNSUITABLE LIQUIDS ON TYRES.

TREAD DEPTH MINIMUM THRESHOLD "2"

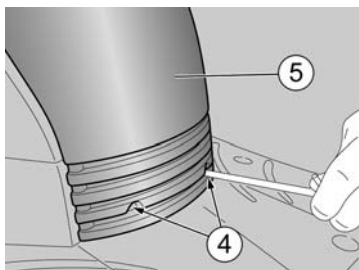
Specification	Desc./Quantity
Front:	2 mm
Rear	2 mm

TYRE WEAR MINIMUM THRESHOLD "2" (USA VERSION)

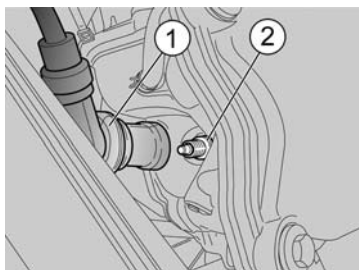
Specification	Desc./Quantity
Front (USA version)	3 mm
Rear (USA version)	3 mm



03_04



03_05



03_06

Spark plug dismantlement (03_04, 03_05, 03_06, 03_07)

Check the spark plug following the instructions on the scheduled maintenance table and according to the engine capacity. Remove the spark plug regularly, clean off carbon scales, and replace it if necessary.

To access the spark plug:

- Lift the saddle.
- Undo and remove the screws «3».
- Undo and remove the screws «4».

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

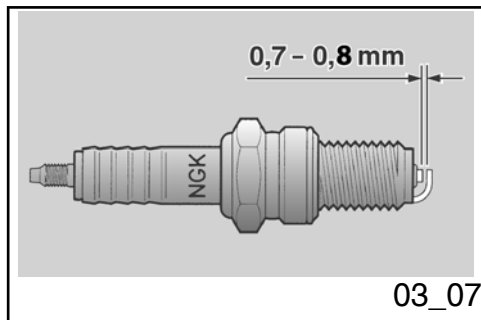
HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH OR IMPAIR THEM.

- Pull and slide off the front inspection cover «5».

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE POSITIONS.



For removal and cleaning:

CAUTION



BEFORE CARRYING OUT THE FOLLOWING STEPS, ALLOW THE ENGINE AND THE MUFFLER TO COOL DOWN UNTIL THEY REACH ROOM TEMPERATURE IN ORDER TO AVOID ANY BURNS.

- Remove the tube «1» of the spark plug «2».
- Remove any mark of dirt from the spark plug base; unscrew it with the wrench supplied with the tool kit and pull it off its seat, being careful not to let any dust or any other substances into the cylinder.
- Check that the spark plug electrode and central porcelain insulator do not have carbon deposits or corrosion marks; if necessary, clean them with an appropriate spark plug cleaner and an iron wire and/or metal brush.
- Blow vigorously with a blast of air so that no removed deposit gets into the engine. The spark plug should be replaced if it shows cracks on the insulator, corroded electrodes or too many deposits.
- Check the gap between electrodes with a thickness gauge. This gap should be **0.7 - 0.8 mm**; if necessary, adjust it by carefully bending the earth electrode.
- Make sure the washer is in good conditions. Fit the washer and then screw the spark plug manually to avoid damaging the thread.
- Tighten using the spanner supplied with the toolkit, making the spark plug complete 1/2 of a turn to compress the washer.

CAUTION

TIGHTEN THE SPARK PLUG CORRECTLY. OTHERWISE, THE ENGINE MAY OVERHEAT AND GET IRRETRIEVABLE DAMAGED.

USE ONLY THE RECOMMENDED TYPE OF SPARK PLUG, OTHERWISE, THE ENGINE DURATION AND PERFORMANCE COULD BE COMPROMISED.

Characteristic

Spark plug electrode gap

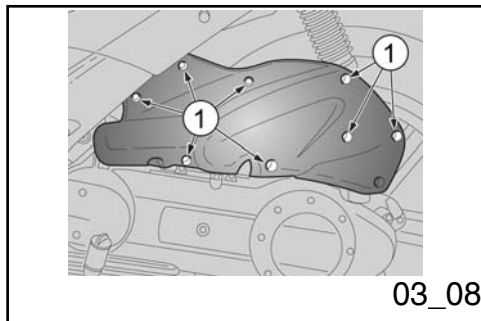
0.7 -0.8 mm

Locking torques (N*m)

Spark plug tightening torque

18 Nm (1.8 kgm)

- Place the tube of the spark plug «1 » correctly so that it does not get disconnected due to engine vibrations.
- Reassemble the central inspection cover «5».



03_08

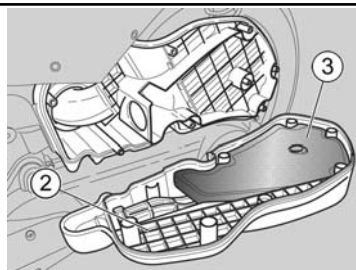
Removing the air filter (03_08, 03_09)

Clean the air filter and check it is in good conditions following the instructions in the scheduled maintenance table and according to the engine capacity. This will depend on use conditions.

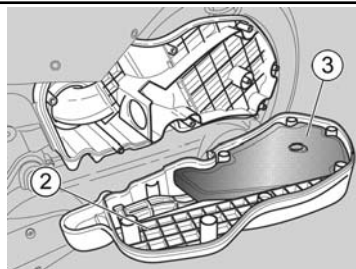
If the vehicle is used in dusty or wet roads, cleaning operations should be carried out more frequently.

Remove the filtering element from the vehicle for cleaning.

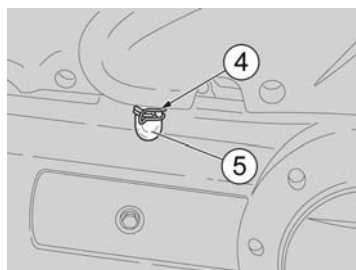
- Undo and remove the nine screws «1».
- Open the filter housing.
- Slide off the filtering element «3» from the filter housing cover «2».



03_09



03_10



03_11

Air filter cleaning (03_10, 03_11)

CAUTION



DO NOT USE PETROL OR FLAMMABLE SOLVENTS TO CLEAN THE FILTERING ELEMENT TO AVOID RISK OF FIRE OR EXPLOSION.

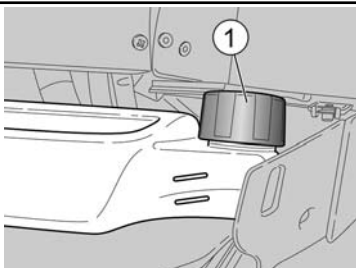
- Wash the filtering element «3» with clean non-inflammable or high-volatility solvents and let it dry it thoroughly.
- Apply filter oil over the surface.
- Check that the bottom of the bleed pipe «4» is not dirty.

NOTE

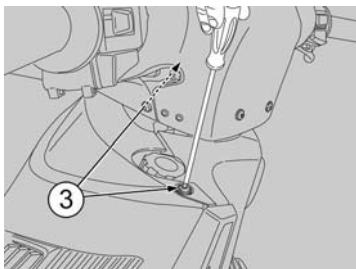
REMOVE ANY DEPOSIT THAT MAY HAVE FORMED IN THE BLEED PIPE, COMING FROM THE FILTER HOUSING. PROCEED AS FOLLOWS:

- Remove the cap «5».

- Drain off the content in a bowl; then, send it to a recycling bank.



03_12



03_13

Cooling fluid level (03_12, 03_13, 03_14)

CAUTION



DO NOT USE YOUR VEHICLE IF THE COOLANT LEVEL IS BELOW THE MINIMUM LEVEL MARKED "MIN".

Check the coolant level following the instructions in the scheduled maintenance table and according to the engine capacity.

CAUTION



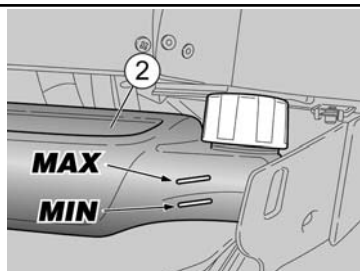
COOLANT IS TOXIC IF INGESTED; CONTACT WITH EYES OR SKIN MAY CAUSE IRRITATION. IN THE EVENT OF CONTACT WITH EYES OR SKIN, RINSE REPEATEDLY WITH ABUNDANT WATER AND SEEK MEDICAL ADVICE. IF INGESTED, INDUCE VOMITING, RINSE MOUTH AND THROAT WITH ABUNDANT WATER AND SEEK MEDICAL ADVICE IMMEDIATELY.

CAUTION



DO NOT DISPOSE OF THE FLUID INTO THE ENVIRONMENT.

CAUTION



03_14

**KEEP OUT OF REACH OF CHILDREN****CAUTION**

PAY ATTENTION NOT TO POUR COOLANT ONTO THE ENGINE HOT COMPONENTS; IT MAY CATCH FIRE PRODUCING INVISIBLE FLAMES. WHEN CARRYING OUT MAINTENANCE OPERATIONS, IT IS ADVISABLE TO WEAR LATEX GLOVES. TAKE THE VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER TO CARRY OUT THE REPLACEMENT.

Coolant solution is 50% water and 50% antifreeze fluid. This is the ideal mixture for most operating temperatures and provides good corrosion protection. This solution is also suited to the warm season, as it is less prone to evaporative loss and will reduce the need for top-ups. Thus, mineral salt deposits formed in the radiator by evaporated water are also minimised and the efficiency of the cooling system is not affected. When the temperature drops below zero degrees centigrade, check the cooling system frequently and add more antifreeze if needed (up to 60% max.).

Use distilled water in the coolant mixture to avoid damaging the engine.

CAUTION

DO NOT REMOVE THE EXPANSION TANK CAP "1" WHEN THE ENGINE IS HOT, SINCE COOLANT IS UNDER PRESSURE AND VERY HOT. CONTACT WITH SKIN OR CLOTHES MAY CAUSE SEVERE BURNS AND/OR INJURIES.

CHECKING**CAUTION**



WAIT FOR THE ENGINE TO COOL DOWN BEFORE CHECKING OR TOPPING UP THE COOLANT LEVEL.

- Shut off the engine and wait until it cools off.

CAUTION



PARK THE VEHICLE ON SAFE AND LEVEL GROUND.

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Undo and remove the screws «3».

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH OR IMPAIR THEM.

- Remove the front case.

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE POSITIONS.

- Make sure that the coolant level in the expansion tank «2» is between the «**MIN**» and «**MAX**» reference marks.

MIN = minimum level.

MAX = maximum level.

Otherwise, top-up.

TOPPING-UP

- Loosen but do not remove the filler cap «1» (by rotating it twice anticlockwise).
- Wait for a few seconds so that possible pressure may be purged.
- Unscrew and remove the cap «1».

CAUTION



COOLANT IS TOXIC IF INGESTED; CONTACT WITH EYES OR SKIN MAY CAUSE IRRITATION. DO NOT INTRODUCE YOUR FINGERS OR ANY OTHER OBJECT TO CHECK IF THERE IS COOLANT OR NOT.

CAUTION



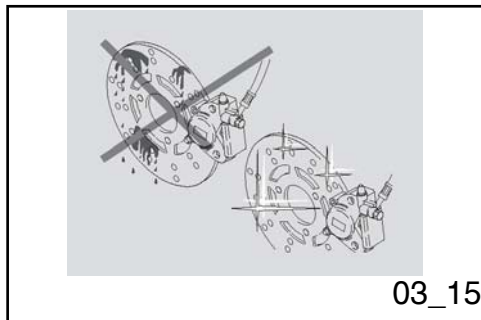
WHEN TOPPING-UP, DO NOT EXCEED THE "MAX" LEVEL OR THE FLUID WILL FLOW OUT WHEN THE ENGINE IS RUNNING.

- Top-up with coolant until the fluid level is close to the «**MAX**» mark.
- Refit the filler cap «1».

CAUTION

IF THERE IS AN EXCESSIVE CONSUMPTION OF COOLANT OR THE RESERVOIR REMAINS EMPTY, CHECK THAT THERE ARE NO LEAKS IN THE CIRCUIT. FOR REPAIRS, TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER.

- Refit the front case.

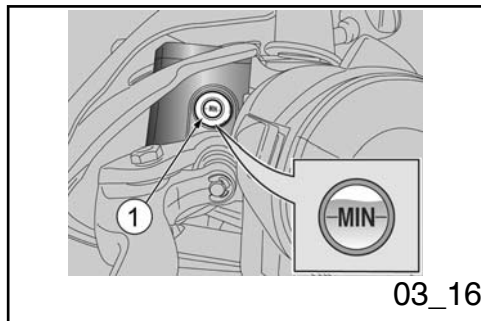
**Checking the brake oil level (03_15, 03_16)****NOTE**

THIS VEHICLE IS FITTED WITH FRONT AND REAR DISC BRAKES WITH INDEPENDENT HYDRAULIC CIRCUITS. THE FOLLOWING INFORMATION REFERS TO ONE BRAKING CIRCUIT BUT IS VALID FOR BOTH.

CAUTION

UNEXPECTED CLEARANCE VARIATIONS OR ELASTIC RESISTANCE IN THE BRAKE LEVER ARE DUE TO FAILURE IN THE HYDRAULIC CIRCUIT. DO NOT HESITATE TO CONTACT AN OFFICIAL APRILIA DEALER IN CASE OF DOUBTS ON THE CORRECT OPERATION OF THE BRAKING SYSTEM OR WHEN UNABLE TO CARRY OUT ROUTINE CHECK PROCEDURES.

CAUTION



03_16

PAY SPECIAL ATTENTION TO THE BRAKE DISC AND THE FRICTION GASKETS AND CHECK THAT THEY ARE NOT OILY OR GREASY, SPECIALLY AFTER MAINTENANCE OPERATIONS OR CHECKS. CHECKED THAT THE BRAKE PIPE IS NOT TWISTED OR WORN.

KEEP OUT OF THE REACH OF CHILDREN

DO NOT DISPOSE OF THE FLUID INTO THE ENVIRONMENT.

When the friction pads wear out, the brake fluid level in the reservoir goes down to automatically compensate for that wear.

The brake fluid reservoirs are located on the handlebar, near the brake lever attachments.

Check frequently the brake fluid level in the reservoirs and the brake pad wear.

CAUTION



DO NOT USE YOUR VEHICLE IF A FLUID LEAK IN THE BRAKING CIRCUIT IS DETECTED.

Checking

To check level:

CAUTION



PARK THE VEHICLE ON SAFE AND LEVEL GROUND.

- Rest the vehicle on its centre stand.

- Rotate the handlebar so that the fluid in the brake fluid reservoir is parallel to the «**MIN**» reference mark on the sight glass «1».
- Check that the fluid in the reservoir is above the «**MIN**» reference mark on the sight glass «1».

MIN = minimum level.

If the fluid does not reach at least the «**MIN**» reference mark:

CAUTION

BRAKE LEVEL DECREASES GRADUALLY AS THE BRAKE PADS WEAR DOWN.

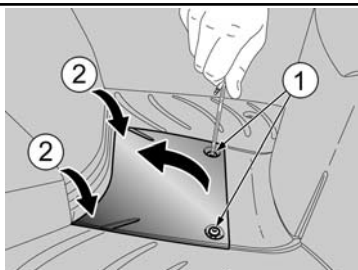
- Check the brake pads and discs for wear

If pads and/or the disc need not to be replaced:

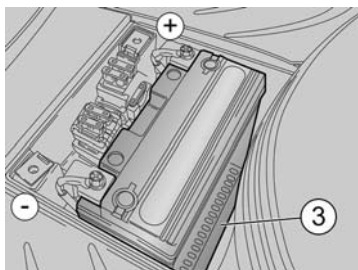
- Take your vehicle to an **Official aprilia Dealer** to carry out the replacement.

CAUTION

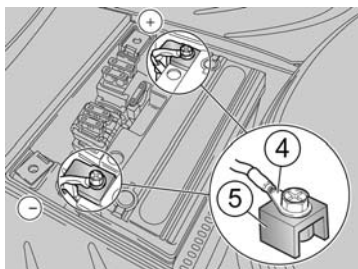
CHECK BRAKING EFFICIENCY. IN CASE OF EXCESSIVE TRAVEL OF THE BRAKE LEVER OR POOR PERFORMANCE OF THE BRAKING CIRCUIT, TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER AS IT MAY BE NECESSARY TO PURGE AIR IN THE CIRCUIT.



03_17



03_18



03_19

Battery (03_17, 03_18, 03_19)

Check that the leads are tightened following the instructions on the scheduled maintenance table and according to the engine capacity.

CAUTION

FIRE HAZARD. FUEL OR ANY OTHER FLAMMABLE SUBSTANCES MUST NOT BE CLOSE TO ELECTRICAL COMPONENTS.

THE BATTERY ELECTROLYTE IS TOXIC, CORROSIVE AND AS IT CONTAINS SULPHURIC ACID, IT CAN CAUSE BURNS WHEN IN CONTACT WITH THE SKIN. WEAR PROTECTION CLOTHES, A FACE MASK AND/OR SAFETY GOGGLES WHEN CARRYING OUT MAINTENANCE OPERATIONS. IF THE ELECTROLYTIC FLUID GETS INTO CONTACT WITH THE SKIN, WASH WITH ABUNDANT COOL WATER.

IF THE FLUID GETS INTO CONTACT WITH THE EYES, WASH WITH ABUNDANT WATER FOR FIFTEEN MINUTES AND CONSULT AN EYE SPECIALIST IMMEDIATELY.

IF IT IS ACCIDENTALLY SWALLOWED, DRINK A LOT OF WATER OR MILK, THEN MILK OF MAGNESIA OR VEGETAL OIL, AND SEEK MEDICAL ADVICE IMMEDIATELY.

THE BATTERY RELEASES EXPLOSIVE GASES. KEEP IT AWAY OF FLAMES, SPARKS, CIGARETTES OR ANY OTHER HEAT SOURCE.

WHEN RECHARGING OR USING THE BATTERY, BE CAREFUL TO HAVE THE ROOM ADEQUATELY AIRED. DO NOT BREATHE GASES RELEASED WHEN THE BATTERY IS RECHARGED.

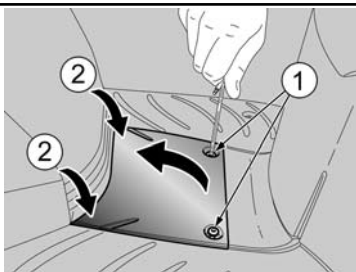
KEEP OUT OF REACH OF CHILDREN

PAY ATTENTION NOT TO TILT THE VEHICLE EXCESSIVELY TO AVOID DANGEROUS SPILLS OF BATTERY FLUID.

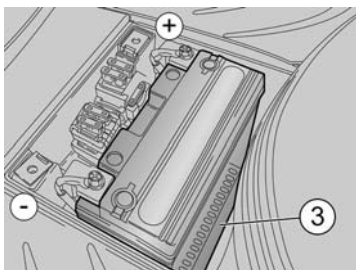
CAUTION

DO NOT INVERT THE CONNEXIONS OF THE BATTERY LEADS.

CONNECT AND DISCONNECT THE BATTERY WITH THE IGNITION SWITCH SET TO "OFF", OTHERWISE THIS MAY DAMAGE SOME COMPONENTS. FIRST CONNECT THE POSITIVE TERMINAL (+) AND THEN THE NEGATIVE ONE (-). DISCONNECT IN THE RE-



03_20



03_21

VERSE ORDER.

BATTERY FLUID IS CORROSIVE.

DO NOT POUR OR SPREAD IT ESPECIALLY ON PLASTIC PARTS.

WHEN RECHARGING A "MAINTENANCE FREE" BATTERY INSTALLED USE A SPECIFIC BATTERY CHARGER (VOLTAGE/CONSTANT AMPERAGE OR CONSTANT VOLTAGE TYPE).

USING A CONVENTIONAL BATTERY CHARGER MAY DAMAGE THE BATTERY.

Battery removal

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Undo and remove the two screws «1».

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH OR IMPAIR THEM.

- To lift the cover, press the end «2» from the side opposite the screws.
- Remove the battery compartment cover.

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE

POSITIONS.

- Disconnect the negative lead (-) first and then the positive one (+).
- Remove the battery «3» from its housing and put it away in a cool and dry place.

CAUTION

ONCE REMOVED THE BATTERY MUST BE PUT AWAY IN A SAFE PLACE AND OUT OF THE REACH OF CHILDREN.

Checking and cleaning terminals and leads

- Check that the terminals «4» of the cables and the battery leads «5» are:

- in good conditions (not corroded or covered by deposits);-

- covered by neutral grease or petroleum jelly.

If necessary:

- Disconnect the negative lead (-) first and then the positive one (+).
- Brush with a metal bristle brush to eliminate any sign of corrosion.
- Connect again the positive lead (+) first and then the negative one (-).
- Cover the terminals and leads with neutral grease or petroleum jelly.

Battery recharge**CAUTION**

DO NOT REMOVE THE BATTERY CELL CAPS OR THE BATTERY MAY BE DAMAGED.

- Remove the battery.
- Get an adequate battery charger.
- Set the battery charger for slow recharge.
- Connect the battery to the battery charger.

CAUTION

WHEN RECHARGING OR USING THE BATTERY, BE CAREFUL TO HAVE THE ROOM ADEQUATELY AIRED. DO NOT BREATHE GASES RELEASED WHEN THE BATTERY IS RECHARGING.

- Switch on the battery charger.

Use of a new battery (03_20, 03_21)

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Undo and remove the two screws «1».

CAUTION

PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH OR IMPAIR THEM.

- To lift the cover, press the end «2» from the side opposite the screws.
- Remove the battery compartment cover.

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE POSITIONS.

- Place the battery «3» in its housing.
- Connect the positive lead (+) first and then the negative one (-).
- Cover terminals and leads with neutral grease or petroleum jelly.
- Refit the battery compartment cover.



Long periods of inactivity (03_22)

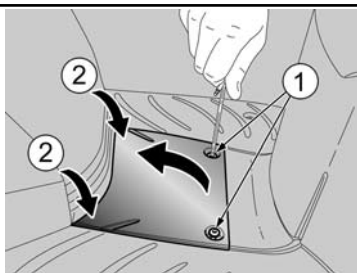
If the vehicle is not used for more than fifteen days, it is necessary to recharge the battery to avoid sulphation:

- Remove the battery and put it away in a cool and dry place.

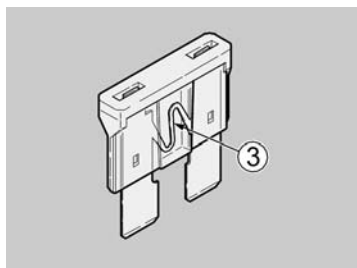
In winter or when the vehicle remains stopped, check the charge frequently (about once a month) to avoid deterioration.

- Fully recharge with an ordinary charge.

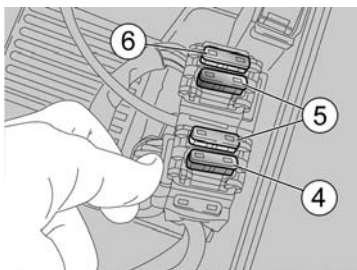
If the battery is still on the vehicle, disconnect the cables from the terminals.



03_23



03_24



03_25

Fuses (03_23, 03_24, 03_25)

CAUTION

DO NOT REPAIR FAULTY FUSES.

NEVER USE FUSES OTHER THAN THE ONES SPECIFIED.

DAMAGE TO THE ELECTRICAL SYSTEM OR EVEN FIRE MAY BE CAUSED IN CASE OF A SHORT CIRCUIT.

NOTE

IF A FUSE BLOWS OUT FREQUENTLY, THAT MAY BE DUE TO A SHORT CIRCUIT OR OVERLOAD. IF THIS OCCURS CONSULT AN OFFICIAL APRILIA DEALER.

Checking the fuses is necessary whenever an electrical component fails to operate or is malfunctioning or when the engine does not start.

Check the 7.5 to 15A fuses first and then the 20A fuse.

To carry out the check:

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Undo and remove the two screws «1».

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH

OR IMPAIR THEM.

- To lift the cover, press the end «2» from the side opposite the screws.
- Remove the battery compartment cover.

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE POSITIONS.

- Extract a fuse at a time and check whether the link bar «3» is divided.
- When you find a blown fuse, determine and rectify the cause (if possible), before fitting a new one.
- Replaced any failed fuses with a fuse of equal current rating.

NOTE

WHEN YOU USE ONE OF THE SPARE FUSES, REMEMBER TO ADD A NEW ONE OF EQUAL RATING TO THE FUSE BOX.

- Refit the battery compartment cover.

FUSE DISTRIBUTION

Specification	Desc./Quantity
7.5A fuse (4)	From the ignition switch to

	ignition.
15A fuse (5)	From the ignition switch to all light loads and horn.
20A fuse (6)	From the battery to ignition switch, voltage regulator, electrical fan.

Lamps

CAUTION



FIRE HAZARD. FUEL OR ANY OTHER FLAMMABLE SUBSTANCES MUST NOT BE CLOSE TO ELECTRICAL COMPONENTS.

CAUTION



BEFORE REPLACING A BULB, TURN THE IGNITION SWITCH TO "OFF" AND WAIT A FEW MINUTES FOR THE BULB TO COOL OFF.

WEAR CLEAN GLOVES OR USE A CLEAN DRY CLOTH TO REPLACE THE BULB.

DO NOT LEAVE PRINTS ON THE BULB AS THIS MAY CAUSE IT TO OVERHEAT OR EVEN BLOW OUT. IF YOU TOUCH THE BULB WITHOUT WEARING GLOVES, CLEAN OFF PRINTS WITH ALCOHOL TO AVOID DAMAGING THE BULB.

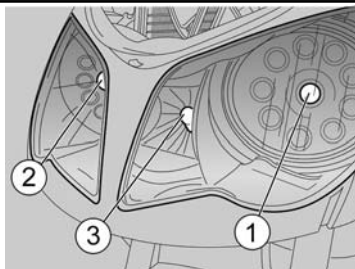
DO NOT FORCE ELECTRICAL CABLES.

NOTE

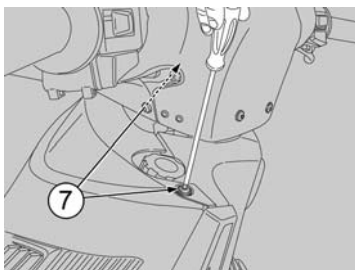
BEFORE CHANGING A BULB, CHECK THE FUSES.

BULBS/WARNING LIGHTS

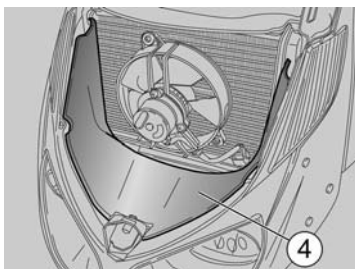
Specification	Desc./Quantity
High-/low-beam bulb	12 V - 55 W - H7
Tail light bulb	12V - 3W
Turn indicators bulb	12V - 10W
Rear tail light /stop light bulb	12V - 5/21W
License plate light bulb	12V - 5W
Dashboard light bulb	LED
Turn indicator warning light	LED
High-beam warning light	LED
Low fuel warning light	LED
EFI warning light	On the LCD display



03_26



03_27



03_28

Front light group (03_26, 03_27, 03_28, 03_29)

In the front headlight there are:

- one high-beam bulb «1»;
- one low-beam bulb «2»;
- one tail light bulb «3».

For replacement:

- Undo and remove the screws «7»

CAUTION



PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

HANDLE THE PLASTIC AND PAINTED COMPONENTS WITH CARE, DO NOT SCRATCH OR IMPAIR THEM.

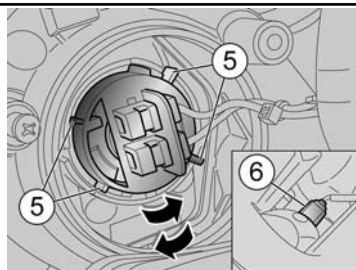
- Remove the front case.

NOTE



WHEN REFITTING, INSERT THE FITTING TABS CORRECTLY IN THEIR APPROPRIATE POSITIONS.

- Remove the radiator air deflector «4» by lifting it from the front side.



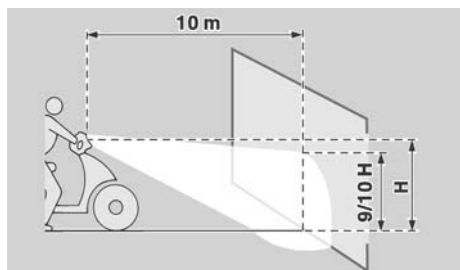
03_29

NOTE

UPON REFITTING THE RADIATOR AIR DEFLECTOR INSERT THE FIXING TABS UNDER THE RADIATOR

LOW- / HIGH-BEAM LIGHT BULB (HALOGEN)**CAUTION**

DO NOT PULL THE ELECTRICAL CABLES WHEN TAKING OUT THE BULB ELECTRICAL CONNECTOR.

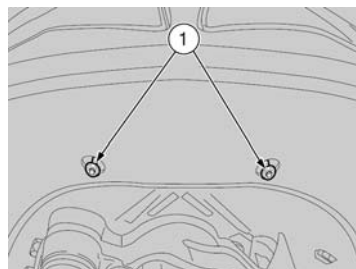


03_30

- Grip the bulb electric connector; turn it anticlockwise and slide it off.
- Take out the bulb.

When refitting the bulb:

- Place the bulb in the parabole fitting making sure that the reference tongues «5» are correctly placed in their slots.
- Turn the bulb clockwise.



03_31

TAIL LIGHT BULB**CAUTION**

DO NOT PULL THE ELECTRICAL CABLES WHEN TAKING OUT THE BULB HOLDER.

- Grip the bulb holder «6» and take it out from its fitting.
- Slide off the tail light bulb and replace it with one of the same type.

Headlight adjustment (03_30, 03_31)

For a quick check of the correct direction of the front light beams, place the vehicle ten metres from a vertical wall and make sure the ground is level.

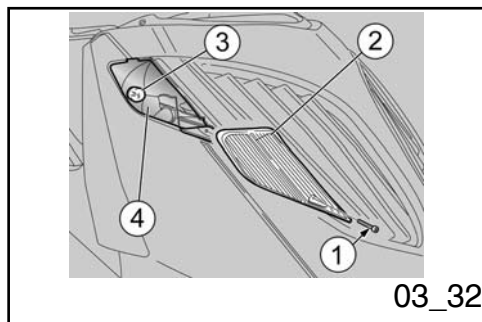
Turn on the low-beam light, sit on the vehicle and check that the light beam projected to the wall is a little below the headlight horizontal straight line (about 9/10 of the total height).

To adjust the light beam:

- Use a screwdriver on the corresponding screws «1» that are located on the front wheelhouse.

TIGHTEN the screw (clockwise) to raise the light beam.

UNDO the screw (anticlockwise) to lower the light beam.



Front direction indicators (03_32)

For replacement:

NOTE

THE FOLLOWING INFORMATION REFERS TO ONLY ONE INDICATOR BUT IT APPLIES TO ALL INDICATORS.

- Unscrew and remove the screw «1».

CAUTION

PROCEED WITH CAUTION.

DO NOT DAMAGE THE TABS AND/OR THEIR CORRESPONDING SLOTS.

- Remove the protective glass «2».

- Press the bulb «3» slightly and turn it anticlockwise.

NOTE

IF THE BULB HOLDER «4» STICKS OUT ITS FITTING, INSERT IT AGAIN CORRECTLY.

- Take out the bulb from its fitting.

NOTE

INSERT THE BULB IN THE BULB HOLDER SO THAT THE TWO GUIDING PINS COINCIDE WITH THEIR GUIDES ON THE BULB HOLDER.

- Install a bulb of the same type adequately.

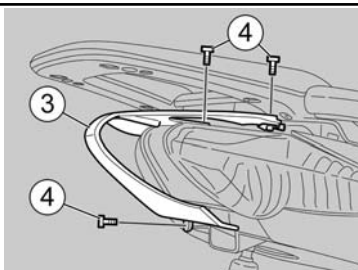
When refitting the bulb:

NOTE

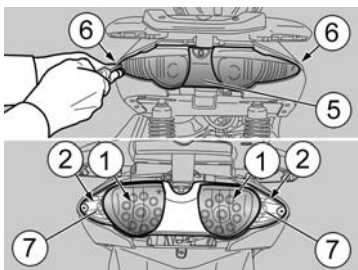
POSITION THE PROTECTIVE GLASS «2» CORRECTLY IN ITS FITTING.

CAUTION

TIGHTEN THE SCREW «1» CAREFULLY AND MODERATELY TO AVOID DAMAGING THE PROTECTIVE GLASS «2».



03_33



03_34

Rear optical unit (03_33, 03_34)

In the rear light there are:

- two tail light/stop light bulbs «1»;
- two rear turn indicator bulbs «2».

To replace the bulbs:

- Remove the fairing of the tail light «3» by undoing the screws «4».
- Remove the tail light glass «5» by undoing the screws «6».

TAIL LIGHT / STOP LIGHT BULB

- Press the bulb «1» slightly and turn it anticlockwise.
- Take out the bulb from its fitting.

NOTE

INSERT THE BULB IN THE BULB HOLDER SO THAT THE TWO GUIDING PINS COINCIDE WITH THEIR GUIDES ON THE BULB HOLDER.

- Install a bulb of the same type adequately.

REAR TURN INDICATOR BULB

- Remove the coloured glass «7» being careful not to damage it.
- Press the bulb «2» slightly and turn it anticlockwise.
- Take out the bulb from its fitting.

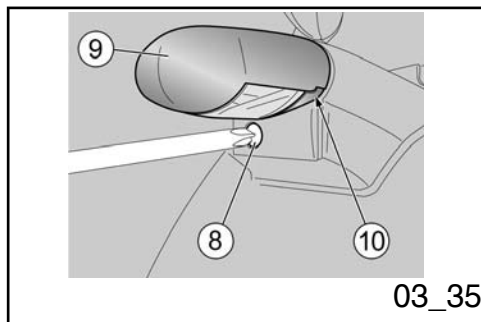
NOTE

UPON REFITTING, PLACE THE FAIRING OF THE TAIL LIGHT «3» CORRECTLY INTO PLACE.

CAUTION

TIGHTEN THE SCREWS «6» CAREFULLY AND MODERATELY TO AVOID DAMAGING THE TAIL LIGHT GLASS «5».

- Refit the fairing of the tail light «3» by carefully tightening the screws «4».



Number plate light (03_35)

To remove the bulb:

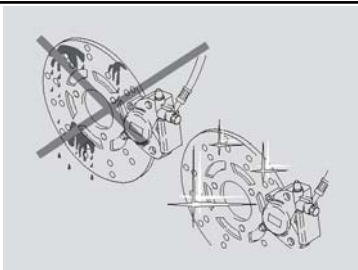
- Undo and remove the screw «8».
- Undo and remove the license plate bulb support «9».
- Slide off the bulb «10» and replace it with one of the same type.

Idle adjustment

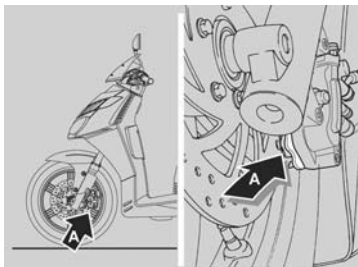
Adjust the idle speed whenever it becomes irregular.

Idle speed is adjusted with the aid of the axone.

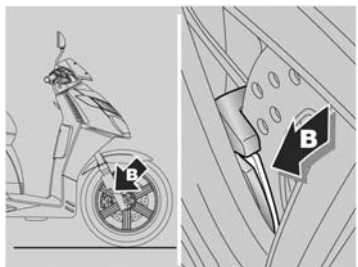
Take your vehicle to an official **aprilia** dealer, if necessary.



03_36



03_37



03_38

Front and rear disc brake (03_36, 03_37, 03_38, 03_39)

NOTE

THIS VEHICLE IS FITTED WITH FRONT AND REAR DISC BRAKES WITH INDEPENDENT HYDRAULIC CIRCUITS. THE FOLLOWING INFORMATION REFERS TO ONE BRAKING CIRCUIT BUT IS VALID FOR BOTH.

CAUTION

BRAKES ARE THE MOST IMPORTANT COMPONENTS TO ENSURE SAFETY AND THEREFORE THEY HAVE TO BE ALWAYS IN PERFECT CONDITIONS; CHECK THEM BEFORE EVERY RIDE.

A DIRTY DISC SMEARS THE PADS RESULTING IN POOR BRAKING. REPLACE DIRTY PADS AND CLEAN AGAIN THE DIRTY DISC USING A TOP QUALITY DEGREASING PRODUCT.

Pads wear check

CAUTION

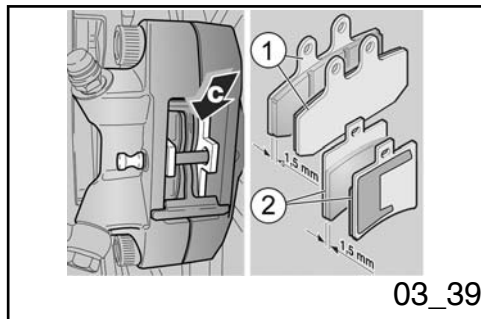
CARRY OUT THE OPERATIONS DESCRIBED BY WORKING FROM BOTH SIDES OF THE FRONT WHEEL AND FROM THE REAR WHEEL LEFT SIDE.

Check brake pad wear following the instructions on the scheduled maintenance table and according to the engine capacity. Disc brake pad wear depend on the use, the riding style and the roads.

CAUTION



CHECK BRAKE PADS FOR WEAR MAINLY BEFORE EACH RIDE.



To carry out a quick pad check:

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Carry out a visual check between discs and pads.

With a lamp and a mirror, proceed:

Front brake calliper

- From the front bottom side for the left pad «A»;
- From the front top side for the right pad «B»

Rear brake calliper

- From the back top side for both pads «C».

NOTE

EXCESSIVE WEAR OF THE FRICTION MATERIAL MAKES THE PAD METAL SUPPORT GET INTO CONTACT WITH THE DISC, WHICH RESULTS IN METALLIC NOISE AND SPARKS IN THE CALLIPER; THEREFORE, BRAKING EFFICIENCY AND DISC SAFETY AND INTEGRITY ARE AT RISK.

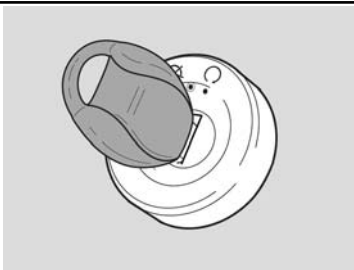
- Replace both brake pads when the friction material is worn (even if in just one brake pad) to about **1.5 mm** (or even if one of the wear indicators is no longer visible).

- Front pads «1»;

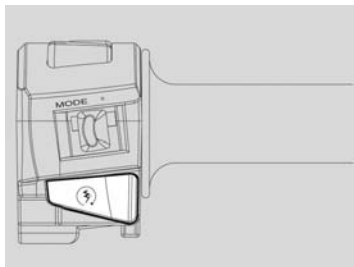
- Rear pads «2».

CAUTION

TAKE YOUR VEHICLE TO AN OFFICIAL APRILIA DEALER TO CARRY OUT THE REPLACEMENT.



03_40



03_41

Periods of inactivity (03_40, 03_41)

Take some measures to avoid the side effects of not using the vehicle.

Besides, it is necessary to carry out general repairs and checks before garaging the vehicle as one can forget to do so afterwards.

Proceed as follows:

- Empty the fuel tank and the carburettor completely.
- Remove the spark plug.
- Pour one teaspoonful (5 - 10 cm³) of engine oil into the cylinder.

NOTE



PLACE A CLEAN CLOTH ON THE CYLINDER NEXT TO THE SPARK PLUG SEAT TO PROTECT IT FROM POSSIBLE OIL SPLASHES.

- Set the ignition switch to «**ON**» and press the engine starter button for some seconds to distribute the oil evenly on the cylinder surfaces.
- Remove the protection cloth.
- Refit the spark plug.
- Remove the battery.
- Wash and dry the vehicle.
- Wax painted surfaces.
- Inflate tyres.
- Position the vehicle on a specific support stand so that both tyres are not in contact with the ground.
- Keep the vehicle in a cool and dry place, not exposed to sunlight or marked temperature variations.
- Cover the muffler exhaust end with a plastic bag so that it does not get wet.
- Do not use plastic or waterproof materials to cover the vehicle.

AFTER STORAGE

- Uncover and clean the vehicle.
- Check the battery for correct charge and install it.
- Refill the fuel tank.
- Carry out the preliminary check-ups.

CAUTION

AS A TEST, RIDE THE VEHICLE FOR A FEW KILOMETRES AT A MODERATE SPEED AND AWAY FROM TRAFFIC.

Cleaning the vehicle

Clean the vehicle frequently when riding in the following areas or conditions:

- Air pollution (cities and industrial areas)
- Salinity and humidity in the atmosphere (sea areas, hot and wet weather).
- Special ambient/seasonal conditions (use of salt, anti-icing chemical products on the roads in winter).
- Pay special care that industrial or polluting dust deposits do not form on the body-work and also remove tar stains, dead insects, bird droppings, etc.
- Avoid parking your vehicle under trees; during some seasons, actually some residues, resin, fruits or leaves containing chemical substances which damage the paint fall from trees.

CAUTION

AFTER CLEANING YOUR VEHICLE, BRAKING EFFICIENCY MAY BE TEMPORARILY AFFECTED DUE TO THE PRESENCE OF WATER ON THE FRICTION SURFACES OF THE BRAKING CIRCUIT. CALCULATE A LONGER BRAKING DISTANCE IN ORDER TO AVOID ACCIDENTS. BRAKE REPEATEDLY TO RESTORE NORMAL OPERATION. CARRY OUT THE PRELIMINARY CHECKS.

To remove dirt and mud deposited on the painted surfaces, use a low pressure water jet to soak all dirty parts carefully. Wipe off mud and dirt with a soft sponge for bodywork soaked in a lot of water and shampoo (2 - 4% parts of shampoo in water).

Then rinse with plenty of water, and dry with a chamois leather. To clean the engine outer parts, use degreasing detergent, brushes and old cloths.

CAUTION

TO CLEAN THE HEADLIGHTS USE A SPONGE SOAKED IN WATER AND MILD DETERGENT, RUBBING THE SURFACE GENTLY AND RINSING FREQUENTLY WITH PLENTY OF WATER.

REMEMBER TO CLEAN THE VEHICLE CAREFULLY BEFORE ANY POLISHING WITH SILICON WAX.

DO NOT POLISH MATT PAINTWORK WITH ABRASIVE PASTES.

THE VEHICLE SHOULD NEVER BE WASHED IN DIRECT SUNLIGHT, ESPECIALLY DURING SUMMER, WITH THE BODYWORK STILL HOT, AS THE SHAMPOO CAN DAMAGE THE PAINTWORK IF IT DRIES BEFORE BEING RINSED OFF.

DO NOT USE LIQUIDS AT TEMPERATURES OVER 40 °C WHEN CLEANING PLASTIC PARTS OF THE VEHICLE.

DO NOT DIRECT HIGH PRESSURE WATER OR AIR OR STEAM JETS TO THE FOLLOWING PARTS: WHEEL HUBS, CONTROLS ON THE RIGHT AND LEFT SIDES OF THE HANDLEBAR, BEARINGS, BRAKE PUMPS, INSTRUMENTS AND GAUGES, MUFFLER EXHAUST, GLOVE-BOX/TOOL KIT, IGNITION SWITCH /STEERING LOCK, RADIATOR FINS, FUEL TANK CAP, HEADLAMPS AND ELECTRICAL CONNECTIONS.

DO NOT USE ALCOHOL, PETROL OR SOLVENTS TO CLEAN RUBBER AND PLASTIC PARTS. USE ONLY WATER AND NEUTRAL SOAP INSTEAD. DO NOT USE SOLVENTS OR PETROL BY-PRODUCTS (ACETONE, TRICHLOROETHYLENE, TURPENTINE, PETROL, THINNERS) TO CLEAN THE SADDLE. USE INSTEAD DETERGENTS WITH SURFACE ACTIVE AGENTS NOT EXCEEDING 5% (NEUTRAL SOAP, DEGREASING DETERGENTS) OR ALCOHOL. DRY THE SADDLE WELL AFTER CLEANING.

CAUTION

DO NOT APPLY PROTECTIVE WAX ON THE SADDLE OR IT MAY BECOME SLIPPERY.

Transport

CAUTION

BEFORE TRANSPORTING THE VEHICLE, EMPTY THE FUEL TANK WELL AND MAKE SURE IT IS PERFECTLY DRY.

DURING TRANSPORT, THE VEHICLE SHOULD BE AT ALL TIMES UPRIGHT AND WELL ANCHORED SO AS TO AVOID FUEL, OIL OR COOLANT LEAKS.

IN CASE OF FAILURE, DO NOT HAVE THE VEHICLE TOWED. CONTACT A ROAD ASSISTANCE SERVICE.

EMPTYING THE FUEL TANK

CAUTION

FIRE HAZARD.

WAIT UNTIL THE ENGINE AND THE MUFFLER ARE COLD.

FUEL VAPOURS ARE HARMFUL TO HEALTH.

BEFORE ANY OPERATION, MAKE SURE THAT THE ROOM WHERE YOU ARE HAS ADEQUATE AIR VENTILATION.

DO NOT INHALE FUEL VAPOURS.

DO NOT DISPOSE OF FUEL INTO THE ENVIRONMENT.

- Rest the vehicle on its centre stand.
- Shut off the engine and wait until it cools off.

- Take a container with more capacity than the amount of fuel in the tank and place it on the vehicle left hand side.
- Remove the fuel tank cap.
- To drain the fuel off the tank use a hand-operated pump or a similar system. Take care not to damage the pump unit (probe checking fuel level in the tank).

CAUTION

AFTER EMPTYING THE TANK, CLOSE THE FUEL TANK CAP.

SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 04
Technical data

VEHICLE TECHNICAL DATA

Specification	Desc./Quantity
Max. length	1965 mm
Max. width	730 mm
Max. height (to windscreen)	1130 mm
Saddle height	790 mm
Centre to centre distance	1360 mm
Minimum ground clearance	130 mm
Kerb weight	148 kg
Fuel (reserve included)	9 l
Fuel reserve	1.5 l
Engine oil - engine oil change and engine oil filter replacement	1100 cm ³
Transmission oil	250 cm ³
Coolant	1.5 l (50% water + 50% monoethylene glycol antifreeze fluid)
Seats	2
Vehicle max. load (rider + passenger + luggage)	210 kg
Transmission	continuous and automatic variator

Main transmission	V belt
Secondary transmission	Gear reduction unit
Engine/wheel total ratio	- minimum: 1:2.3 - maximum: 1:0.815
Chassis type	High-strength steel tubular chassis, single spar at the front, superimposed double cradle at the rear.
Steering inclination angle	25.5°
Front suspension	hydraulic telescopic fork
Front suspension travel	100 mm
Rear suspension	hydraulic double-acting shock absorber and adjustable preload
Rear suspension travel	80 mm
Front brake	Ø 260 mm twin disc brake with hydraulic transmission
Rear brake	Ø 220 mm disc brake with hydraulic transmission
Wheel rims	Made of light alloy
Front wheel rim	2.75 x 15"
Rear wheel rim	3.00 x 15"

Tyre type	Without inner tube (tubeless)
Front tyre	120 / 70 - 15" 56 P
Rear tyre	130 / 80 - 15" 63 P
Front tyre standard inflation pressure	200 kPa (2.0 bar)
Rear tyre standard inflation pressure	200 kPa (2.0 bar)
Front tyre standard inflation pressure with passenger	200 kPa (200 bar)
Rear tyre standard inflation pressure with passenger	230 kPa (2.3 bar)
Battery	12V - 12 Ah
Fuses	20- 15- 7.5 A
Generator (permanent magneto)	12V - 300W

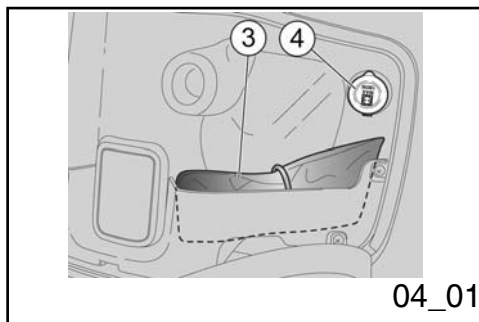
ENGINE TECHNICAL DATA

Specification	Desc./Quantity
Engine model	M288M
Engine type	Single-cylinder, 4-stroke, 4 valves, wet sump forced lubrication system, overhead camshaft.

Overall engine capacity	244.29 cm ³
Bore / stroke	72 mm / 60 mm
Compression ratio	11.0 ± 0.5 : 1
Ignition	Electric
Engine revs at idle speed	1600 ± 100 rpm
Clutch	Automatic centrifugal dry clutch
Transmission	Automatic
Cooling	Forced-circulation air cooling driven by a centrifugal pump
Valve clearance	Inlet: 0.10 Outlet: 0.15
Throttle body diffuser (throttle body Ø)	Electronic injection Ø 32 mm
Fuel supply	Vacuum pump
Fuel	Premium leaded petrol (4 Stars UK) or unleaded petrol, with a minimum octane rating of 95 (NORM) and 85 (NOMM)
Ignition	Capacitive discharge ignition at variable advance
Spark plug	CHAMPION RG4 - PHP

BULBS/WARNING LIGHTS

Specification	Desc./Quantity
High-/low-beam bulb	12 V - 55 W - H7
Tail light bulb	12V - 3W
Turn indicators bulb	12V - 10W
Rear tail light /stop light bulb	12V - 5/21W
License plate light bulb	12V - 5W
Dashboard light bulb	LED
Turn indicator warning light	LED
High-beam warning light	LED
Low fuel warning light	LED
EFI warning light	On the LCD display

**Kit equipment (04_01)**

The tool kit «3» is located in its housing, in the glove-box.

Open the glove-box.

The tools supplied are:

- toolkit pouch;
- twin screwdriver;
- 16 mm box-spanner;
- shock absorber wrench;
- 3 mm hex Allen key.

SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 05
Programmed
maintenance

Scheduled maintenance table

CAUTION



FIRE HAZARD.

FUEL OR ANY OTHER FLAMMABLE SUBSTANCES MUST NOT BE CLOSE TO ELECTRICAL COMPONENTS.

BEFORE ANY MAINTENANCE OPERATION OR INSPECTION ON THE VEHICLE, SHUT OFF THE ENGINE AND REMOVE THE KEY. WAIT UNTIL THE ENGINE AND THE EXHAUST SYSTEM ARE COLD, IF POSSIBLE LIFT THE VEHICLE WITH A SPECIFIC TOOL ON A FIRM AND LEVEL GROUND.

BEFORE ANY OPERATION, MAKE SURE THAT THE ROOM WHERE YOU ARE HAS ADEQUATE AIR VENTILATION.

TO AVOID BURNS PAY SPECIAL CARE WITH HOT ENGINE AND EXHAUST SYSTEM PARTS.

DO NOT HOLD ANY MECHANICAL OR OTHER VEHICLE PARTS WITH YOUR MOUTH: VEHICLE COMPONENT ARE NOT EDIBLE, ON THE CONTRARY SOME OF THEM ARE HARMFUL AND EVEN TOXIC.

NOTE

UNLESS OTHERWISE INDICATED, REFIT THE UNIT FOLLOWING THE REMOVAL STEPS BUT IN REVERSE ORDER.

WHEN CARRYING OUT MAINTENANCE OPERATIONS, IT IS ADVISABLE TO WEAR LATEX GLOVES.

In general routine maintenance operations can be carried out by the user; in some cases it is necessary to use specific tools and have some technical knowledge.

If you need assistance or technical advice, consult an **Official aprilia Dealer** who will provide

a precise and quick service.

Ask your **Official aprilia Dealer** to test the vehicle on the road after a repair but nonetheless, personally carry out the Preliminary Checks after a maintenance operation.

PERIODIC MAINTENANCE CHART

Adequate maintenance is fundamental to ensuring long-lasting, optimum operation and performance of your vehicle.

For this purpose, aprilia offers a set of checks and maintenance services (for payment), which are included in the summary table shown on the following page. Any minor faults should be reported without delay to any **Official aprilia Dealer** without waiting until the next scheduled service to solve it.

Carrying out scheduled services on time is necessary to ensure your warranty remains valid. For any other information concerning Warranty procedures and Scheduled Maintenance, please refer to the Warranty Booklet.

EVERY 2 YEARS

Action

Coolant- Check

Brake fluid - Change

AFTER 1000 KM

Action

Safety locks - check

 Throttle lever - adjustment

 Oil filter - replace

 Electrical system and battery - check

 Coolant level - check

 Brake fluid level - check

 Engine oil - Change

 Brake pad wear - check

 Tyre pressure and wear - check up

 Vehicle and brake test - test ride

 Hub oil - Change

 Steering - check up

**AFTER 5000 KM; 25,000 KM; 35,000 KM; 55,000 KM
AND 65,000 KM**

Action

 Engine oil - Level check/topping-up

 Brake pad wear - check

AFTER 10,000 KM, 50,000 KM AND 70,000 KM

Action

Safety locks - check
Throttle lever - adjustment
Air filter - cleaning
Air filter in belt compartment - Check
Engine oil filter - Replace
Electrical system and battery - check
Coolant level - check
Brake fluid level - check
Engine oil - Change
Brake pad wear - check
Tyre pressure and wear - check up
Vehicle and brake test - test ride
Hub oil - Check
Suspension - Check
Steering - check up
Sliding block/ variable speed rollers - Replacement

AFTER 15,000 KM, 45,000 KM AND 75,000 KM

Action
Engine oil - Level check/topping-up
Brake pad wear - check

AFTER 20,000 KM, 40,000 KM AND 80,000 KM

Action
Spark plug - Replacement
Driving belt - Replacement
Throttle lever - adjustment
Air filter - cleaning
Air filter in belt compartment - Check
Engine oil filter - Replace
Valve clearance - check
Electrical system and battery - check
Coolant level - check
Brake fluid level - check
Engine oil - Change
Brake pad wear - check
Sliding block/ variable speed rollers - Replacement
Tyre pressure and wear - check up
Vehicle and brake test - test ride
Hub oil - Change
Suspension - Check
Steering - check up

AFTER 30,000 KM**Action**

Safety locks - check

Throttle lever - adjustment

Air filter - cleaning

Air filter in belt compartment - Check

Engine oil filter - Replace

Electrical system and battery - check

Coolant level - check

Brake fluid level - check

Engine oil - Change

Brake pad wear - check

Sliding block/ variable speed rollers - Replacement

Tyre pressure and wear - check up

Vehicle and brake test - test ride

Hub oil - Check

Suspension - Check

Steering - check up

AFTER 60,000 KM**Action**

Spark plug - Replacement
Driving belt - Replacement
Throttle lever - adjustment
Air filter - cleaning
Air filter in belt compartment - Check
Engine oil filter - Replace
Valve clearance - check
Electrical system and battery - check
Coolant level - check
Brake fluid level - check
Engine oil - Change
Brake pad wear - check
Sliding block/ variable speed rollers - Replacement
Tyre pressure and wear - check up
Vehicle and brake test - test ride
Hub oil - Change
Suspension - Check
Steering - check up

RECOMMENDED PRODUCTS TABLE

Product	Description	Specifications
----------------	--------------------	-----------------------

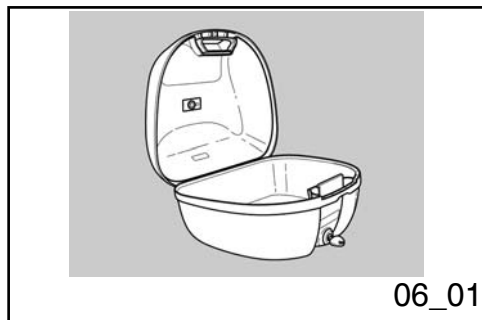
AGIP CITY HI TEC 4T	Engine oil	API SL, ACEA A3, JASO MA
AGIP GEAR SYNTH SAE 75W-90	Transmission oil	API GL4, GL5
AGIP FORK 5W or FORK 20W	Fork oil	-
AGIP GREASE SM2	Lithium grease with molybdenum for bearings and other points needing lubrication	NLGI 2
AGIP BRAKE FLUID DOT 4	Brake fluid	FMVSS DOT4+
AGIP PERMANENT PLUS	Coolant	CUNA NC 956-16

SPORTCITY

250 i.e.



Chap. 06
Special fittings



Luggage rack (06_01)

ADDITIONAL HELMET CASE (OPT)

- Insert the key in the opening lock of the helmet case.
- Turn the key anticlockwise.
- Lift the cover «5» of the helmet case.
- To lock the helmet case cover, lower and press it (without forcing it) to trip the lock.

NOTE

BEFORE RIDING, MAKE SURE THAT THE HELMET CASE COVER IS CORRECTLY LOCKED.

CAUTION

TO ENHANCE STABILITY, TOGETHER WITH THE HELMET CASE FIT THE BALANCE COUNTERWEIGHTS ON THE HANDLEBAR, SUPPLIED WITH THE ORIGINAL APRILIA HELMET CASE.



THE VALUE OF SERVICE

Thanks to continuous technical updates and specific training programs on aprilia products, only **aprilia Official Network** mechanics know this vehicle fully and have the special tools necessary to carry out maintenance and repair operations correctly.

The reliability of the vehicle also depends on its mechanical conditions. Checking the vehicle before riding it, its regular maintenance and the use of **Original aprilia Spare Parts** only are essential factors!

For information about the nearest **Official Dealer and/or Service Centre**, consult the Yellow Pages or search directly on the inset map in our Official Website:

www.aprilia.com

Only aprilia Original Spare Parts ensure products already studied and tested during the vehicle design stage. All aprilia Original Spare Parts undergo quality control procedures to guarantee full reliability and duration.

The descriptions and illustrations given in this publication are not binding; While the basic characteristics as described and illustrated in this manual remain unchanged, aprilia reserves the right, at any time and without being required to update this publication beforehand, to make any changes to components, parts or accessories, which it considers necessary to improve the product or which are required for manufacturing or construction reasons.

Not all versions shown in this publication are available in all Countries. The availability of individual versions should be confirmed with the official aprilia sales network.

© Copyright 2006- aprilia. All rights reserved. Reproduction of this publication in whole or in part is prohibited. aprilia - After sales service.

aprilia trademark is property of Piaggio & C. S.p.A.

